

平成29年度

市原市内遺跡発掘調査報告

福増中ノ台遺跡

姉崎台遺跡（第2地点）

郡本遺跡群（第23次）・市原古道遺跡

柏原遺跡群（第2地点）

海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
（重要遺跡確認調査）

2018

市原市教育委員会

平成29年度

市原市内遺跡発掘調査報告

ふくますなかのだい
福増中ノ台遺跡

あねさきだい
姉崎台遺跡（第2地点）

こおりもと 郡本遺跡群（第23次）・いちはらこどう 市原古道遺跡

かしわばら
柏原遺跡群（第2地点）

かいほくようづかぐん 海保供養塚群・かいほおおつか 海保大塚遺跡（第3地点）
（重要遺跡確認調査）

2018

市原市教育委員会

例 言

- 1 本書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 本書所収の調査は以下のとおりである。所在地等の諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。
 - (1) 福増中ノ台遺跡(調査コード セ552)
確認調査 75 m² / 2,406 m²
調査期間：平成29年2月1日～2月16日 担当 近藤 敏
 - (2) 姉崎台遺跡(第2地点)(調査コード セ554)
確認調査 187 m² / 1,873.39 m²
調査期間：平成29年5月22日～6月14日 担当 近藤 敏・中野喬介
 - (3) 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡(調査コード セ555)
確認調査 122.5 m² / 1,036.81 m²
調査期間：平成29年6月15日～6月29日 担当 近藤 敏・中野喬介
 - (4) 柏原遺跡群(第2地点)(調査コード セ557)
確認調査 488.5 m² / 4,922.87 m²
調査期間：平成29年8月1日～8月30日 担当 近藤 敏
 - (5) 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)(重要遺跡確認調査)(調査コード セ556)
確認調査 450 m² / 11,908 m²
調査期間：平成29年7月3日～10月4日 担当 小橋健司・中野喬介
- 4 整理作業・本文執筆は各担当が行い、編集は小橋健司・近藤 敏が行った。
- 5 各遺跡の調査に際し、基準点測量を実施したのは福増中ノ台遺跡、海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)のみである。これ以外の遺跡の図中に示した座標値及び北方位は、地形図等から求めたもので、厳密なものではない。また、水準は遺跡近隣の市原市管理の既知点から求めて使用している。
- 6 福増中ノ台遺跡は、前年度終盤に調査したため、今年度の整理・報告の対象とした。また今年度は、鬼子母神貝塚(調査コード セ558)と郡本遺跡群(第25次)(調査コード セ560)の調査も実施したが、整理期間がとれないため次年度の報告とする。
- 7 遺物写真(図版11～14)の縮尺は基本的に実測図に準じ、例外は注記した。

本文目次

1 調査遺跡の位置と概要	1
2 福増中ノ台遺跡	3
3 姉崎台遺跡(第2地点)	7
4 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡	16
5 柏原遺跡群(第2地点)	21
6 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)(重要遺跡確認調査)	28

挿図目次

第1図 調査遺跡位置図	2
第2図 福増中ノ台遺跡 平面図・断面図(1)	4
第3図 福増中ノ台遺跡 断面図(2)	5
第4図 福増中ノ台遺跡 周辺地形図	6
第5図 福増中ノ台遺跡 出土遺物 実測図	6
第6図 姉崎台遺跡(第2地点) 周辺地形図	9
第7図 姉崎台遺跡(第2地点) 平面図	10
第8図 姉崎台遺跡(第2地点) 断面図(1)・出土遺物 実測図(1)	11
第9図 姉崎台遺跡(第2地点) 断面図(2)	12
第10図 姉崎台遺跡(第2地点) 断面図(3)・出土遺物 実測図(2)	13
第11図 姉崎台遺跡(第2地点) 出土遺物 実測図(3)	14
第12図 姉崎台遺跡(第2地点) 出土遺物 実測図(4)	15
第13図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 周辺地形図	17
第14図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 平面図	18
第15図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 断面図(1)	19
第16図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 断面図(2)・出土遺物 実測図	20
第17図 柏原遺跡群(第2地点) 周辺地形図	22
第18図 柏原遺跡群(第2地点) 平面図(1)・断面図(1)	23
第19図 柏原遺跡群(第2地点) 断面図(2)	24
第20図 柏原遺跡群(第2地点) 平面図(2)・断面図(3)	25
第21図 柏原遺跡群(第2地点) 出土遺物 実測図(1)	26
第22図 柏原遺跡群(第2地点) 出土遺物 実測図(2)	27
第23図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 周辺地形図	29
第24図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 全体図	30
第25図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(1)・断面図(1)・出土遺物 実測図(1)	32

第26図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（2）・断面図（2）	34
第27図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（3）・断面図（3）	35
第28図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（4）・断面図（4）	37
第29図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（5）・断面図（5）	39
第30図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（6）・断面図（6）	40
第31図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）出土遺物 実測図（2）	41
第32図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（7）・断面図（7）	43
第33図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点） 平面図（8）・断面図（8）・出土遺物 実測図（3）	44
第34図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（9）・断面図（9）	45
第35図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（10）・断面図（10）	47
第36図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（11）・断面図（11）	49
第37図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）平面図（12）・断面図（12）	51
第38図	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）出土遺物 実測図（4）	52

表 目 次

出土遺物観察表	59
---------	----

図 版 目 次

図版1	遺構	福増中ノ台遺跡／姉崎台遺跡（第2地点）
図版2	遺構	郡本遺跡群（第23次）・市原古道遺跡／柏原遺跡群（第2地点）
図版3	遺構	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版4	遺構	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版5	遺構	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版6	遺構	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版7	遺構	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版8	遺構	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版9	遺構	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版10	遺物	姉崎台遺跡（第2地点）／海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版11	遺物	福増中ノ台遺跡／姉崎台遺跡（第2地点）
図版12	遺物	姉崎台遺跡（第2地点）／郡本遺跡群（第23次）・市原古道遺跡／ 柏原遺跡群（第2地点）
図版13	遺物	柏原遺跡群（第2地点）／海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）
図版14	遺物	海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）

1 調査遺跡の位置と概要

平成29年度は、姉崎台遺跡(第2地点)、郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡、柏原遺跡群(第2地点)、鬼子母神貝塚、海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)、郡本遺跡群(第25次)の6か所の発掘調査を行った。調査遺跡はいずれも市の北部に位置し、調査原因は宅地造成が2か所、集合住宅建設、幼稚園建設、遺跡整備、個人住宅建設が各1か所である。

本書では今年度前半までに調査した4遺跡に加えて、平成28年度末に調査を行った福増中ノ台遺跡について掲載した。平成29年度後半以降調査の鬼子母神貝塚、郡本遺跡群(第25次)については来年度の対象とする(第1図)。

福増中ノ台遺跡は、養老川中流右岸の沖積面から40m以上の標高差がある台地上に位置している。近隣には弥生時代後期集落跡のほぼ全容が明らかになった武士遺跡調査区(田村・加納1996)があり、谷に区切られたその北西側に同時期の居住域を確認した。養老川中流域、旧三和町地域は発掘調査例が多く、福増中ノ台遺跡眼下には武士古墳群(永沼1996)が存在する。古代に拠点の様相を示していく地域に、前史となる弥生時代後期集落遺跡の事例が増えたことになる。

姉崎台遺跡(第2地点)は、約半世紀前の隣接地点に続く調査である。姉崎台遺跡は式内社の姉崎神社の所在する姉崎台地区のほぼ全域を範囲とし、今回調査区は最も高所に位置する。弥生時代後期から古墳時代後期までの集落遺跡を確認したが、古墳周溝等墓域の検出はなく、姉崎古墳群分布域における長期継続型の拠点集落と推測される。

郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡は、約1km四方に及ぶ郡本遺跡群内の市原郡衙推定地南側周縁部に当たる。市原古道遺跡は南に隣接する稲荷台遺跡の東辺部を南北に縦断し、郡本遺跡群内に進入するが、今回の調査では近世以降の削平の影響によるものか検出されなかった。建物遺構も検出されなかったが、近隣では弥生時代から中世に至る各種遺構が確認されており、今回調査区の隣接西側においても、竪穴建物跡が試掘で検出されている。

柏原遺跡群(第2地点)は、養老川河口低地部の砂丘帯上に位置する。縄文時代後期中葉の遺物包含層が調査区中央低地部分に検出された。調査区内には縄文時代の遺構は検出されず、近世以降の屋敷を巡る溝跡や近世以降の建物跡等が検出された。そのため、砂丘地形の高い部分にある縄文時代等の遺構は、削平された可能性が高いと考えられる。

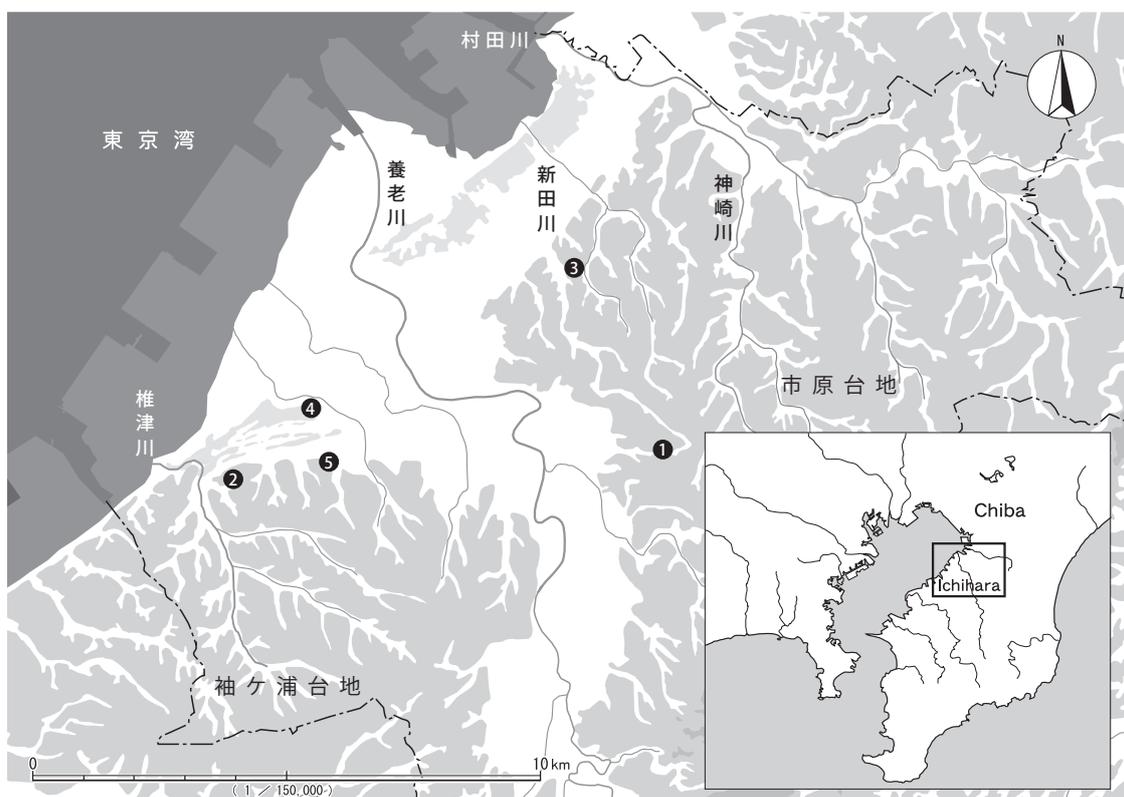
海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)の海保大塚については、『関東地方における終末期古墳の研究』において注目され、測量調査が行われたが(杉山・高橋・風間1990)、これまで発掘調査の機会はなく、遺跡整備を目的とする今回の確認調査が初めての発掘調査である。群中最大の海保大塚は、調査の結果、墳丘直径60m、周溝外周直径約83mの大型円墳が六角形6段の塚に改変されていることが明らかになった。海保供養塚群はほかに2基の塚があり、方形3段の三山塚の下層にも円墳が確認された。供養塚群下層には、弥生時代後期以降の竪穴建物跡が7棟検出されている。

三山塚下層の古墳は周溝出土遺物から、古墳時代中期前半の築造と推定できるが、隣接する海保大塚遺跡(第2地点)の本調査でも、同様の円墳が検出されており、海保大塚に改変された大型円墳は、古墳時代中期初頭前後に築造された可能性が高くなった。今回の調査により海保大塚が周溝の伴う県内最大級の円墳として把握されたことは、今後、姉崎古墳群の展開過程を検討する際の基礎資料

として役立つと思われる。

引用参考文献

- 大山祐喜他2014『市原市海保地区遺跡群I 海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡・海保大塚遺跡』国際文化財株式会社
近藤 敏2017「海保大塚遺跡(第2地点)」『平成28年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
杉山晋作・高橋 学・風間栄一1990「海保大塚遺跡の測量調査」『関東地方における終末期古墳の研究』白石太一郎
田村 隆・加納 実他1996『市原市武士遺跡1』(財)千葉県文化財センター
千葉県教育委員会1994『千葉県重要古墳群測量調査報告書 一市原市姉崎古墳群一』
永沼律朗1996『千葉県重要古墳群測量調査報告書 一市原市安須・武士古墳群ほか一』千葉県教育委員会



- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ① 福増中ノ台遺跡 | ④ 柏原遺跡群(第2地点) |
| ② 姉崎台遺跡(第2地点) | ⑤ 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) |
| ③ 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 | |

第1図 調査遺跡位置図

2 福増中ノ台遺跡

遺跡位置 遺跡は養老川中流域右岸市原台地の西辺にあたり、白幡川最上流部と神崎川支谷が収束する台地尾根上に立地する(第4図①)。調査地点は標高72m前後の台地縁辺の平坦部から、標高約30mの河岸段丘面からの支谷が台地を開析する谷頭にかけて位置する。隣接地では武士遺跡(②半田他1976)の調査が行われ、弥生時代竪穴建物跡、方形周溝状遺構等が検出されている。武士遺跡県調査区(③田村・加納他1996)からは北西に約300m離れ、武士遺跡の弥生時代後期集落とは別集落と考えられる。北側周辺部でも福増遺跡群(渡邊・吉野1999、田中2002、小川2002)があり、西側の養老川中流域においても叶台遺跡(大村1992)の弥生時代中期集落や、新殿古墳群下層(木對2010)等の弥生時代後期の遺構が検出されている。

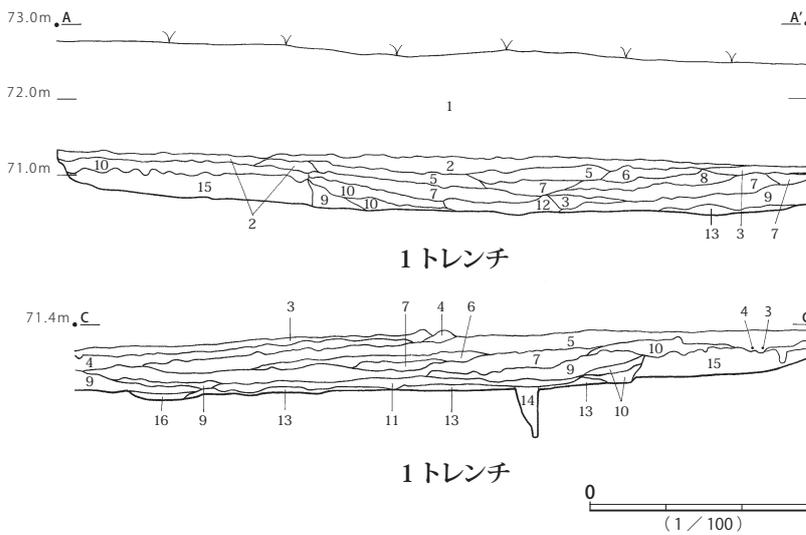
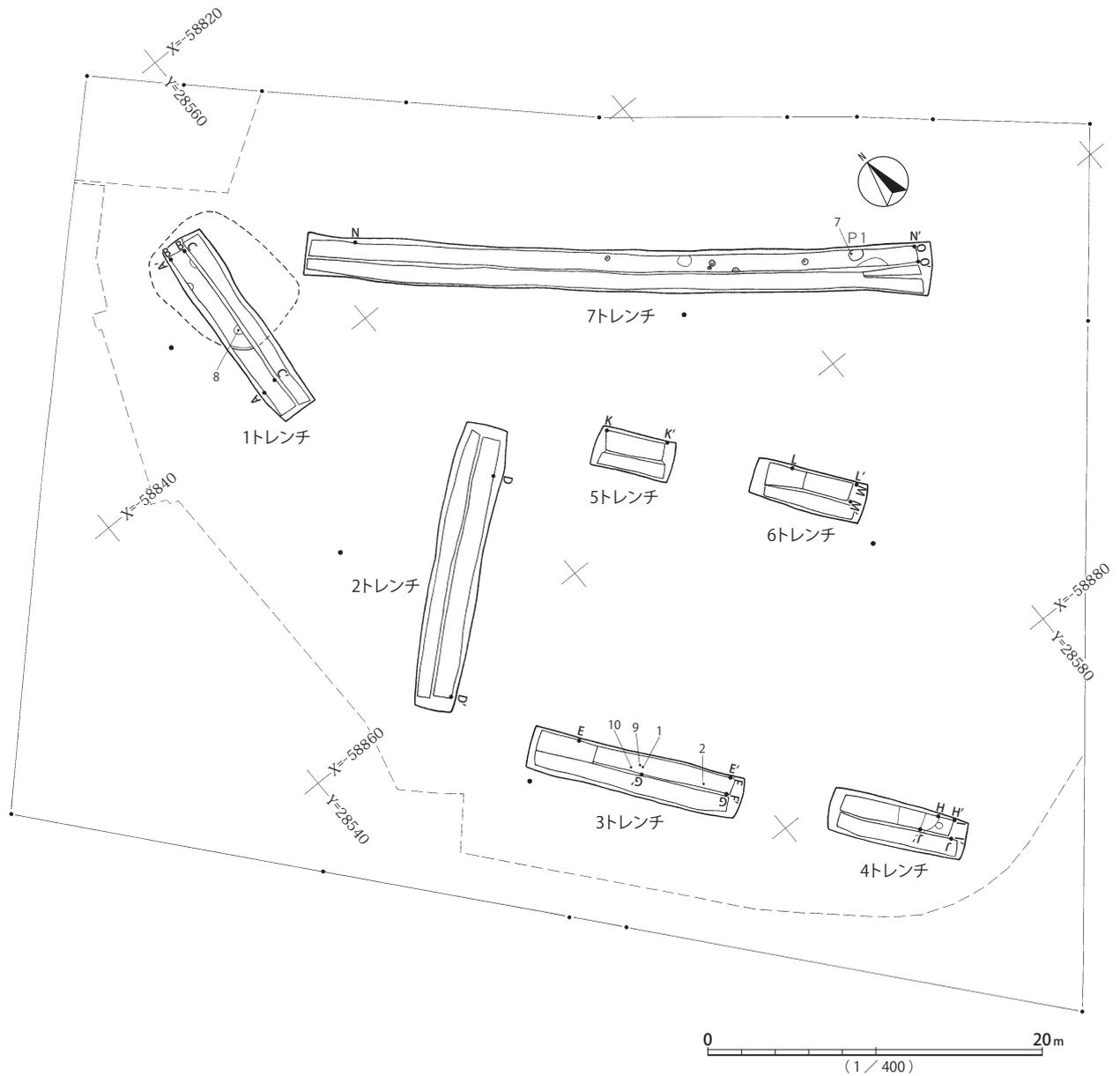
遺構 調査区は資材置き場として造成されており、断面観察では平坦部のほぼ全域に表土除去の痕跡があり、その後砂利等で客土された状況が認められる。1トレンチの弥生時代後期竪穴建物跡の黒色覆土にも削平痕跡が認められた。遺構検出面は第2図のソフトローム漸移層上面である。7トレンチでは、遺構確認面まで削平が激しい中、縄文時代早期(条痕文系土器)の炉穴と、弥生時代後期土器を伴う土坑が検出された。第2・3図の2～6トレンチからは、明確な遺構は検出されなかった。

遺物 帰属する遺構が明確な遺物は、1トレンチの竪穴覆土から第5図8の壺形土器片等が出土しており、7トレンチの土坑覆土からは第5図7の鉢形土器片が出土している。3トレンチの遺物は、第5図1の土師器杯片と10の布目瓦片等であり、2～5は縄文時代早期条痕文系土器の破片、6は縄文時代後期の深鉢の口縁部片である。9は旧石器時代の尖頭器であるが、断面形状が三角形を呈し一側面のみ調整である。これら遺構外の遺物は、昭和60年頃の地形図と照合すると道路跡の位置に集中しているので、混在して埋没したと考えられる。

本遺跡は確認調査の結果をふまえ、平成30年2月に本調査を実施した。

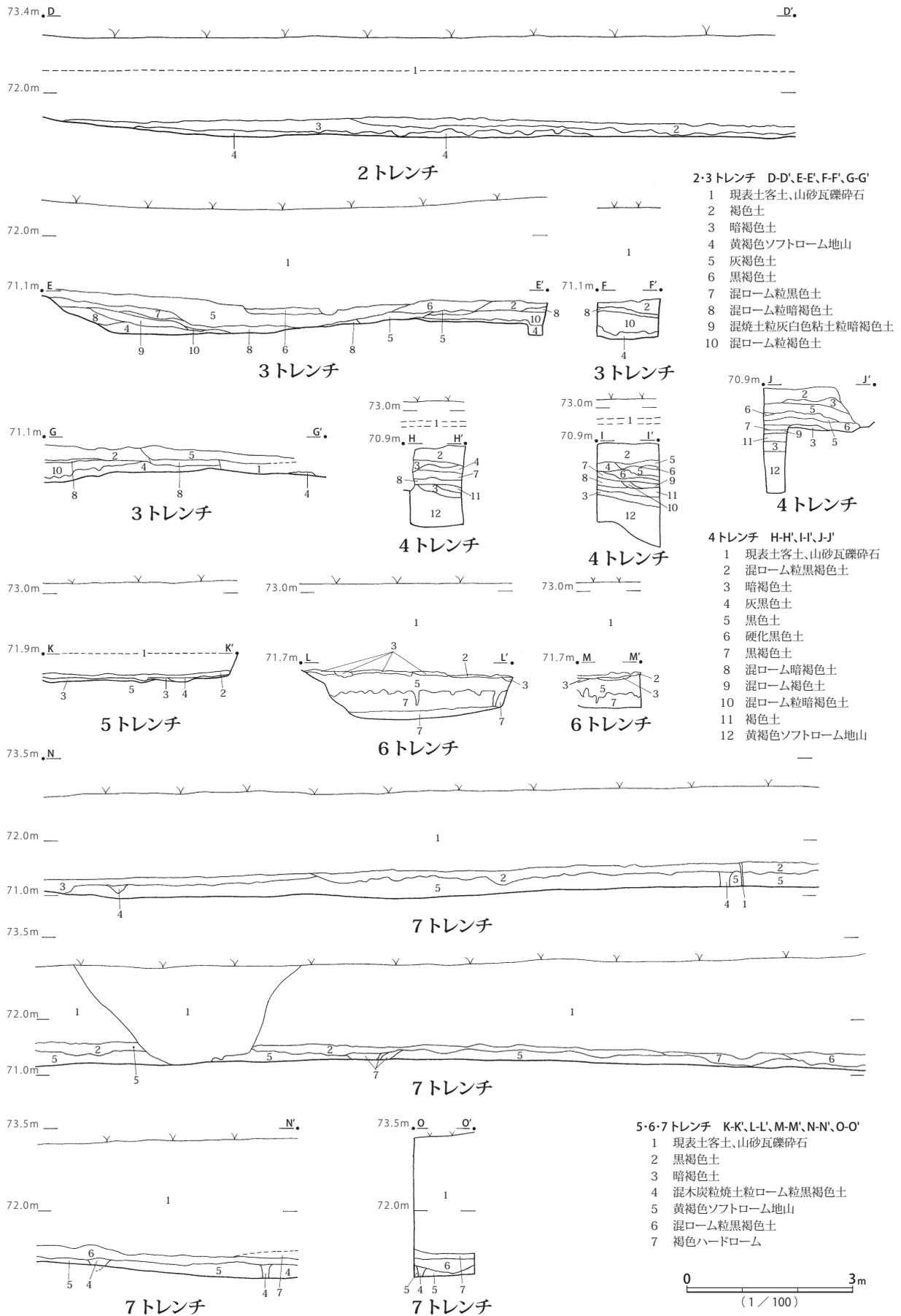
引用参考文献

- 浅利幸一 1989『福増山ノ神遺跡発掘調査報告書』(財)市原市文化財センター調査報告書第33集
- 大村 直 1992『市原市叶台遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告書第44集
- 小川浩一 2002「福増遺跡群大清水遺跡(本調査)」『市原市文化財センター年報』平成11年度
- 小川浩一 2009『市原市山田遺跡群』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第9集
- 木對和紀 2010『市原市新殿古墳群』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第13集
- 田中清美 2002「福増遺跡群大清水遺跡(確認調査)」『市原市文化財センター年報』平成11年度
- 田村 隆・加納 実他 1996『市原市武士遺跡1』(財)千葉県文化財センター調査報告第289集③
- 半田堅三・須田 勉・米田耕之助 1976『武士遺跡』武士遺跡発掘調査団②
- 半田堅三 1997「福増大清水遺跡」『市原市文化財センター年報』平成6年度
- 牧野光隆 2010『市原市小ノ台遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第15集
- 米田耕之助 1986『山田大宮遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告書第8集
- 渡邊高弘・吉野健一 1999『市原市福増遺跡』(財)千葉県文化財センター調査報告第366集

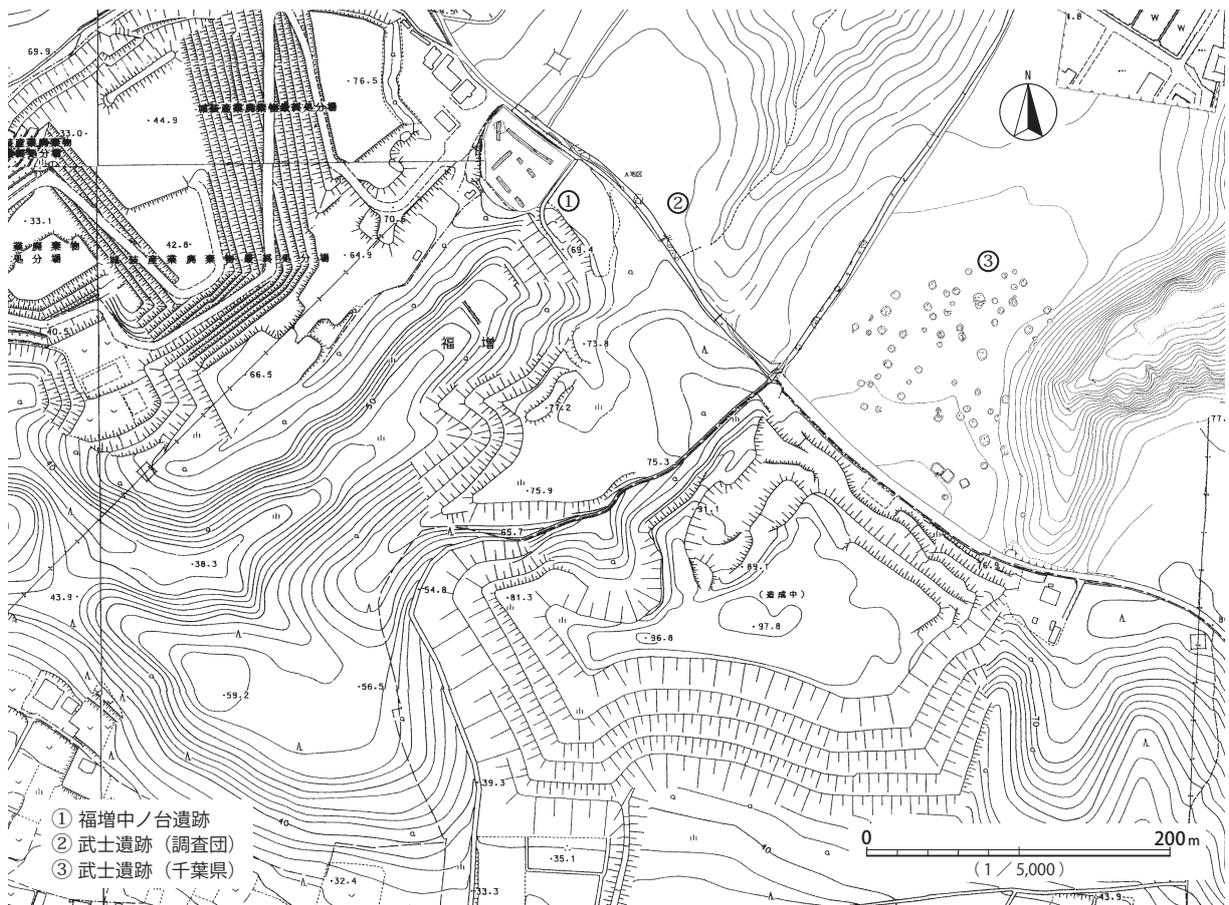


- 1トレンチ A-A', B-B', C-C'
- 1 現表土客土、山砂瓦礫碎石
 - 2 混ローム粒斑点暗褐色黒褐色土
 - 3 黒褐色土
 - 4 黒色土
 - 5 混ローム粒黒褐色土
 - 6 混ローム粒暗褐色土
 - 7 混ローム粒黒色土
 - 8 混焼土粒黒色土
 - 9 混ローム褐色土
 - 10 暗褐色土
 - 11 混黒褐色土褐色土
 - 12 混斑点状暗褐色土黒色土
 - 13 混ロームブロック褐色土貼床
 - 14 褐色土柱穴埋土
 - 15 黄褐色ソフトローム地山
 - 16 混焼土粒褐色土

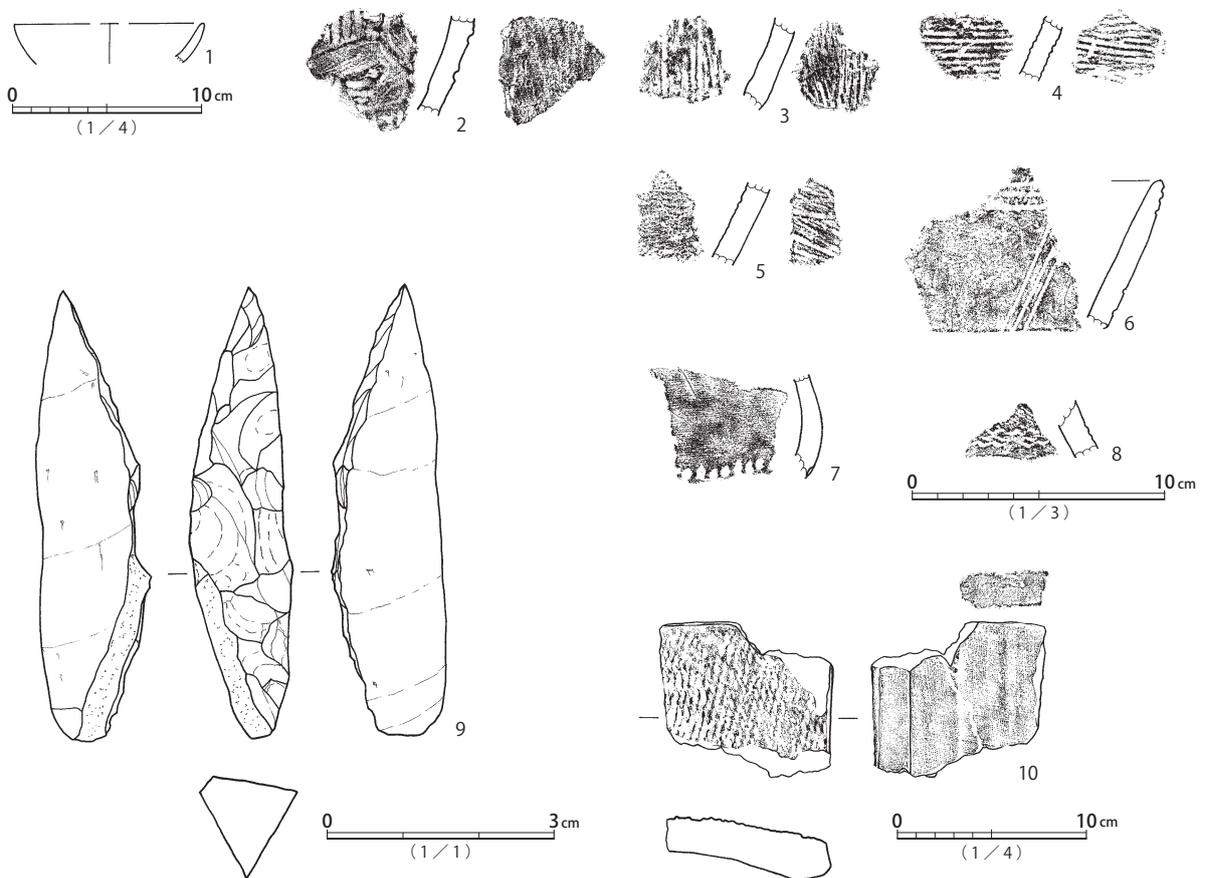
第2図 福増中ノ台遺跡 平面図・断面図(1)



第3図 福増中ノ台遺跡 断面図(2)



第4図 福増中ノ台遺跡 周辺地形図



第5図 福増中ノ台遺跡 出土遺物 実測図

3 姉崎台遺跡（第2地点）

遺跡位置 今回の調査区域は、海岸平野を見下ろす姉崎台地北辺部、標高37m前後の東西方向に長いT字形横線部状の台地平坦面に位置している（第6図①）。姉崎台遺跡調査地点（②千葉県教育委員会1970）から北東方向へ20m離れた隣接地にあり、調査区周辺は昭和30年代の地形図では、姉崎台地区で最も高い位置にあった。姉崎台遺跡第2地点は、姉崎神社が鎮座する姉崎宮山遺跡（④大村1991）と同一台地の東側に位置している。その台地西側には、釈迦山古墳⑤、山王山古墳⑥、御社古墳⑦と4～6世紀の首長墓級の前方後円墳が集中している。東側は姉崎台城跡（⑨北見2016）と遺跡範囲が重複しており、県史跡姉崎天神山古墳⑩は、姉崎台遺跡の北東部にあたる。南方のT字形縦線部分には、鶴窪古墳（③姉崎鶴窪古墳調査団2002）が隣接しており、さらに原遺跡調査地点（⑧越川1984）が続く。調査区東側隣接には、鬼子母神貝塚（第6図⑩、平成29年度後半に調査）が環状に展開しており（網点：貝層）、姉崎台遺跡の中心的な縄文時代遺跡となっている。姉崎台遺跡北辺下の海岸平野には、山新遺跡⑭が砂丘帯上に展開しており、遺跡範囲内には県史跡姉崎二子塚古墳がある。中世集落跡を検出した棗塚遺跡も第5次まで調査を重ね、古墳時代後期以降の遺構も検出されている（⑫⑬⑮⑯⑰）。六孫王原遺跡G区（田中2016）には、古代道の伝路が検出されており、鶴窪古墳③と原遺跡⑧間を通り抜けて、台地下の棗塚遺跡⑬の道路跡へ続き、南北方向に姉崎古墳群を縦断するルートをとると推測される。

調査概要 今回の第2地点の調査区は、南側辺と東側辺が道路用地である（第7図）。調査区のほぼ全面に検出された古墳時代後期以降の竪穴建物跡は、第1地点の遺構群と同一集落を形成する可能性が高い。集落の形成時期は遅くとも、調査区南側で検出された弥生時代後期の竪穴建物跡の出現まで遡ると考えられる。縄文時代の遺物は後期から晩期まで出土したが、遺構は検出されなかった。

各トレンチの土層断面の観察では、1～6・11・18トレンチ部分の遺構確認面が表土下1m前後とやや深い。調査区北辺の道路を境に基盤面が2m以上低くなっているため、開析支谷の侵食により、北方向にローム基盤が傾斜していると推定される。

遺構 1・2・4トレンチはローム層上面まで攪乱を激しく受け（第8図）、遺構は検出されなかった。6・7トレンチ（第7図）も遺構は認められない。3・11トレンチでは北東、南西方向に通る溝状遺構を1条検出した。断面は逆台形状を呈し、大量の白黄色粘土が覆土に充填されている。遺物もなく性格は不詳だが、新旧関係と堆積土から中世遺構と判断した。古墳時代後期以降の竪穴建物跡は、3・10・11・17・18・21トレンチで検出され、10トレンチ検出遺構は、出土須恵器から7世紀後半と推定される。13トレンチでは、小規模な溝状遺構が検出され石製紡錘車出土した。8・12トレンチでは古墳時代と推測される土坑と掘立柱建物跡柱穴が検出されている。弥生時代後期の竪穴建物跡は調査区南側の13～15・19・21トレンチで確認され、5トレンチでは土坑が、9・20トレンチでは方形周溝墓と見られる溝状遺構が検出されている。縄文土器は後期から晩期まで出土したが、調査区内に遺構は捉えられず、鬼子母神貝塚に由来する遺物の一部が点在していると考えられる。

遺物 縄文時代の遺物は、土器以外出土していない（第8図1～3、第10図6～12、第11図20～41）。土器型式は加曾利B式から安行式があり、後期後半の時期が主体でいずれも小片である（出土遺物観察表参照）。弥生時代は、後期の土器が出土した（第10図13・14、第11図42～49）。3・

11トレンチからは弥生・古墳時代の遺物が混ざって出土しているが、重複した別々の遺構に由来するものと考えられる。

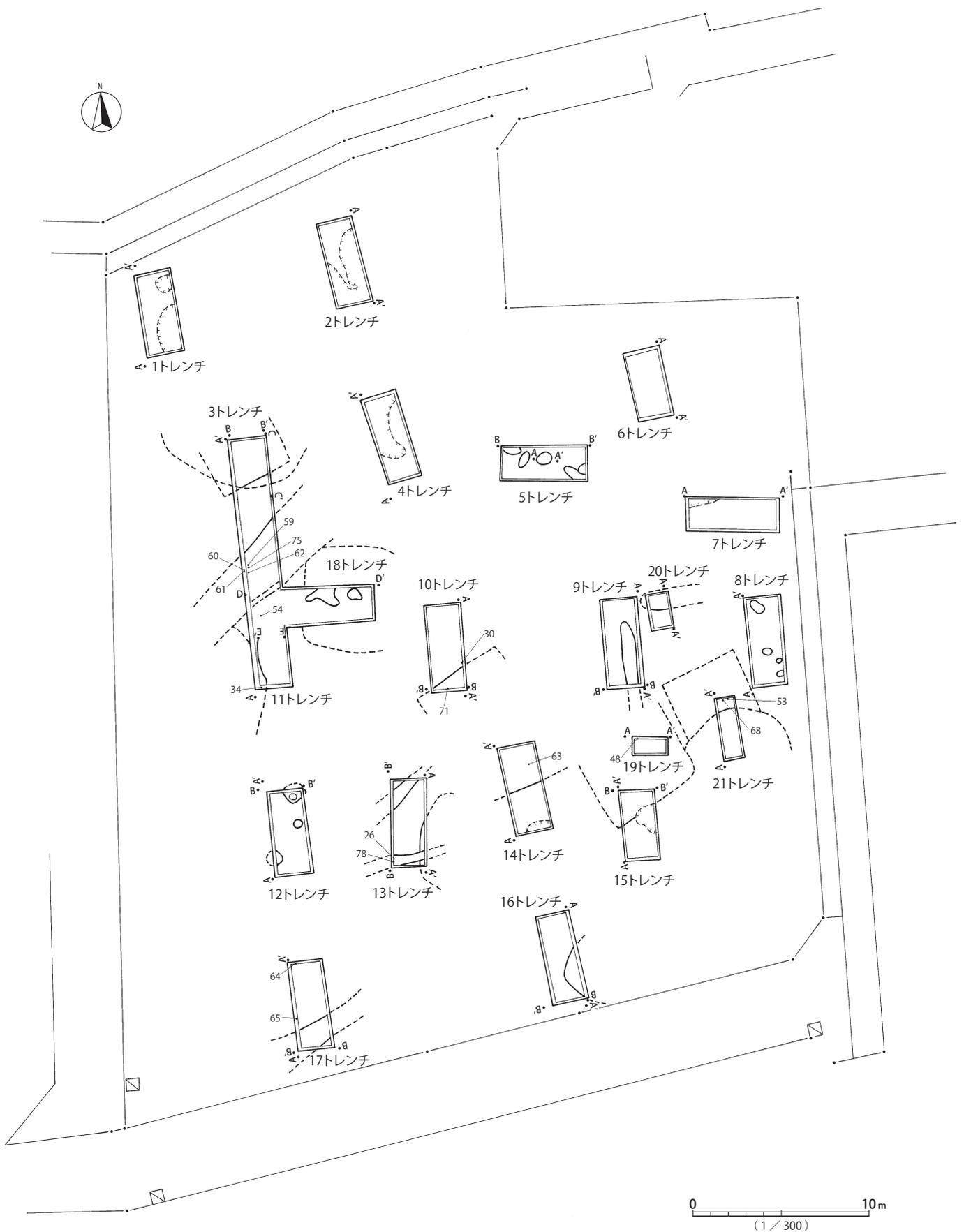
古墳時代以降の遺物は土師器と須恵器が主体である(第8図4・5、第10図15～19、第11図50～55、第12図56～74)。5世紀後半から7世紀まで幅を持って出土しているが、主体は第1地点と同じく古墳時代後期と考えられる。土器以外に軟質の土製支脚(第12図75)、鉄滓(同76)、鉄製品(同77)が認められるが、小片で不詳である。78は13トレンチから出土した石製紡錘車である。

第1地点では、南北22.6m、東西最大幅約7.4m、最深約1.4mの不整形で船底形を呈し、凹凸の激しい底面を持つ「特殊巨大遺構」と呼ばれる掘り込みが検出され、古墳時代後期土師器・手捏土器が出土している(千葉県教育委員会1970)。そこから北東へ40m離れた今回調査区内においても、3・11トレンチ検出遺構断面に、第1地点概報第4図S-1～S-1'(千葉県教育委員会1970)と類似した状況が観察されており、3・11トレンチの竪穴建物跡を切る凹部(第8図11・14層)が「特殊巨大遺構」と同様の遺構であることを示唆する。

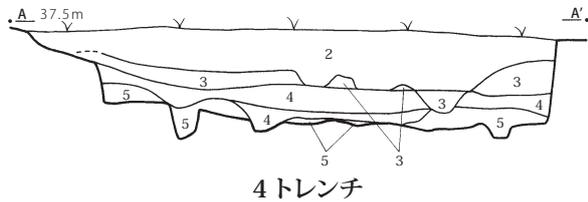
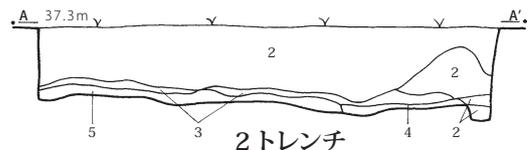
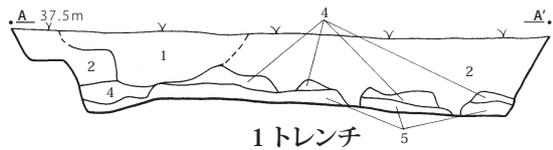
遺構確認面は家屋解体に伴う攪乱層を除けば、調査時の現地表面から0.5m～0.7m下層の標高37mほどの旧耕作土下に存在する。嚙矢となった約半世紀前の第1地点調査地②も、同様な台地上平坦面に位置するものと考えられる。古墳時代の集落遺跡が展開する姉崎台遺跡の調査・分析が進めば、墓域と集落の関係がそれぞれの変遷とともに明確になり、姉崎古墳群の理解もより深まるものと思われる。

引用参考文献

- 姉崎鶴窪古墳調査団2002『鶴窪古墳』市原市教育委員会③
大村 直1991「市原市姉崎宮山遺跡ほか」『不特定遺跡発掘調査報告書(2)』市原市教育委員会④
小久貫隆史1996『市原市釈迦山古墳発掘調査報告書』千葉県教育委員会⑤
北見一弘2016「姉崎台城跡」『平成27年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会⑨
小出義治・甘粕 健・久保哲三他1980『上総山王山古墳発掘調査報告』市原市教育委員会⑥
越川敏夫1984『原遺跡』原遺跡調査会(原1号墳下層遺跡)⑧
小橋健司2000「姉崎棗塚遺跡(第2次)」『市原市文化財センター年報』平成9年度⑬
小橋健司2002「姉崎山新遺跡(第2地点)」『市原市文化財センター年報』平成11年度⑭
高橋康男他2007「棗塚遺跡(第4次)」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会⑩
田中清美1989「原遺跡」『不特定遺跡発掘調査報告書(1)』市原市教育委員会⑧
田中清美2016『市原市六孫王原遺跡G区』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第35集
千葉県教育委員会1970『姉ヶ崎台遺跡発掘調査概報』②
千葉県教育委員会1978「鬼子母神貝塚」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』⑩
千葉県教育委員会1994「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』⑦・⑪
鶴岡英一2012「棗塚遺跡(第5次)」『平成23年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会⑰
西野雅人2006「棗塚遺跡(第3次)」『平成17年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会⑮
蜂屋孝之2000「姉崎棗塚遺跡」『市原市文化財センター年報』平成8年度⑫



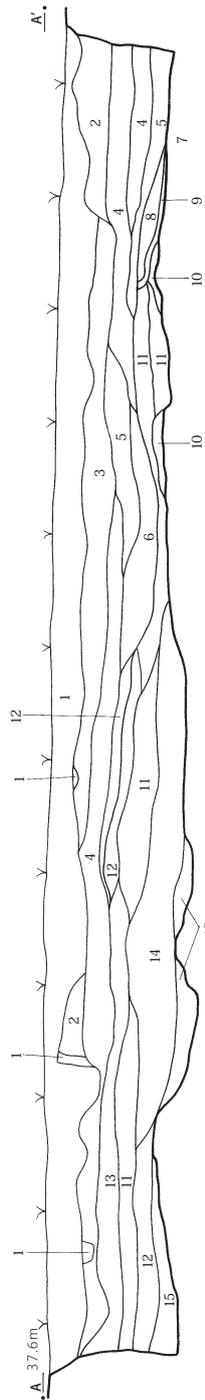
第7図 姉崎台遺跡(第2地点) 平面図



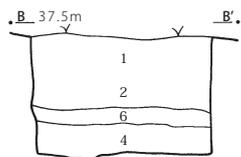
1・2・4トレンチ A-A'

- 1 現表土客土(貝化石を含む山砂)
- 2 現表土攪乱(混黒褐色土・ローム)
- 3 混表土、砂利攪乱暗灰褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 ローム漸移褐色土

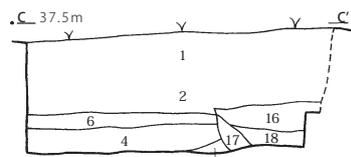
4トレンチ



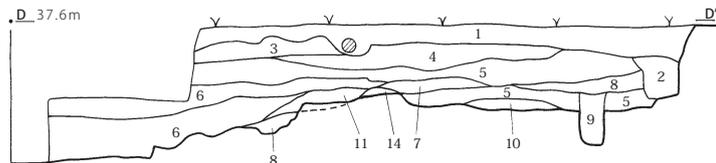
3・11トレンチ



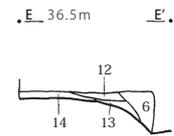
3トレンチ



3トレンチ



11・18トレンチ



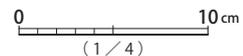
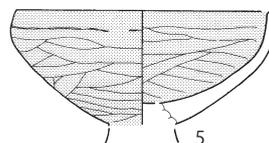
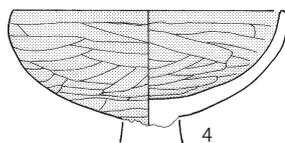
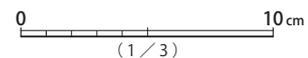
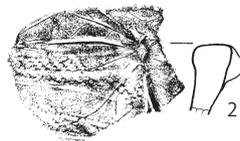
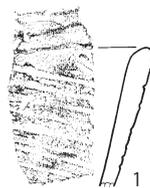
11トレンチ

3・11トレンチ A-A', B-B', C-C'

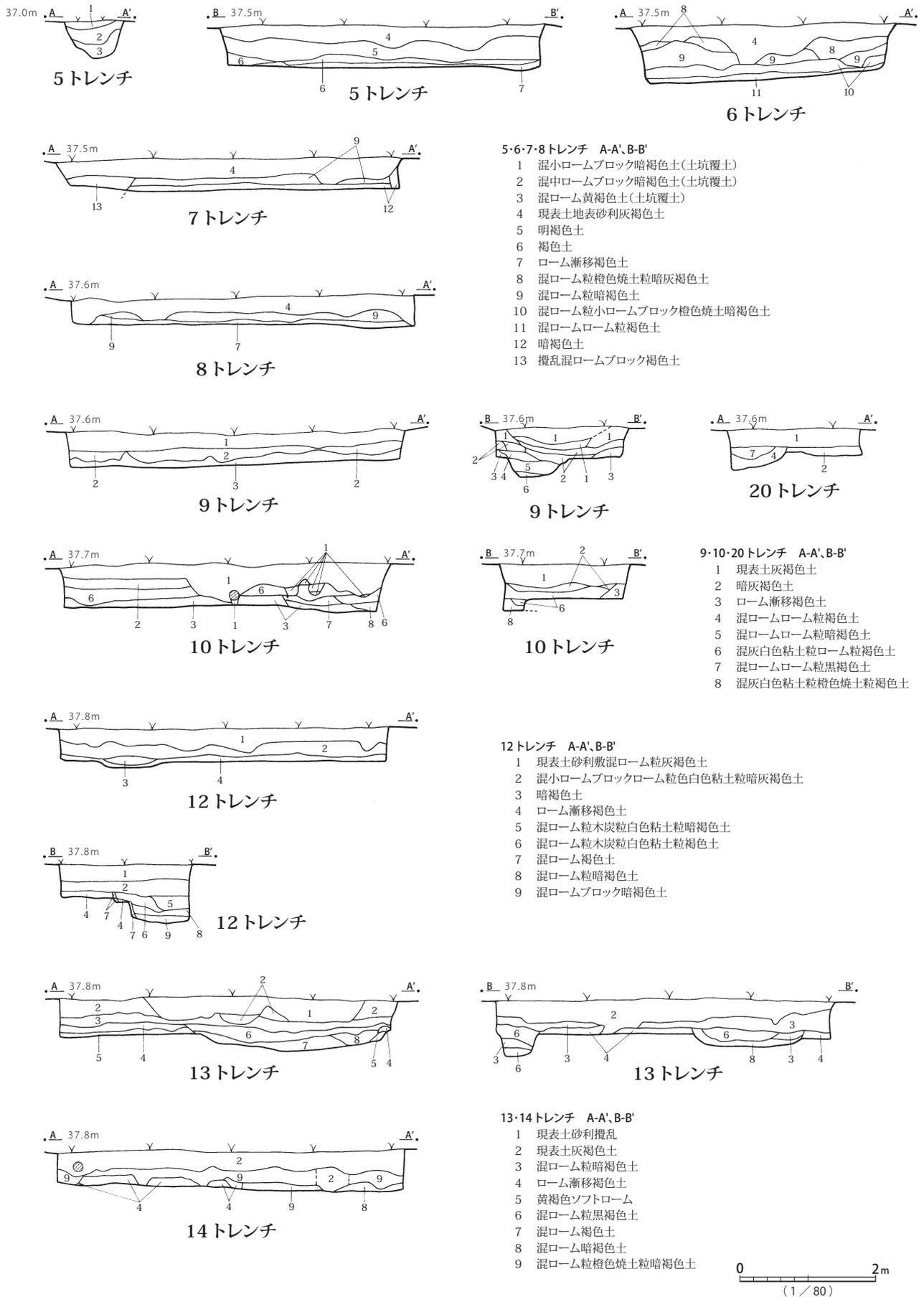
- 1 現表土混砂利灰褐色土(攪乱耕作土)
- 2 混ローム粒灰褐色土
- 3 混ローム粒暗褐色土(乾燥するとクラックが入る)
- 4 混ローム粒暗褐色土
- 5 混ロームブロック、ローム粒暗褐色土(埋土)
- 6 混ローム粒白色粘土粒暗褐色土(埋土)
- 7 混ロームブロック暗褐色土(貼床?)
- 8 混ロームロームブロック黒褐色土
- 9 混ロームロームブロック褐色土
- 10 黄褐色ソフトローム
- 11 混ローム粒黒褐色土
- 12 混ローム粒、ロームブロック黒褐色土
- 13 混ローム粒、橙色粒黒褐色土
- 14 混ローム、ロームブロック暗褐色土
- 15 混ローム粒、ロームブロック暗褐色土
- 16 混ローム粒、小ロームブロック褐色土(住居覆土)
- 17 混ローム粒、小ロームブロック暗褐色土(住居覆土)
- 18 混ローム粒暗褐色土(住居覆土)

11・18トレンチ D-D', E-E'

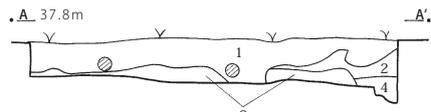
- 1 現表土混砂利灰褐色土(攪乱耕作土)
- 2 混ローム粒、瓦礫灰褐色土
- 3 混ローム粒暗褐色土(旧表土?)
- 4 混ローム粒、木炭粒暗褐色土
- 5 混ローム粒、橙色焼土粒暗褐色土
- 6 混ローム粒暗褐色土
- 7 混ローム粒灰色粘土粒、橙色焼土粒暗褐色土
- 8 混ローム暗褐色土
- 9 暗褐色土(ピット覆土)
- 10 混ローム黒褐色土
- 11 混ローム粒黒褐色土
- 12 混ローム粒褐色土
- 13 褐色土
- 14 ローム漸移暗褐色土



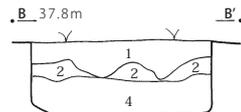
第8図 姉崎台遺跡(第2地点) 断面図(1)・出土遺物 実測図(1)



第9図 姉崎台遺跡(第2地点) 断面図(2)



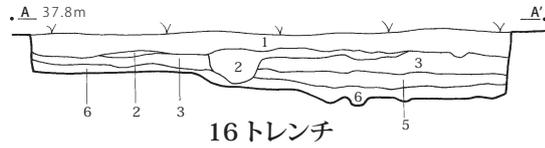
15 トレンチ



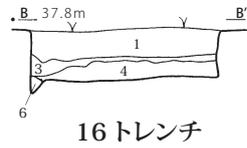
15 トレンチ

15 トレンチ A-A', B-B'

- 1 現表土砂利敷混ローム粒灰褐色土
- 2 混ローム粒暗褐色土
- 3 ローム漸移褐色土
- 4 混ローム粒混ロームブロック暗褐色土(住居覆土)



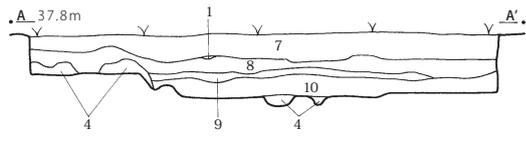
16 トレンチ



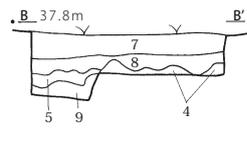
16 トレンチ

16・17 トレンチ A-A', B-B'

- 1 現表土砂利敷灰褐色土
- 2 混ローム粒橙色焼土粒灰褐色土
- 3 混ローム粒暗褐色土
- 4 ローム漸移褐色土
- 5 混ローム粒黒褐色土
- 6 混ローム粒暗褐色土
- 7 現表土混ローム粒褐色土
- 8 混ローム粒橙色焼土暗褐色土
- 9 混ローム粒橙色焼土粒黒褐色土
- 10 混ローム粒白色粘土塊褐色土



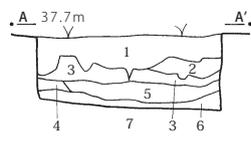
17 トレンチ



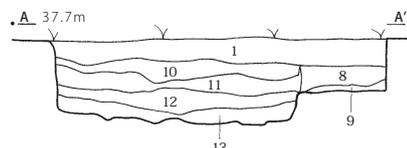
17 トレンチ

19・21 トレンチ A-A'

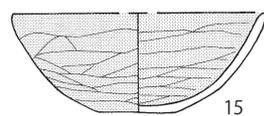
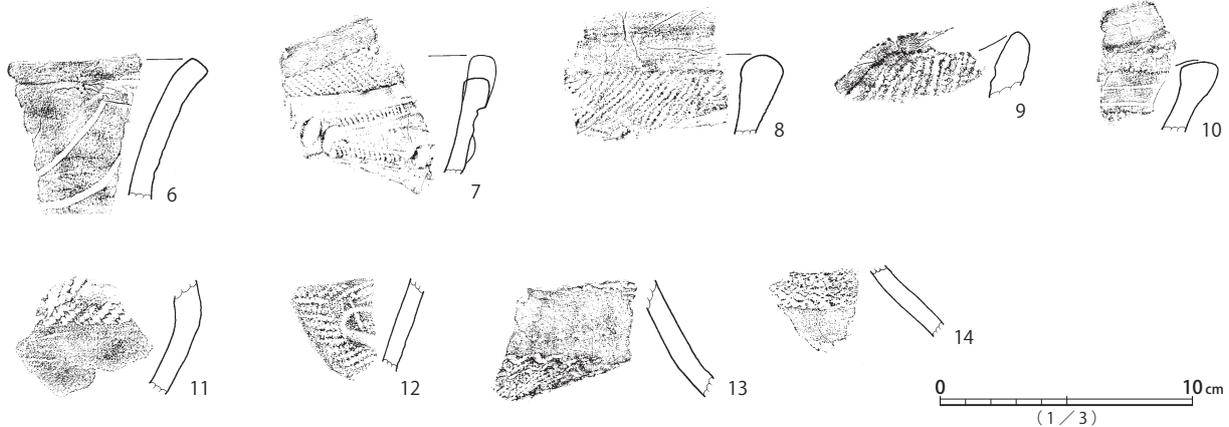
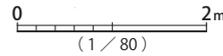
- 1 現表土灰褐色土
- 2 暗灰褐色土
- 3 混ローム粒黒褐色土
- 4 白色粘土
- 5 混ローム粒白色粘土粒黒褐色土
- 6 混灰白色粘土粒ローム粒橙色焼土粒黒褐色土
- 7 混ロームブロック貼床
- 8 混ローム粒橙色焼土粒黒褐色土(住居覆土)
- 9 混ローム黒褐色土(住居覆土)
- 10 混ローム小ブロックローム粒暗褐色土
- 11 混ローム小ブロックローム粒褐色土
- 12 混ローム粒暗褐色土
- 13 混ローム粒褐色土



19 トレンチ



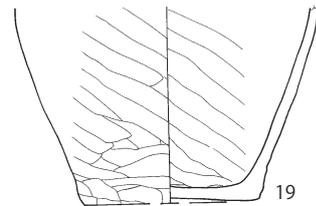
21 トレンチ



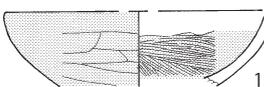
15



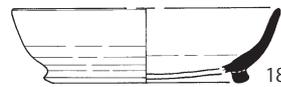
16



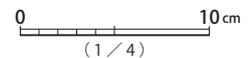
19



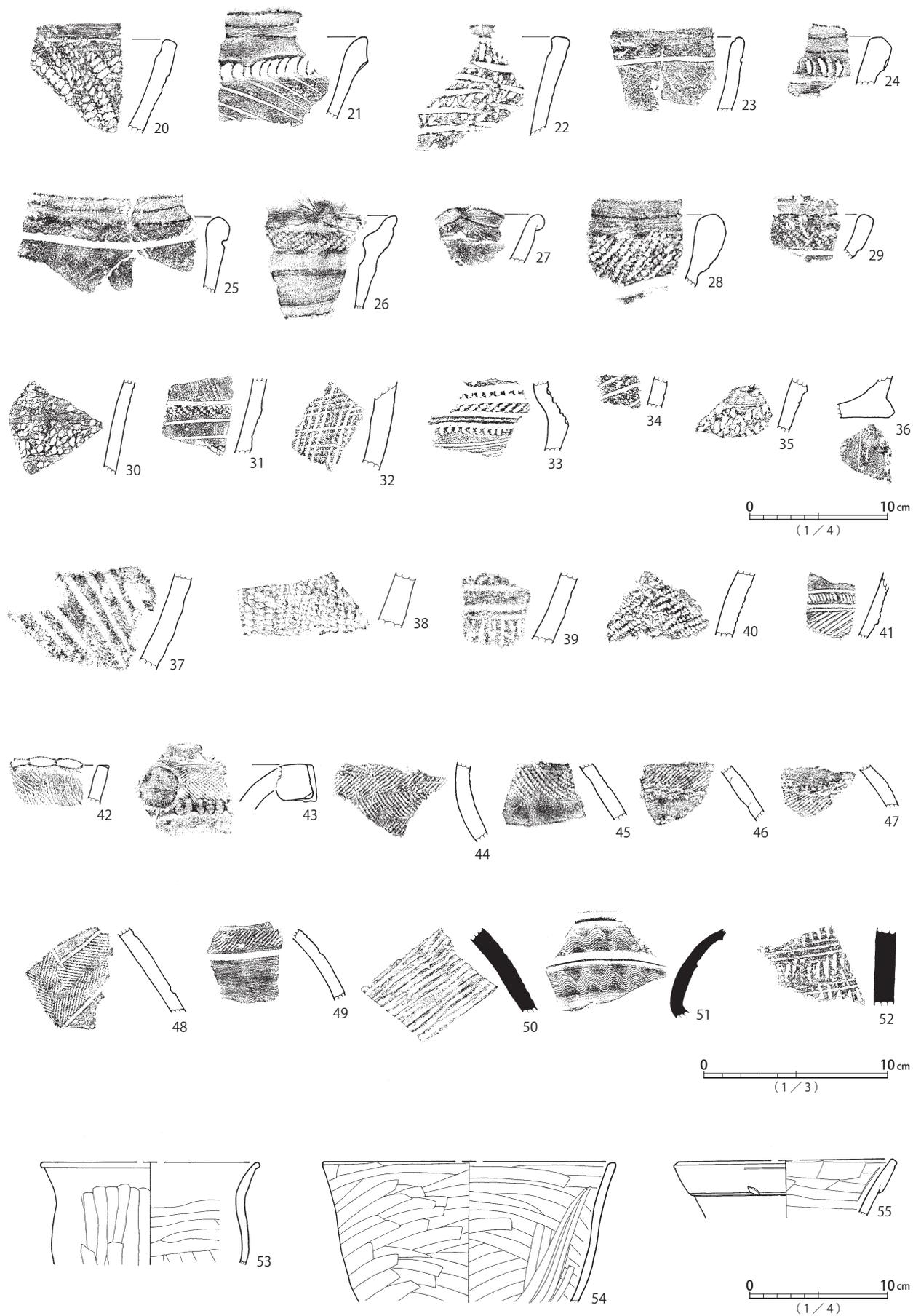
17



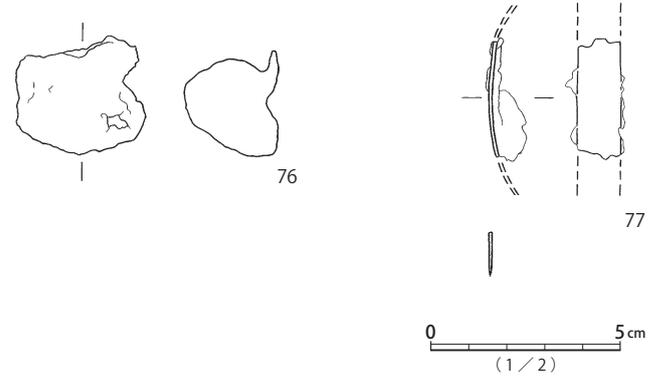
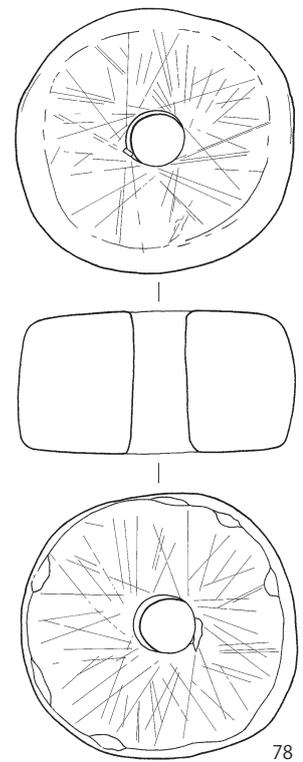
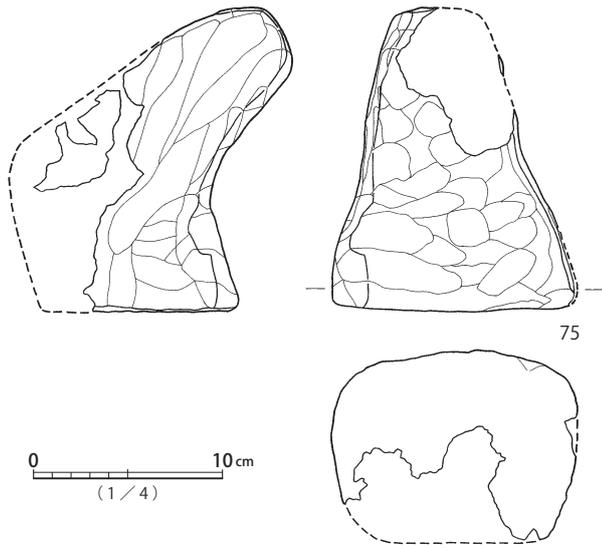
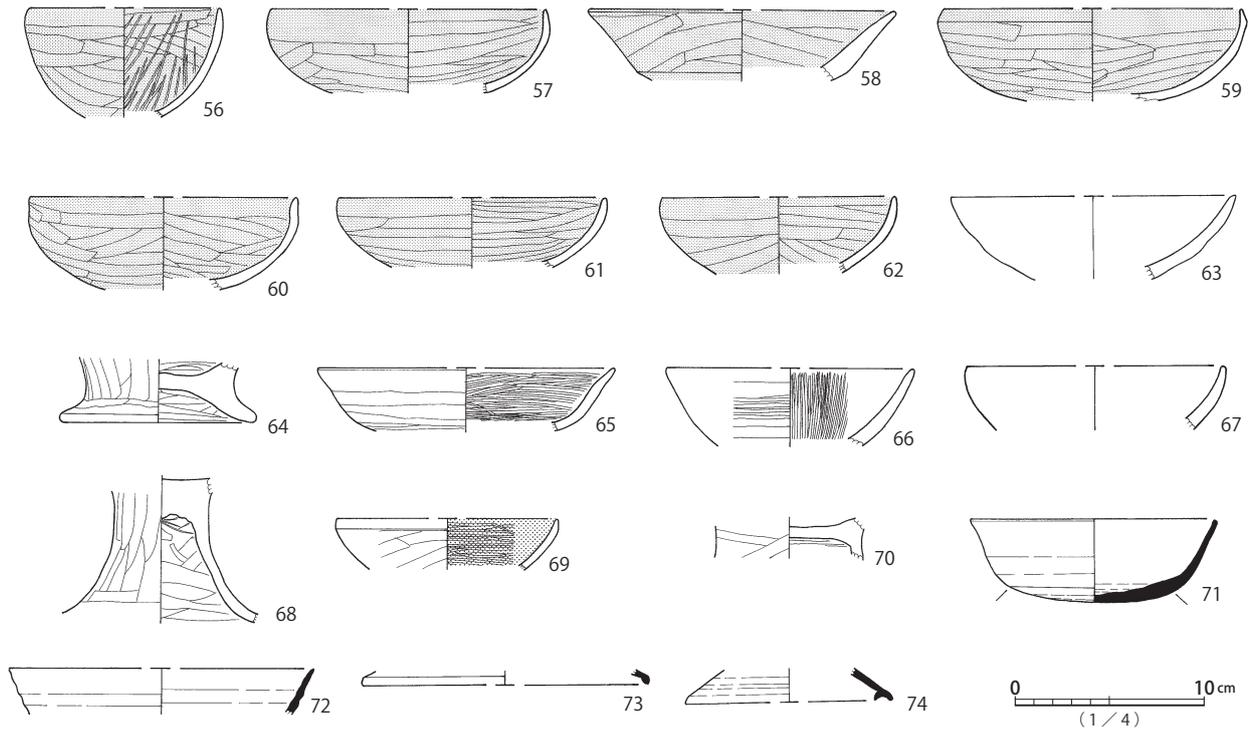
18



第10図 姉崎台遺跡(第2地点) 断面図(3)・出土遺物 実測図(2)



第11图 姉崎台遺跡(第2地点) 出土遺物 実測図(3)



第12図 姉崎台遺跡(第2地点) 出土遺物 実測図(4)

4 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡

遺跡位置 遺跡は市原台地中央部新田川左岸、標高22m前後の台地平坦部に位置する(第13図①)。新田川との比高差は約10mあり、当調査区北東から開析谷の進入があるため、地形上は東側方向にやや傾き水利方向も北東方向へ傾斜する。台地は西に向かってやや高くなっており、西方向約100mに郡本遺跡群第25次調査地点がある。

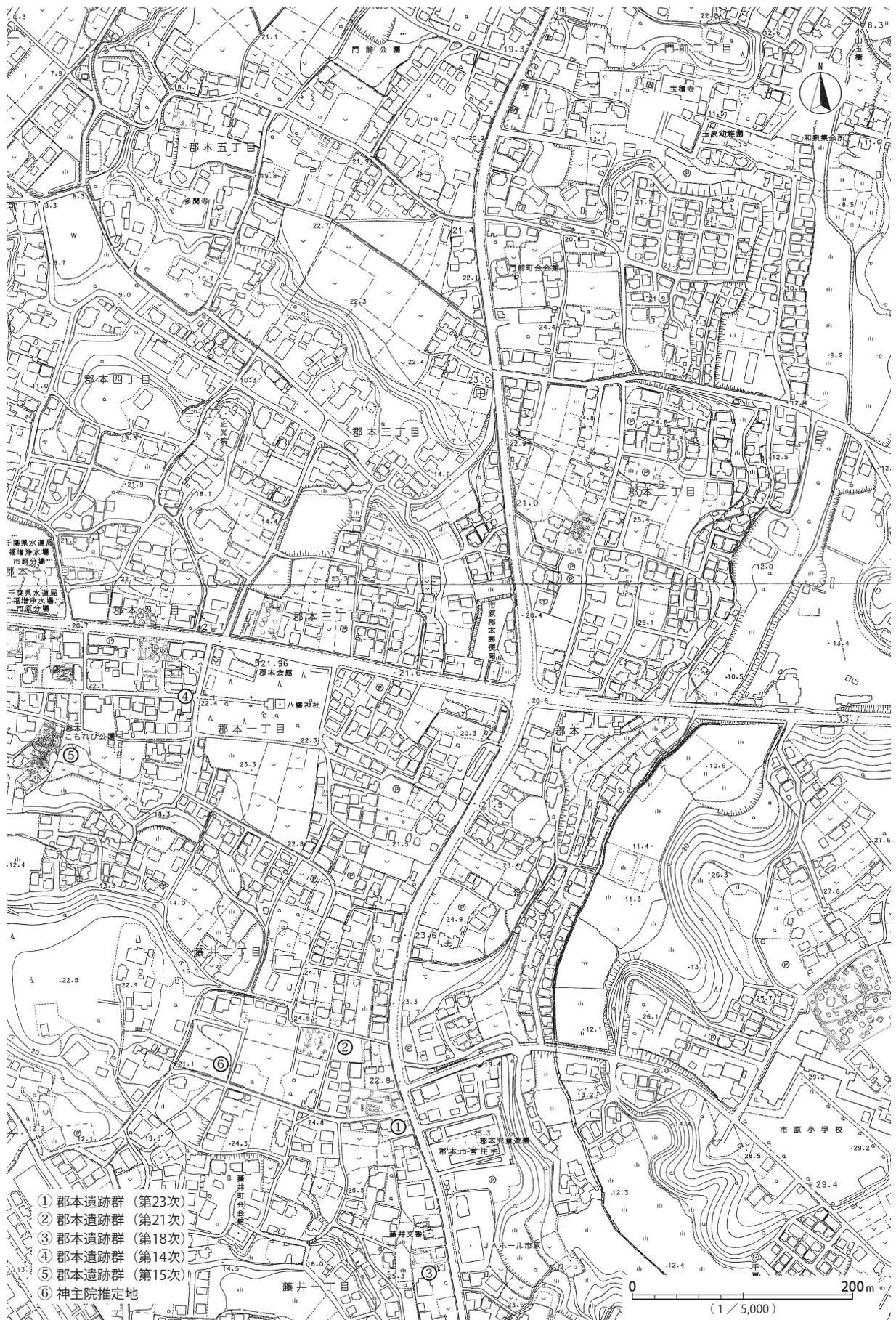
調査概要 今回調査地点は市原郡衙推定地の郡本遺跡群南端部に当たる。近隣調査には、第21次調査②があり、支谷北西側の第15次調査では中世の台地整形区画が検出されている(⑤小橋他2013)。神主院推定地は西方向200m、絵図にある大宮大権現用地は、東側の国道297号線を挟んだ向かい側に位置する(宮本1999)。千葉県史等によって広く周知されている市原古道跡は稻荷台遺跡(浅利他2003)調査において検出され、駅路から分岐した伝路と推定されている(大谷・田所1998)。古道は稻荷台遺跡(J地点)から郡衙推定地方面に北進して、郡本遺跡群第18次調査区③の西側を抜けて、今回調査地点に至ると推定されるが、当地点では後世の削平のため道路跡は検出できなかった。市原古道遺跡は今のところ大字藤井地区と大字市原地区間では未検出である。

遺構 調査前に道路遺構の名残と考えていた段差については、最近まで一戸建て貸家が5軒立ち並び、昭和30年代の地図には屋敷らしい記載があるので、その時点で調査区の東半分は削平されていたと推定される(第14図)。段差下の2・3・6～8トレンチは表層から客土がハードロームの基盤層を攪乱していた(第15・16図)。3・8トレンチには近代以降の建物基礎が検出され、6・7トレンチはハードロームが攪乱層直下に露出する(第15図)。段差を横断する2トレンチの断面観察では、本来の遺跡覆土が上段にのみ遺存しているため、段差の生じる際に削平されたものと推定される。段差上の1・4・5トレンチでは遺構確認面まで現地表面から1mほどあり、中世と推測される小規模な土坑が検出されている(第15図)。

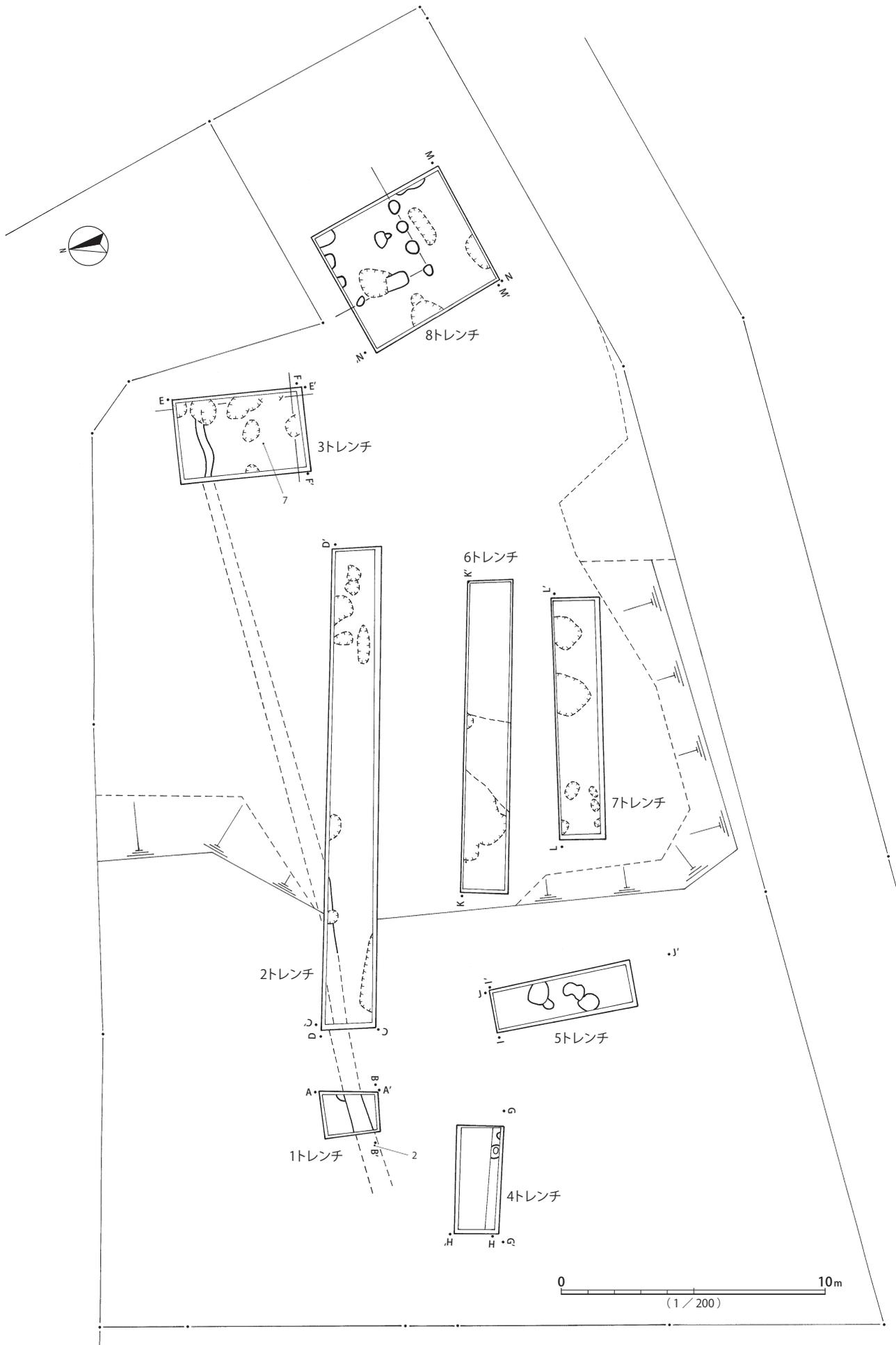
遺物 遺物は覆土に土器小片が混入していた程度で、図示遺物で遺構に伴うものはない。1は縄文時代後期土器、2は須恵器甕片である。古代道機能時に当たる奈良平安期の遺物には、2～6の土器小片と、8の摩滅した布目瓦片がある。7は近世以降の屋敷に由来すると思われる内耳土器(焙烙)片で、9は大正10年製の一銭硬貨である。その他、図示しなかったが、攪乱層中に花崗岩製の通信省電信標柱(15×15cm角柱、上半部残存33cm)が出土したため回収した。

引用参考文献

- 浅利幸一他2003『市原市稲荷台遺跡』(財)市原市文化財センター調査報告書第83集
- 大谷弘幸・田所 真1998「市原古道遺跡」『千葉県の歴史』資料編考古3(奈良・平安時代)千葉県
- 小川浩一2014「郡本遺跡群(第21次)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会②
- 忍澤成視2014「郡本遺跡群(第18次)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会③
- 小橋健司他2013『郡本遺跡群(第15次)』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第26集⑤
- 田所 真2011「郡本遺跡群(第14次)」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会④
- 宮本敬一1999「郡本遺跡は郡衙跡か・忘れられた社寺」『市原市郡本周辺の遺跡と文化財』市原市歴史と文化財シリーズ第四輯
市原市地方史研究連絡協議会⑥

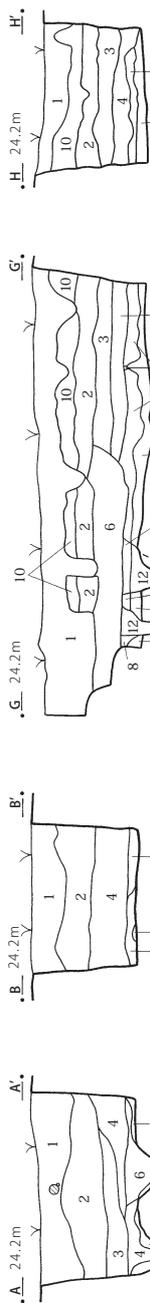


第13図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 周辺地形図



第14図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 平面図

- 1・4・5トレンチ A-A、B-B、G-G、H-H、I-I、J-J
 1 現表土硬化黒褐色土
 2 混ローム粒灰褐色土(下部橙色焼土粒)
 3 混ローム粒暗灰褐色土
 4 混ローム粒黒褐色土
 5 混ロームブロック褐色土
 6 黒褐色土
 7 混ローム粒褐色土
 8 暗褐色土(ローム新移層)
 9 黄褐色ソフトローム
 10 混ローム粒明灰褐色土
 11 混ローム黒褐色土
 12 暗褐色土
 13 硬化灰褐色土
 14 混ローム粒暗褐色土

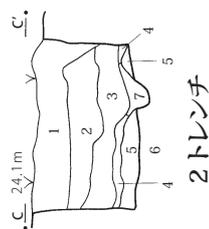


1トレンチ

1トレンチ

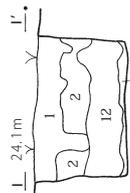
4トレンチ

4トレンチ

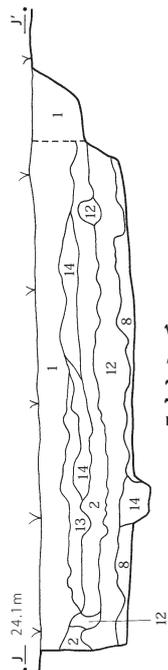


2トレンチ

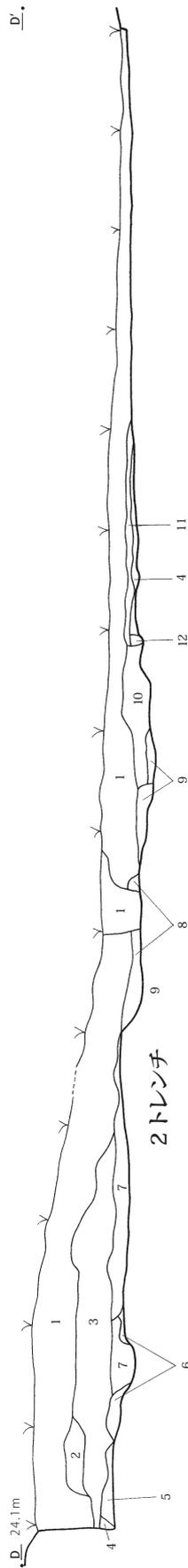
5トレンチ



5トレンチ



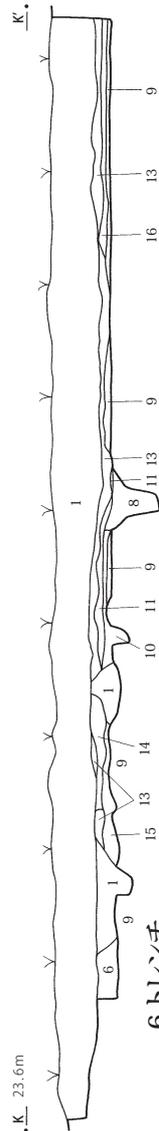
D. 24.1m



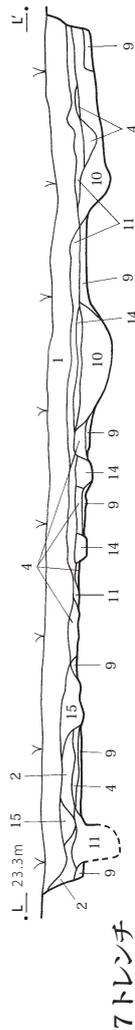
2トレンチ

- 2・6・7トレンチ C-C、D-D、K-K、L-L'
 1 現表土混瓦礫灰褐色土(攪乱層)
 2 混ローム粒暗灰褐色土
 3 混ローム暗灰褐色土
 4 暗褐色土
 5 褐色土(ローム新移層)
 6 黄褐色ソフトローム
 7 混ローム灰褐色土(薄覆土)
 8 混ローム粒灰褐色土
 9 褐色ハードローム
 10 混ロームブロック褐色土
 11 混ローム灰白色粘土
 12 褐色土
 13 各土混ロームブロック暗褐色土
 14 混ローム粒暗褐色土
 15 混ロームブロック暗褐色土
 16 混灰白色粘土暗灰褐色土(整地)

K. 23.6m



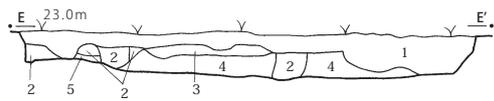
6トレンチ



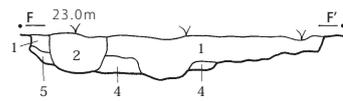
7トレンチ

第15図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 断面図(1)

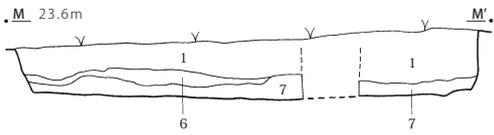




3トレンチ



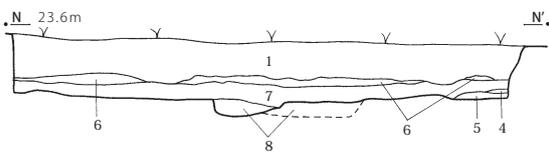
3トレンチ



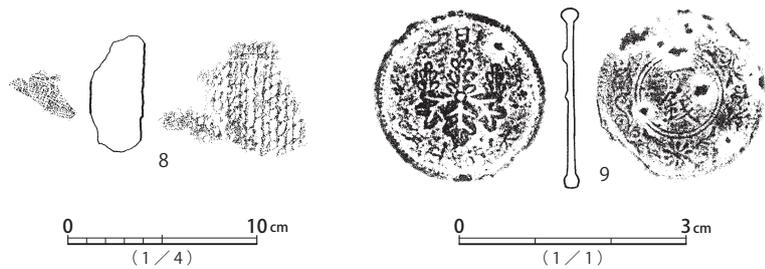
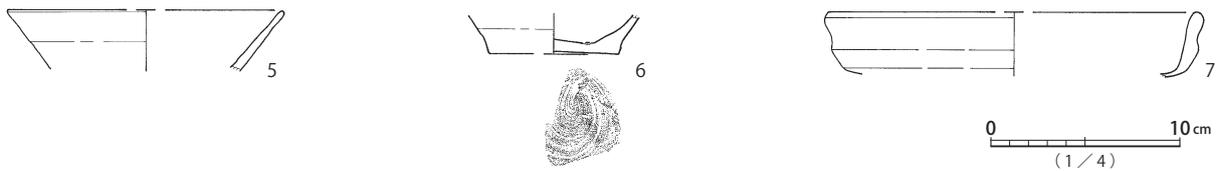
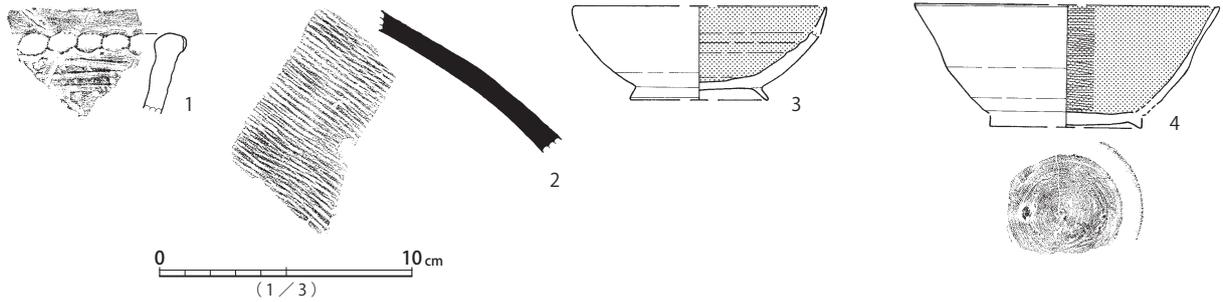
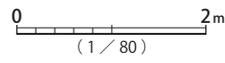
8トレンチ

3・8トレンチ E-E'、F-F'、M-M'、N-N'

- 1 現表土混瓦礫暗褐色土
- 2 攪乱瓦礫建物基礎
- 3 混ローム粒暗灰褐色土
- 4 混ロームブロック褐色土
- 5 褐色ハードローム
- 6 混ローム白色粘土(版築基礎)
- 7 混ロームブロック暗褐色土
- 8 混ローム灰褐色土



8トレンチ



第16図 郡本遺跡群(第23次)・市原古道遺跡 断面図(2)・出土遺物 実測図

5 柏原遺跡群(第2地点)

遺跡位置 遺跡は養老川下流河口部に近い沖積平野にあり、今津川左岸の標高5m前後の東西に延びる砂丘帯上に位置する(第17図①)。今津川の右岸は海岸側に当たり、標高3m前後の低地に白塚台遺跡が広がる(③)。今回の第2地点は柏原遺跡群北辺部に当たる。近隣の調査事例としては、南西で第1地点の調査が行われている(②)。柏原遺跡群の西方約1Kmには山新遺跡(北見2018)があり、古墳時代中期前半以前の集落跡と中期円墳群が調査されている。また東方約1.5Kmには上境町遺跡第2地点(近藤2017a)があり、同じく古墳時代中期前半の竪穴建物跡が検出されている。

遺跡周辺の地形環境については、縄文海進から海退に転じて以降、姉崎台地の海蝕台直下から砂丘の形成が始まると推測される(近藤2014)。姉崎地区の台地に近い砂丘上の山新遺跡永津前地区(小川2013)では、縄文時代前期後半諸磯a式の土器片が検出され、隣接調査区(近藤2017b)では、縄文時代中期中葉の阿玉台式土器がまとまって出土している。当地点でも阿玉台式土器片が出土しており、前期末から中期中葉までに海岸に向かって数条の砂丘が順次形成されたと推定される。

調査概要 調査区は、柏原地区の砂丘帯の中央部北寄りから北辺まであり、砂丘を横断するようにトレンチを南北方向に多く配置した(第18図)。南側の1～5・7・8・11トレンチには、近世以降の溝状遺構、建物基礎、土坑等が数多く検出されたので、屋敷地であった可能性が高い。6・7・15トレンチの北側には近世建物跡等の遺構はなく、北に向かって次第に遺構確認面が下がっていく(第19・20図)。調査区中央部9・10・12トレンチの南側東西方向には凹地があり、近世以降の溝状遺構が検出されており、13トレンチでは南北方向にその溝が屈曲していると推測される。北端の14トレンチには、近世以降の溝状遺構が検出されている。

7・15トレンチでは北端拡張部に縄文時代後期の遺物集中地点を確認した(第20図)。遺物集中地点は標高3.7mの有機物が多いシルト質黒灰色土層にあり、砂丘凹地部に当たることから湧水が見られる。土器片は大型の破片に復元できたため、この地点に廃棄されたものと推測される。

遺物 縄文時代の遺物は、主に第20図N～N'断面付近に集中している。第21図1・2は縄文後期加曾利B1式の大型破片で、他の多くの破片も当該期である。第21図14・26は縄文中期阿玉台式の口縁部、胴部片であり、28・29は縄文施文のみの胴部片である。第22図32・39・40は縄文中期から後期の土器と考えられる。剥片石器はなく、第22図44～47の磨石が4点出土している。

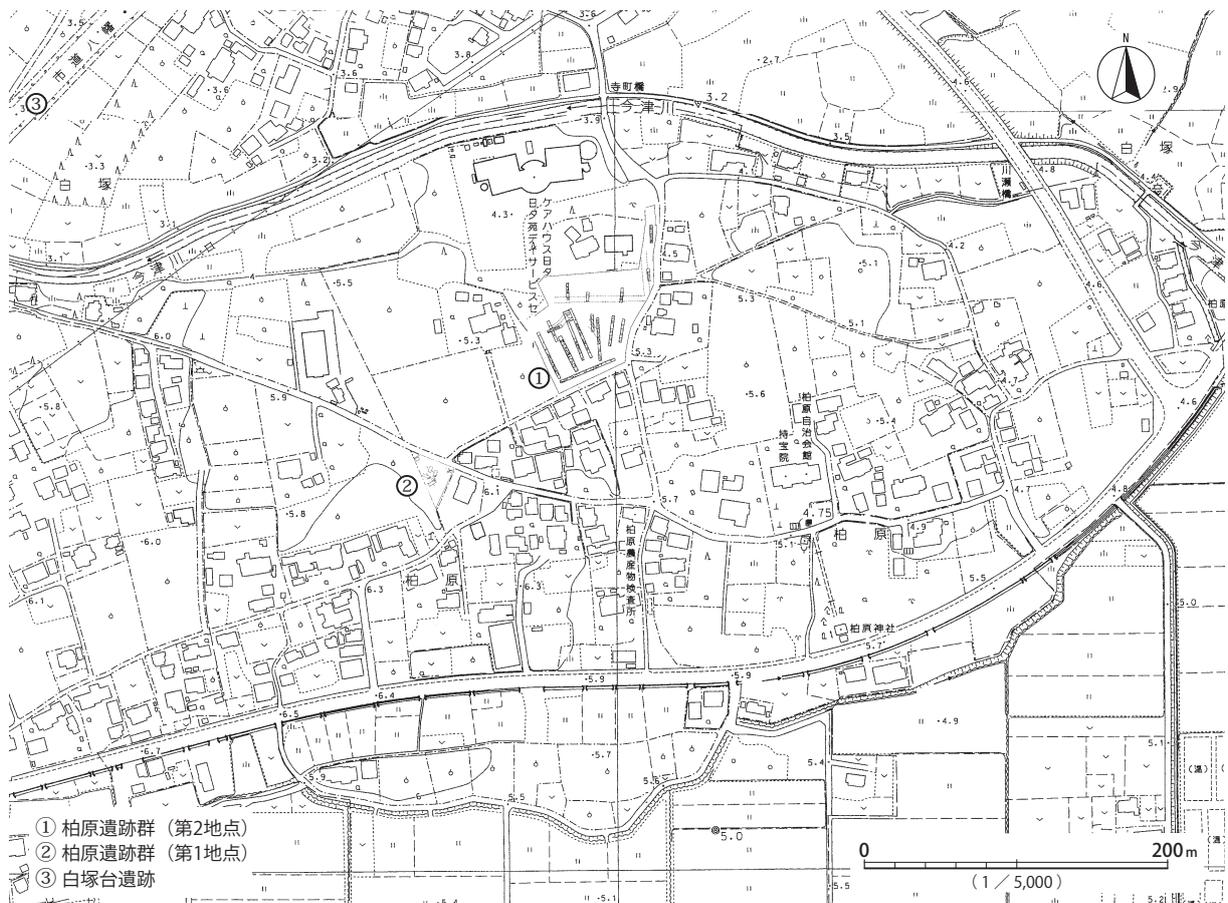
近世以降の遺物には、内耳土器の破片があり(第22図48～51)、その他近世から近代の陶器片が出土している。他に泥メンコ(鬼面)1点と砥石が出土している(同52・53)。調査区域が旧屋敷地であることは、地権者の聞き取りで把握していたが、一時期には南側まで広がる広大な屋敷地であったことが判明した。現在の屋敷地は北西隅と北辺部に土塁と溝の痕跡が残されており、南辺と東辺のトレンチで現屋敷地を囲繞する溝跡が検出されている。南側は現状では荒蕪地であったが、南西隅には建物跡が見られた。そこには木炭粒や焼土が点在しており建物は焼失した可能性がある。

柏原遺跡群第1地点②(小川2002)は、標高約6mの現柏原集落のほぼ中央にあり、出土遺物は近世では第2地点と同様に内耳土器等が出土している。中近世のカワラケが出土しており、柏原集落の成立時期を示唆する。須恵器片等も出土しており柏原遺跡群の古墳時代以降の集落の存在が推測される。第2地点では縄文時代の遺物は出土したが、弥生時代から中世の遺物は認められず、様相

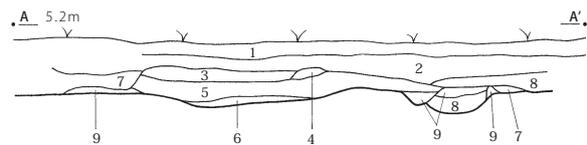
がやや異なる。縄文時代後期中葉加曾利B1式期の遺物が集中して出土したのは、凹地部分の地下水位に近く褐鉄鉱粒が多い土層であり、破片に摩滅が見られないため付近から廃棄されたと推定される。調査区内に居住遺構は検出されていないので、別地点または砂丘頂部に存在したものが削平された可能性がある。今回の調査では、周辺の沖積地において遅くとも縄文時代中期には微高地上が居住域として利用され始めることを確認できた。

引用参考文献

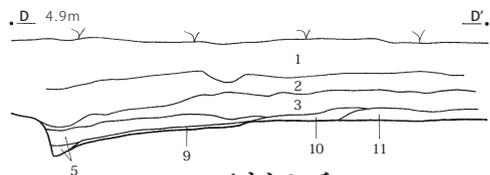
- 小川浩一 2002「柏原遺跡群」『平成13年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会②
- 小川浩一 2013『市原市山新遺跡永津前地区』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第28集
- 北見一弘 2018『市原市山新遺跡・白塚出途遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第42集
- 近藤 敏 2014「縄文時代後期前半の市原市周辺の海域復元」『貝塚博物館紀要』第41号 千葉市加曾利貝塚博物館
- 近藤 敏 2017a「上境町遺跡(第2地点)」『平成28年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 近藤 敏 2017b「山新遺跡(永津前地区第2地点)」『平成28年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 高橋康男 2003「白塚台遺跡」『市原市文化財センター年報』平成11年度 (財)市原市文化財センター③



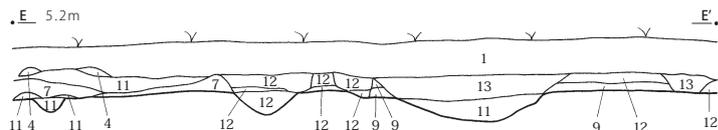
第17図 柏原遺跡群(第2地点) 周辺地形図



1 トレンチ

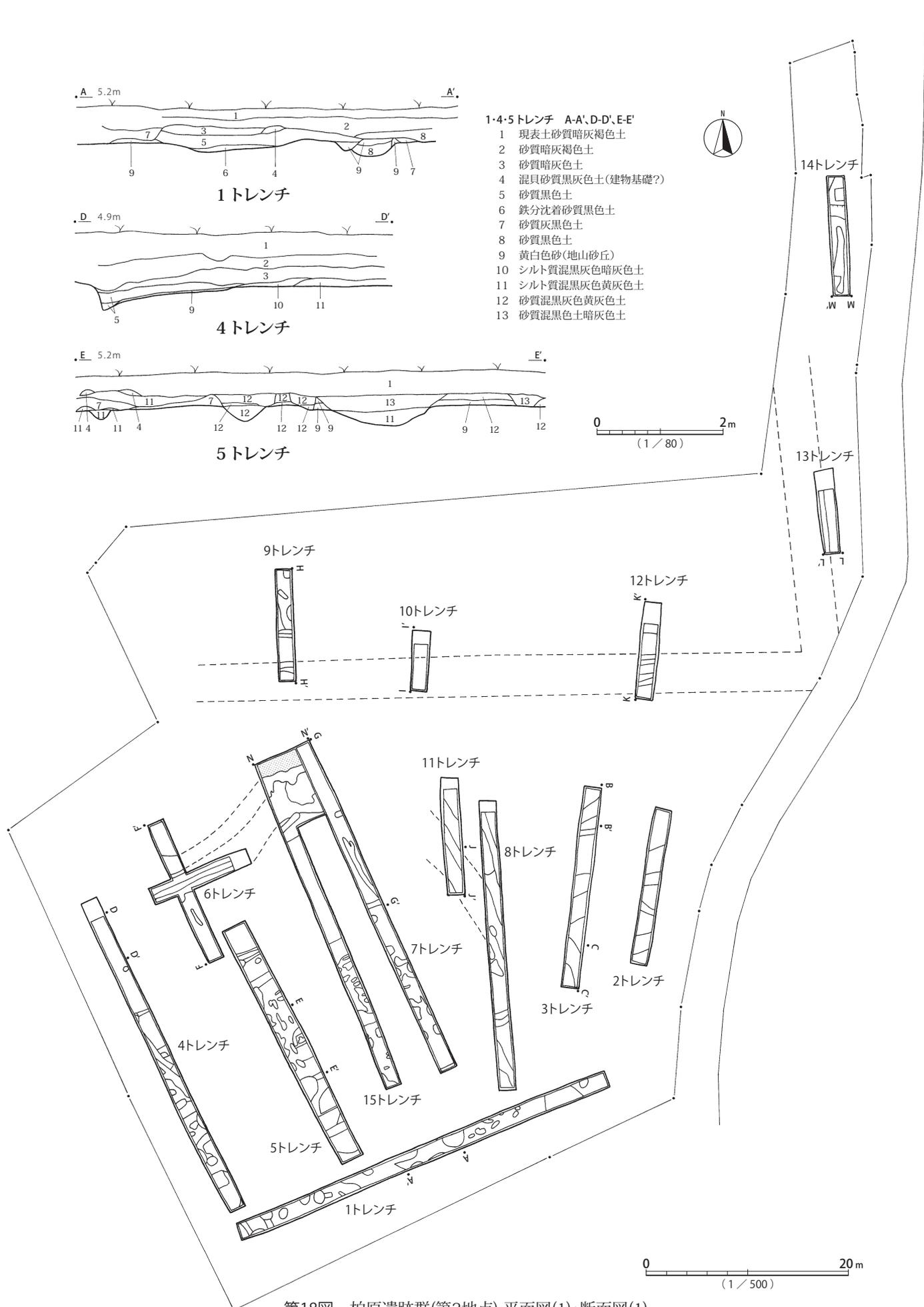
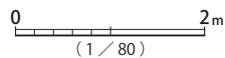


4 トレンチ

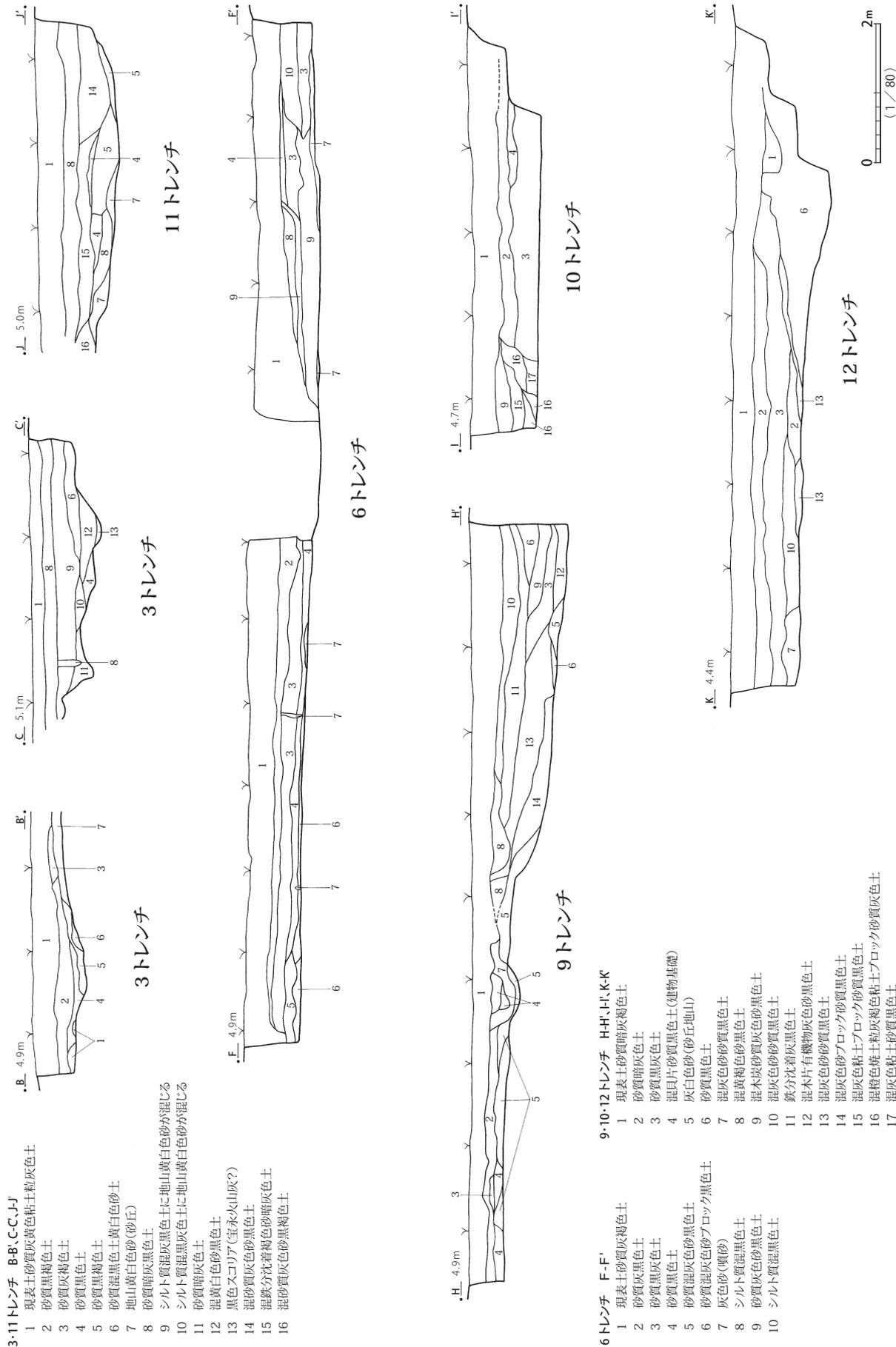


5 トレンチ

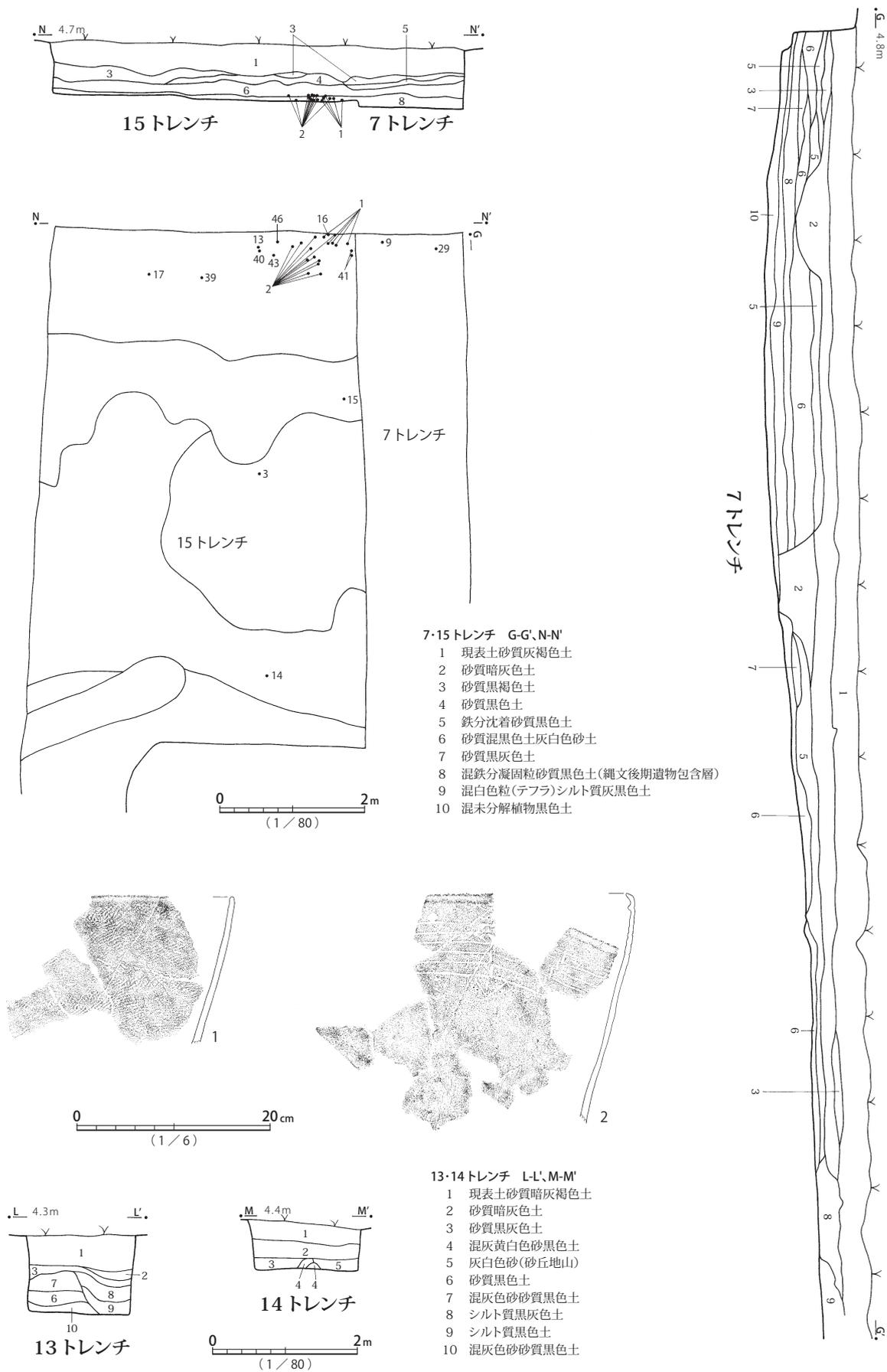
- 1・4・5 トレンチ A-A'・D-D'・E-E'
- 1 現表土砂質暗灰褐色土
 - 2 砂質暗灰褐色土
 - 3 砂質暗灰色土
 - 4 混貝砂質黒灰色土(建物基礎?)
 - 5 砂質黒色土
 - 6 鉄分沈着砂質黒色土
 - 7 砂質黒色土
 - 8 砂質黒色土
 - 9 黄白色砂(地山砂丘)
 - 10 シルト質混黒灰色暗灰色土
 - 11 シルト質混黒灰色黄灰色土
 - 12 砂質混黒灰色黄灰色土
 - 13 砂質混黒色土暗灰色土



第18図 柏原遺跡群(第2地点) 平面図(1)・断面図(1)



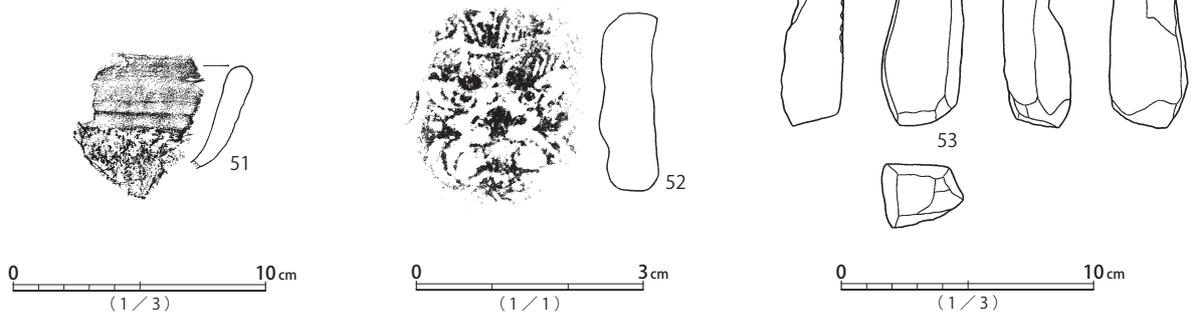
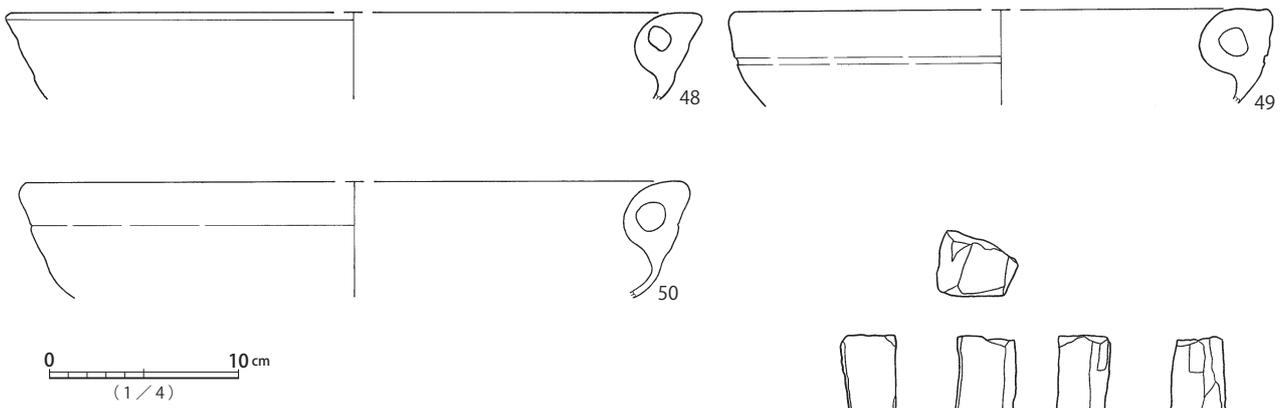
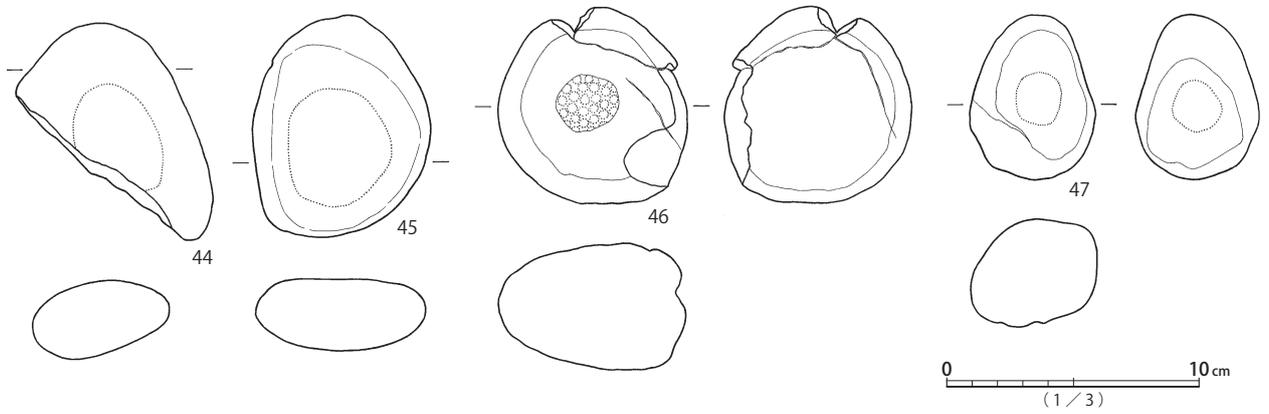
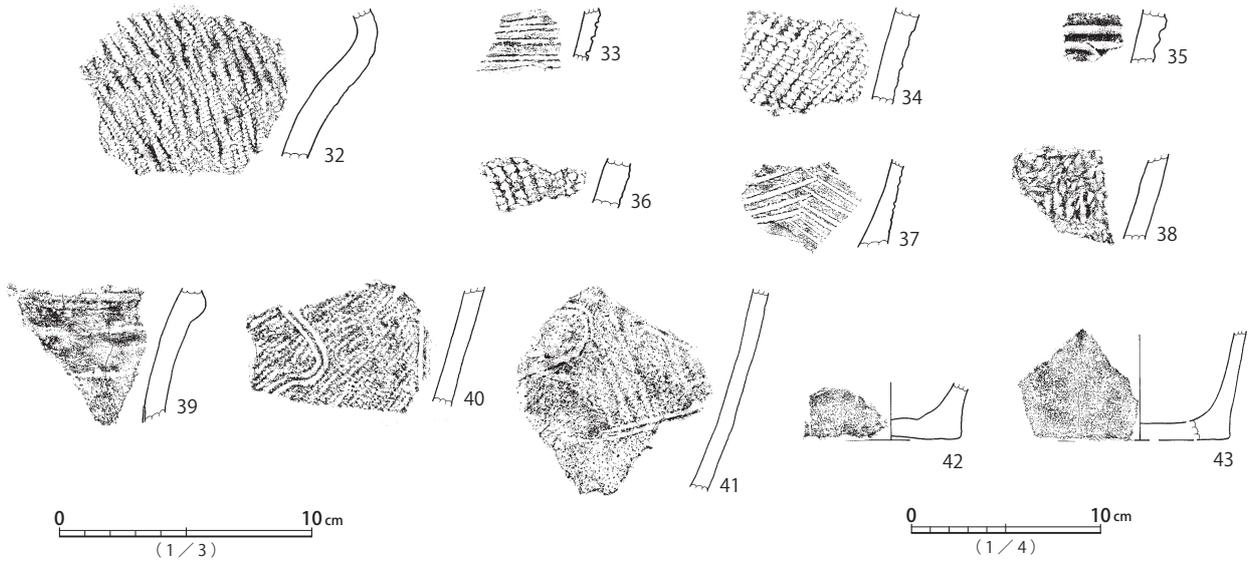
第19図 柏原遺跡群(第2地点)断面図(2)



第20図 柏原遺跡群(第2地点) 平面図(2)・断面図(3)



第21图 柏原遺跡群(第2地点) 出土遺物 実測図(1)



第22图 柏原遺跡群(第2地点) 出土遺物 実測図(2)

6 海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）（重要遺跡確認調査）

遺跡の概要 海保供養塚群・海保大塚遺跡は養老川下流左岸の沖積地を北に望む台地、通称大塚山の平坦面に立地する（第1図）。沖積地と海保大塚周辺平坦面の比高差は30m程である。調査地点は、古墳時代前期から終末期まで長期にわたって存続する姉崎古墳群の東南部にあたり、古墳時代前期の大型前方後円墳、姉崎天神山古墳と今富塚山古墳の中間に位置する。

海保供養塚群は北から、全長60m六角形6段の海保大塚、一辺18m方形3段の三山塚、直径12m円形の塚で構成される。海保大塚と三山塚は江戸時代以来の出羽三山信仰に関係する塚で、近年、海保神社へ移設されるまで登拝記念の石碑が設置されていた。

海保大塚は「六角塚」、「昔より行者の梵天を供養せる故に供養塚とも」称されていた（千葉県市原郡役所1916）。海保地区に伝わる県指定無形民俗文化財「大塚ばやし」は、大正期以前に海保大塚で20年に一度程度行われた行事、梵天（三山詣での証）納めの際に、神輿行列に伴う山車の上で演じられていたものである。塚の外形は、六角形2段に円丘が乗り、その上面に方形3段が築かれる6段構成をとる。今回の調査はこの海保大塚の性格把握を主な目的とした確認調査である。

三山塚は市内に多い出羽三山塚と共通する方形3段を呈し、頂部に詳細不詳の石造物が残される。南辺中央にスロープ状の斜面が形成されており、機能時は南側を正面としたものと思われる。

円形の塚は道路に東西を挟まれ、北側が三山塚南辺と接する。

3基とも墳丘上に樹木が茂っているが、海保大塚墳丘上とその周辺は人の手が入り、比較的見通しのきく状態が維持されている。

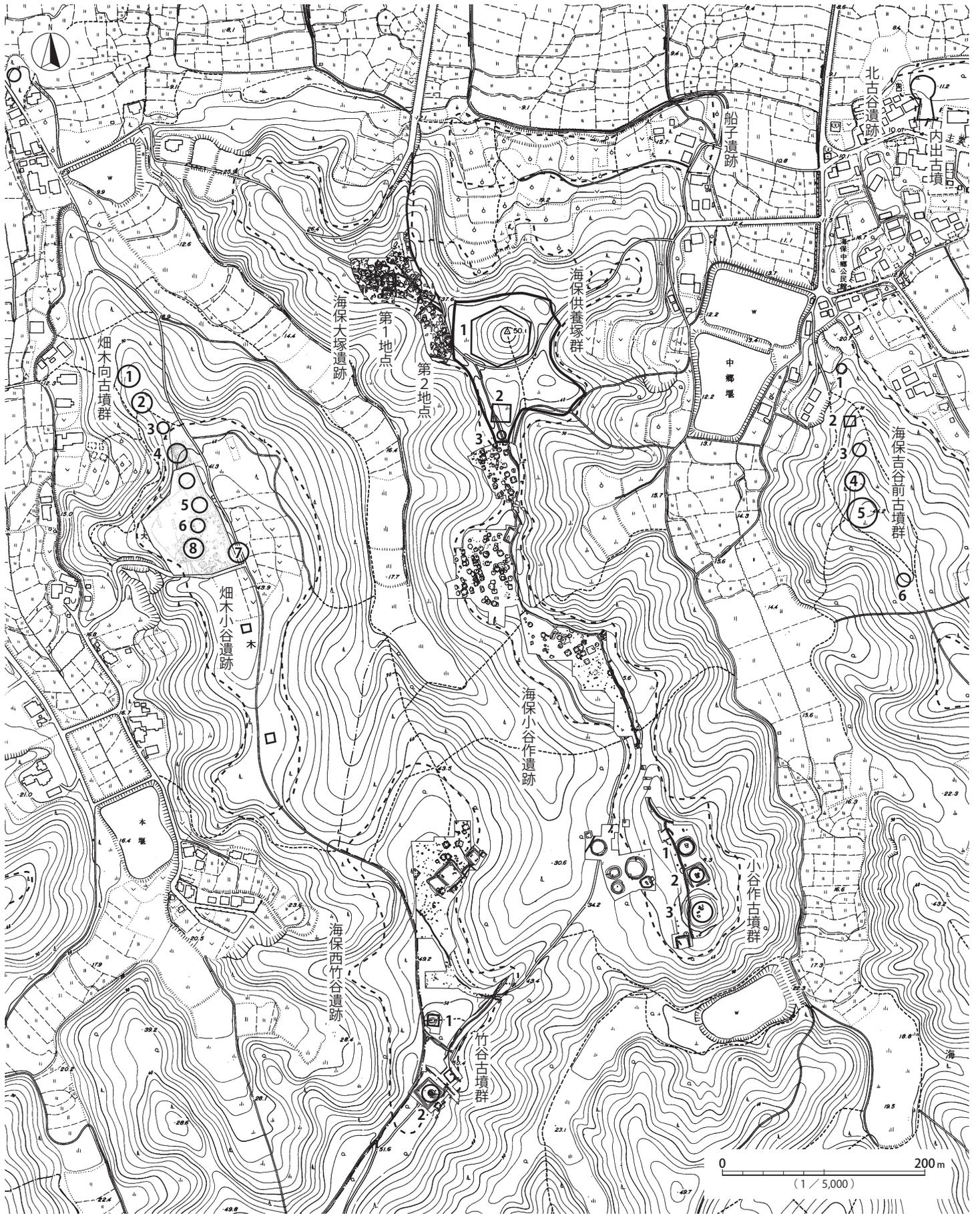
近辺には、東の尾根上に海保吉谷前古墳群、西の尾根上に畑木向古墳群、大塚山に続く台地の基部に小谷作古墳群・竹谷古墳群が分布する。東の尾根を下った北方には中期古墳と推定される前方後円墳、内出古墳（全長44m）が所在する。

海保大塚遺跡は台地上平坦面に広がる古墳時代の包蔵地で、近年、開発事業に伴う発掘調査が行われている。今回調査区の西側、第1地点・第2地点では、縄文時代早期・弥生時代後期～終末期・古墳時代前期～終末期・奈良・平安時代の遺構が検出されている（大山他2014）。第2地点では海保大塚の西側隣接部において円墳周溝が検出されている（木對・近藤2017）。また、円形塚の南方では海保小谷作遺跡調査区において、縄文時代・弥生時代後期～終末期・古墳時代前期～中期・終末期・奈良・平安時代・中近世の遺構・遺物が検出されている（大山他2014）。

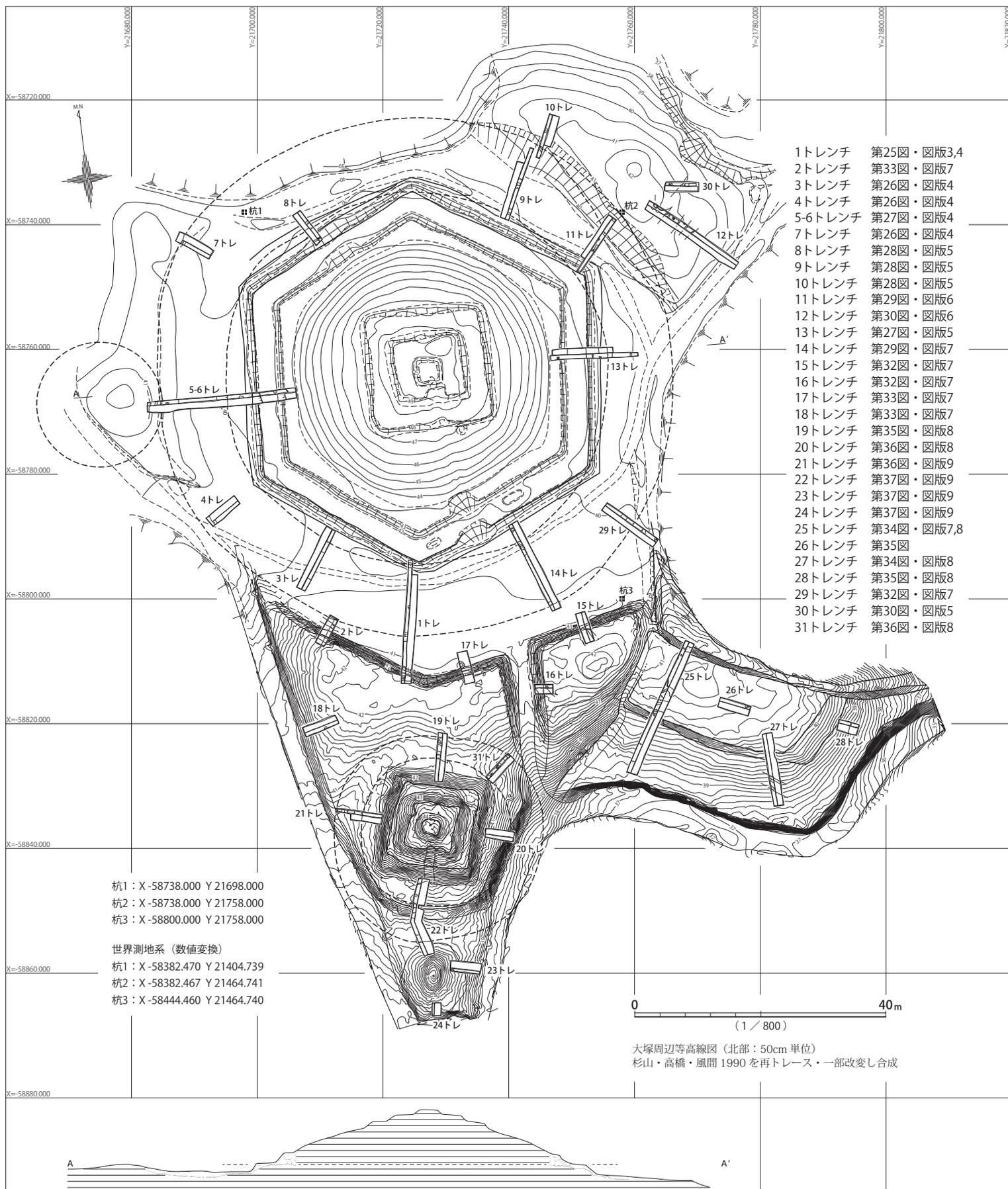
海保大塚は規模の大きさから考えて、近世の塚として全体が築造された可能性は低いと見られるが、古墳であった場合、いかなる時期の所産かは意見が分かれている。

既往の調査 海保供養塚群の発掘調査はこれまで行われていないが、海保大塚を対象とした測量調査が平成元年に実施されている（杉山・高橋・風間1990、第24図上半に改図転載）。包蔵地である海保大塚遺跡については、開発事業に伴う発掘調査が行われ、尾根先端寄りにある第1地点の報告書が刊行されている（大山他2014）。第1地点では、縄文時代早期の炉穴、弥生時代後期から終末期の集落跡、古墳時代終末期までの墓域等が検出されている。第1地点と海保大塚の間にあたる第2地点においても同様の遺構群の展開が把握されている（木對・近藤2017）。

近隣の包蔵地では、海保小谷作遺跡（大山他2014）、海保西竹谷遺跡（大山他2014）、海保広作



第23図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 周辺地形図



- 1トレンチ 第25図・図版3,4
- 2トレンチ 第33図・図版7
- 3トレンチ 第26図・図版4
- 4トレンチ 第26図・図版4
- 5-6トレンチ 第27図・図版4
- 7トレンチ 第26図・図版4
- 8トレンチ 第28図・図版5
- 9トレンチ 第28図・図版5
- 10トレンチ 第28図・図版5
- 11トレンチ 第29図・図版6
- 12トレンチ 第30図・図版6
- 13トレンチ 第27図・図版5
- 14トレンチ 第29図・図版7
- 15トレンチ 第32図・図版7
- 16トレンチ 第32図・図版7
- 17トレンチ 第33図・図版7
- 18トレンチ 第33図・図版7
- 19トレンチ 第35図・図版8
- 20トレンチ 第36図・図版8
- 21トレンチ 第36図・図版9
- 22トレンチ 第37図・図版9
- 23トレンチ 第37図・図版9
- 24トレンチ 第37図・図版9
- 25トレンチ 第34図・図版7,8
- 26トレンチ 第35図
- 27トレンチ 第34図・図版8
- 28トレンチ 第35図・図版8
- 29トレンチ 第32図・図版7
- 30トレンチ 第30図・図版5
- 31トレンチ 第36図・図版8

第24図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 全体図

遺跡(忍澤2015)、古墳群では、海保吉谷前古墳群(海保古墳群)(中村他1968)、南側の尾根の畑木小谷遺跡・畑木向古墳群(北見1999、北見・鶴岡2000、北見2002)の一部が発掘調査されている(第23図)。海保小谷作遺跡は今回調査範囲の南に接し、谷に区切られた4つの平坦面の北側3区で竪穴建物跡が多く検出されており、弥生時代後期以降、古墳時代前期後半を中心とする集落跡と古墳時代中期以降主体の古墳群、小谷作古墳群が調査されている。小谷作古墳群の周知の古墳は3基だったが、調査により西側緩斜面において新たに円墳群が検出されている。小谷作古墳群の西の尾根にある海保西竹谷遺跡では古墳時代終末期の集落跡と前方後方墳を含む墓域が検出され、竹谷古墳群の周知の範囲外にも古墳の広がり確認された。姉崎古墳群を構成する六孫王原古墳(市指定史跡)(中村・沼沢・田中1975)は古墳時代終末期の前方後方墳として知られるが、海保地区においても同様の墓制が採用されている点は養老川下流域周辺の地域性に関わる興味深い現象である。

調査方法 11,908㎡を対象に450㎡のトレンチを設定した。トレンチ内を遺構確認面(ハードローム層の地点が多い)まで掘り下げた後、幅60cmのサブトレンチを設定し、性格把握のため部分的に遺構を調査した。検出状況は一眼レフデジタルカメラと6×7版カメラで撮影し、トレンチ・遺構の平面図(電子平板)・断面図(1/20)を記録した。埋め戻し後には、これまで測量の及んでいない南半部を対象に、補足的に墳丘・地形測量を電子平板で行った(第24図、10cm等高線部)。基準点測量を実施し、現地に埋標を設置した(第24図、杭1～3)。なお、海保大塚と三山塚の墳丘上については現状を保存するため、墳丘裾の一部を除きトレンチ掘り下げを行わず、地中レーダー探査を実施した。成果は次年度報告予定である。

海保大塚周辺トレンチ

海保大塚下層古墳の存否と帰属時期の把握を目指し、外周を中心に12本のトレンチを設定した。保存目的の確認調査であるため墳丘の掘削は最小限に留めた。

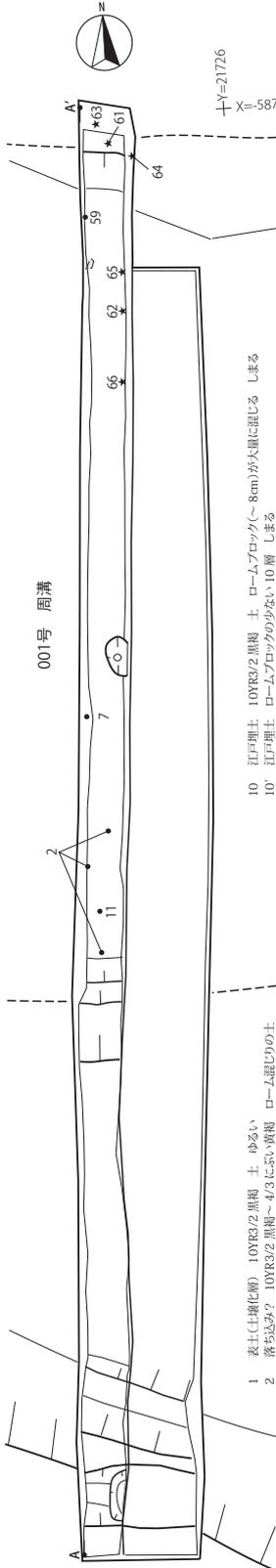
1 トレンチ(第25図・図版3・4)

墳丘裾部から外堤部にかけて設定したトレンチで、海保大塚下層古墳周溝001号を検出した。規模は、南北(上端間)幅が11.5m、遺存する深さ(外周上端―底面間)が約90cmである。001号は海保大塚外周各トレンチで検出されているが、1トレンチ内が最も良好に遺存する。遺存部断面形は浅く平らなフライパン状を呈し、若干墳丘寄りが最深部となる。覆土は黒色土主体で、肩部斜面にローム層主体の初期堆積が認められるほかは、漸移的、連続的に堆積したように見受けられる。墳丘側へ寄るにつれて層厚を減じるが、谷への侵食水準にあたり下刻を受けやすいためと考えられる。

古墳周溝覆土(図中網掛け部)の上には、人為的な整地によると考えられるハードロームブロックを多く含む堅緻な層が堆積する。このため現地表面から平面検出時の深度では地山ローム層と見紛う外観である。海保大塚墳丘盛土はこの上部層とほぼ連続しており、古墳周溝凹地の平坦化と塚盛土に近い時期に行われたことを示す。海保大塚最下段六角形部盛土は締まりがなく、突き固めたというよりは寄せ整えた印象である。盛土最下層はハードローム層に直接堆積することから、塚整備時に表土層以下が削平されたことがわかる。板状焼成粘土塊片の伴う盛土最下層を中心に鑄造関係遺物と見られる土製品(第38図60～65)が出土したほか、周溝上部層に焼土ブロックが目立ち、埋土整地後、塚整備に伴って何らかの金属製品制作が行われた可能性がある。

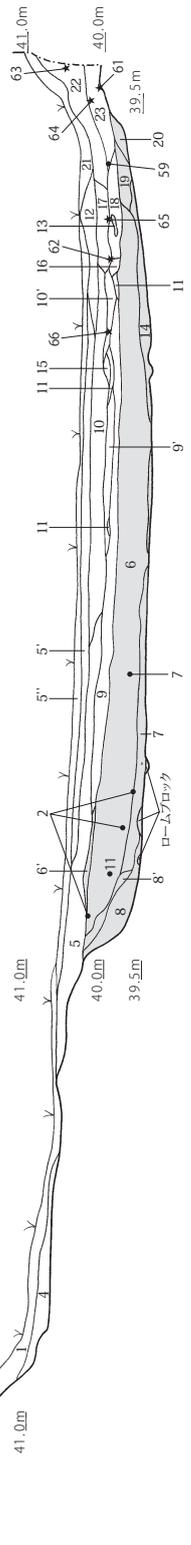
X=58814
Y=21722

1 トレンチ

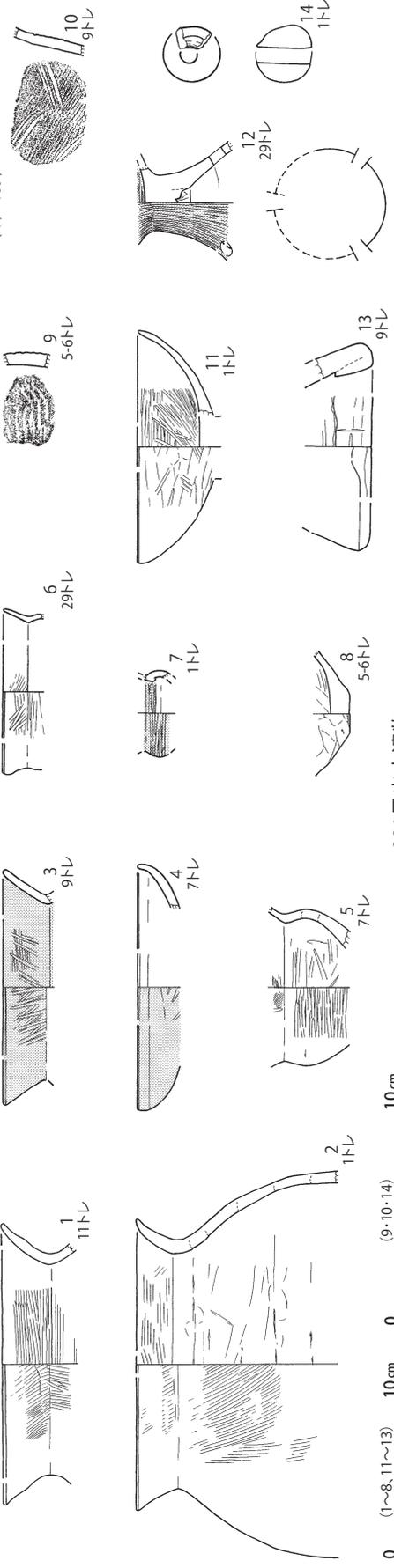


X=58794
Y=21726

- 1 表土(土壌化層) 10YR3/2 黒褐色 土 ゆるい
- 2 落ち込み? 10YR3/2 黒褐色 土 ゆるい
- 3 ややゆるい? 10YR3/2 黒褐色 土 4/3 に近い黄褐色 土 滑らかな質土か
- 4 近世造成土 10YR4/3 に近い黄褐色 土 ローム層(〜3cm)混じる
- 5 黒褐色土 10YR5/6 明赤褐色 土 炭化物混じりのローム層
- 6 黒褐色土 10YR2/4 黒褐色 土 黒みの強い5層 土 土
- 7 黒褐色土 10YR2/4 黒褐色 土 炭土層・ローム層(〜5mm)混じる
- 8 黒褐色土 10YR3/1 黒褐色 土 炭土層(〜1cm)混じる
- 9 黒褐色土 10YR3/1 黒褐色 土 炭土層(〜1cm)混じる
- 10 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 11 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 12 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 13 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 14 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 15 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 16 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 17 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 18 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 19 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 20 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 21 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 22 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる
- 23 江戸埋土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム層(〜8cm)が大量に混じる



0 3m
(1/100)



0 10cm
(1/3)
0 10cm
(1/4)

001号出土遺物

第25図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 断面図(1)・出土遺物 実測図(1)

塚最下段と対応し平面六角形状を呈する外堤部は、ゆるい盛土層が見られ、地山削り出し後に塚墳丘に合せて整形されたと考えられる。古墳周溝外周から外堤部にかけてのこの削平土が、周溝上部層・塚盛土の供給源となったのであろう。なお、現地表では外堤部は1段に見えるが、サブトレンチ内で下位に低い段が検出されている。全周するかは不明だが、墳丘に合せ2段の形成が意図された可能性も考えられる。外堤部上面下層には盛土に先行する幅80cmほどの溝状遺構もしくは土坑が伴う。

外堤部上面と墳丘六角形部最下段上面を結んだ高さの標高41～42mが本来の地山レベルであり、周溝001号が掘削された時点で掘り込み面が大きく下がっていた可能性がある。古墳構築時の地山削り出しは、狭い尾根上地形において墳丘盛土を確保するためという側面があったのかもしれない。なお、古墳周溝外周上端は、現在の位置よりさらに高く外側にあったはずで、本来の周溝上端は外堤部整備時に破壊されたと考えられる。

周溝001号覆土からは古墳時代土師器を中心に、縄文土器・礫・弥生土器が少量出土した(第25図2・7・11)。他のトレンチを含め、001号出土遺物は、図掲載資料以外も古墳時代前期の土師器片が主体を占め、埴輪・須恵器は確認できなかった。

3トレンチ(第26図・図版4)

海保大塚南西辺にあたる。1トレンチから続く周溝001号を検出した。西側に谷頭が迫るため侵食作用を受けやすく、周溝遺存部は30cm程度と浅い。墳丘側には六角形へ整形するため裾を掘り込んだ、溝状の形跡が検出された。この掘り込みの存在は、直線的に整える際に余分な箇所があったがゆえに削られたことを示しており、古墳墳丘裾部がこの付近まで及んでいたことを表している。遺物は、土師器・礫・黒曜石片がごく少量出土した。

4トレンチ(第26図・図版4)

海保大塚南西角に位置する。周溝001号の一部を検出した。3トレンチより谷に近く001号覆土は底面近くのみ、層厚20cm程度が遺存する。古墳築造時の周溝外周上端はすでに侵食されたと考えられる。遺物は、縄文土器・礫・弥生土器・土師器が少量出土した。

7トレンチ(第26図・図版4)

海保大塚北西角に位置する。周溝001号の外周部を検出した。3トレンチより谷に近く001号覆土は底面近くのみ遺存する。遺物は土師器を中心に、弥生土器・礫が少量出土した(第25図4・5)。4・5とも古墳時代前期土師器である。

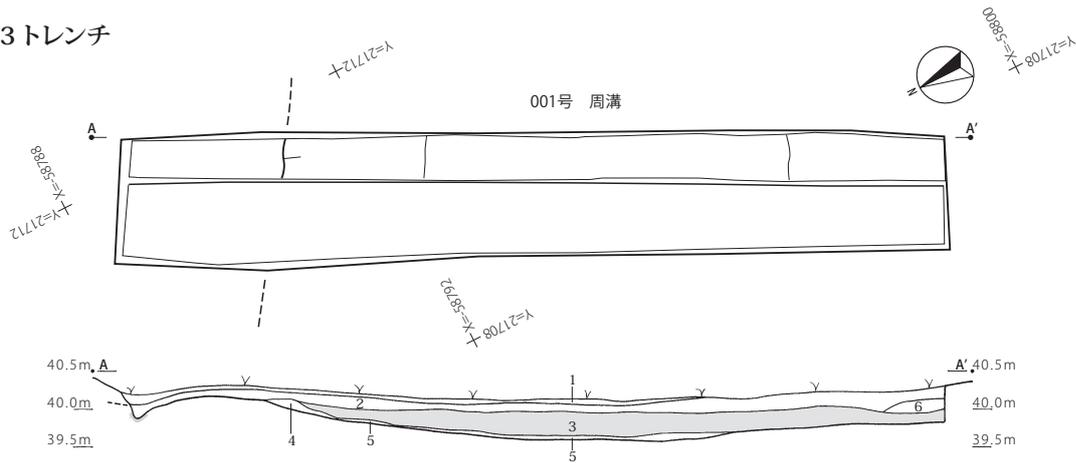
5-6トレンチ(第24・27図・図版4)

海保大塚西辺にあたる。当初は墳丘部(6トレンチ)と外周部(5トレンチ)に分かれていたが、001号検出に伴って拡張のうえ接続し、一本化した。墳丘側では2段目までを対象にサブトレンチを掘り下げ、墳丘盛土について観察した。第24図の墳丘エレベーション図内の土層断面図は、形状と標高に基づいて合成した投影図であり実際の掘り下げラインではない。

墳丘1段目は塚盛土がハードローム層直上にゆるく堆積しており、1トレンチと同じく旧表土が削られている。締まりに乏しい塚盛土層は2段目まで連続し、六角形段部として整形され、土質に反して比較的シャープな形状を維持している。

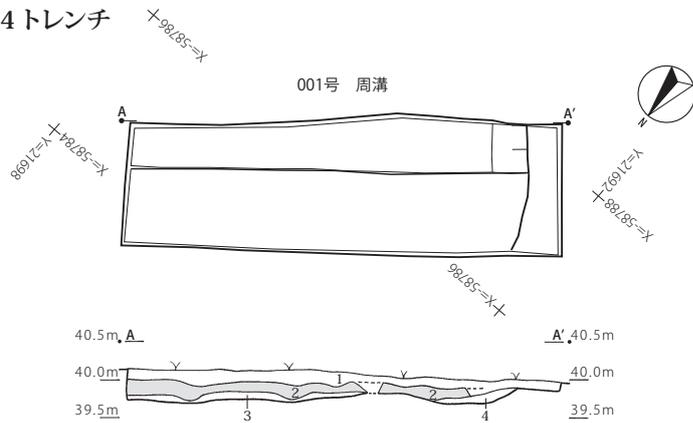
塚盛土下層には古墳盛土が検出され、境界部を除いては色調・堆積状況等により明確に区別でき

3トレンチ



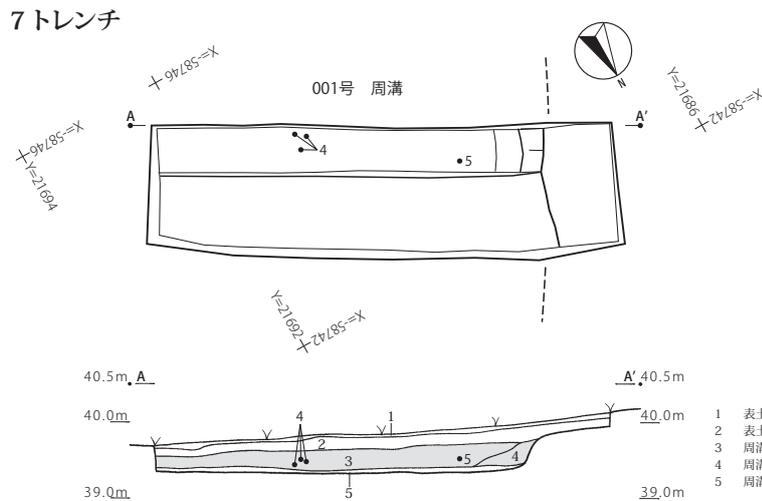
- | | |
|--|--|
| 1 表土 土壌化層・根による攪乱
10YR3/1 黒褐 土 しまる | 4 漸移層 10YR4/3 にふい黄褐～3/2 黒褐 土 しまる |
| 2 江戸期埋土 10YR4/3 にふい黄褐～3/2 黒褐 土
ローム微粒・ブロック(~1cm)が混じる よくしまる | 5 漸移層 10YR5/4 にふい黄褐～3/1 黒褐
ローム混じりの土 しまる |
| 3 古墳周溝 10YR3/1 黒褐～2/1 黒 土
ローム粒・焼土粒(~3mm)混じる しまる | 6 江戸期埋土? 10YR5/6 黄褐 ロームブロック主体土 しまる |

4トレンチ

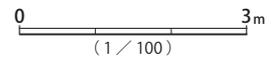


- | |
|---|
| 1 表土 根による攪乱が著しい 土壌化層 10YR3/1～3/2 黒褐 土 まだらにゆるい |
| 2 周溝覆土 10YR3/1 黒褐～2/1 黒 土 ローム粒・ブロックが混じる よくしまる |
| 3 周溝覆土(漸移層) 10YR4/3 にふい黄褐 ローム主体土 よくしまる |
| 4 周溝覆土(初期堆積) 10YR3/2 黒褐 土 ローム粒(~3mm)混じる しまる |

7トレンチ

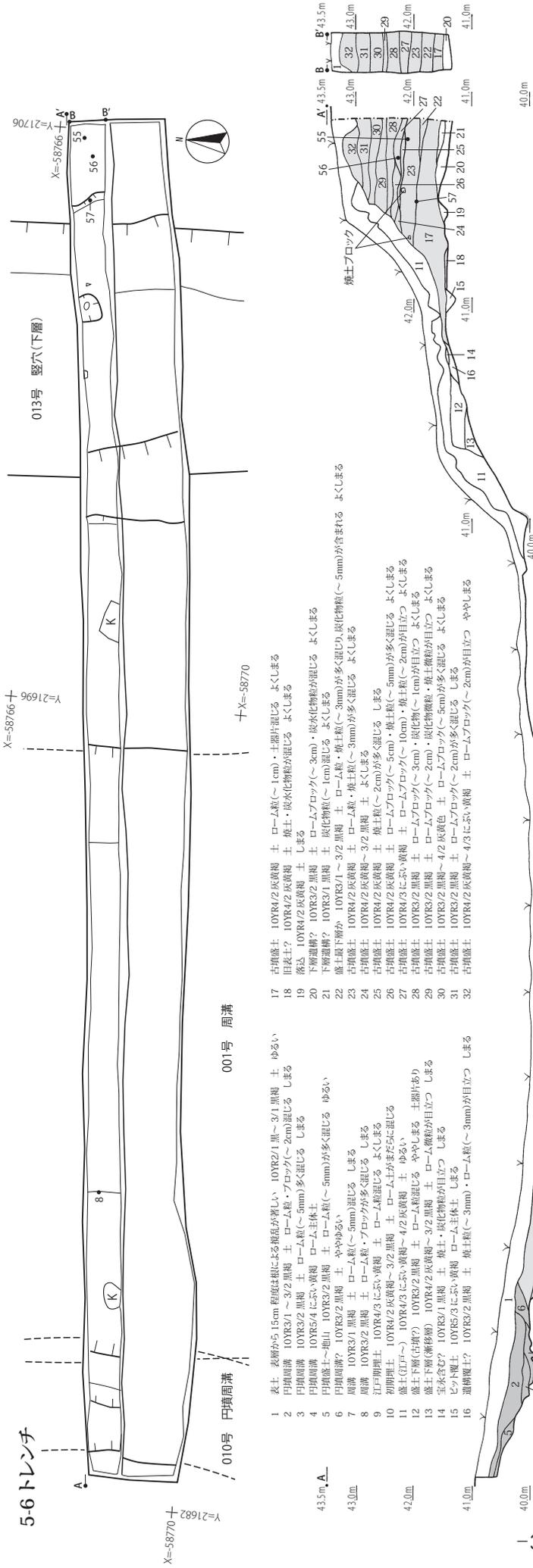


- | |
|--|
| 1 表土 根による攪乱が著しい 10YR3/1～3/2 黒褐 土 ゆるい |
| 2 表土下部 10YR3/2 黒褐 土 ローム微粒混じる ゆるい |
| 3 周溝覆土 10YR3/1 黒褐～2/1 黒 土 ローム粒(~3mm)混じる ややしまる |
| 4 周溝覆土 10YR3/2 黒褐～4/3 にふい黄褐 土 ローム粒(~5mm)が多く混じる しまる |
| 5 周溝覆土(漸移層) 10YR3/2 黒褐～4/3 にふい黄褐 ローム混じりの土 しまる |

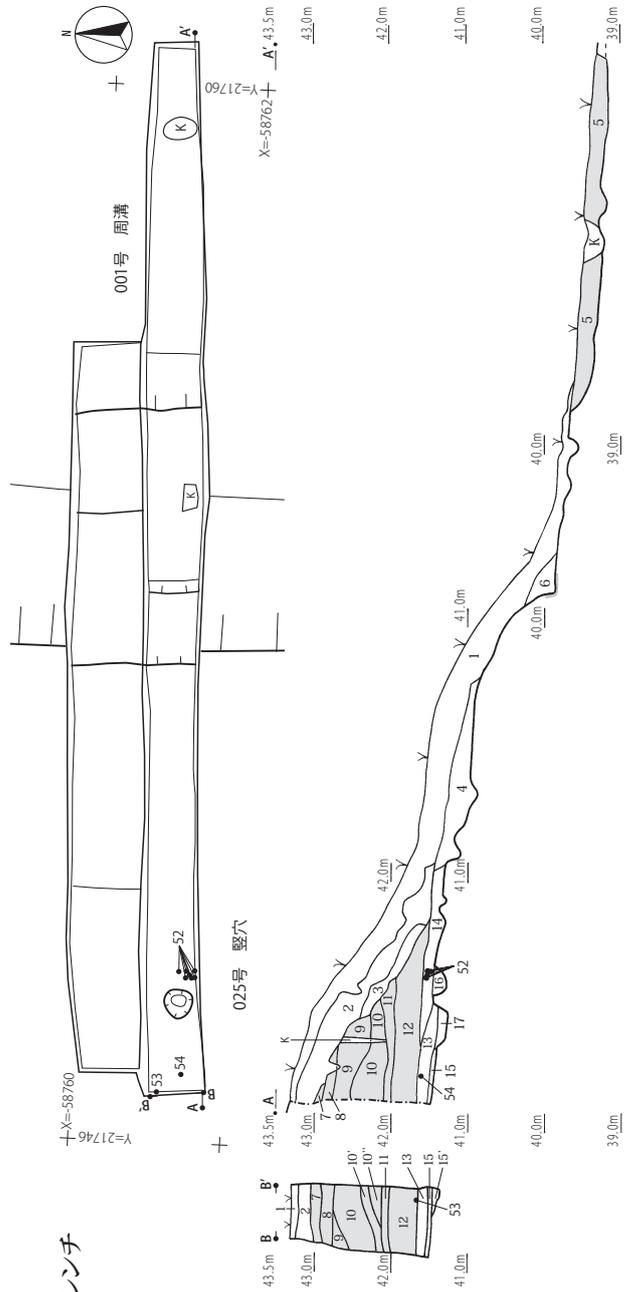


第26図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(2)・断面図(2)

5-6トレンチ



13トレンチ



001号 周溝

- 1 表土 表層から15cm程度は根による崩れが著しい。10YR2/1黒〜3/1黒褐 土 ゆらい
- 2 円墳周溝 10YR3/1〜3/2黒褐 土 ローム粒・ブロック(〜2cm)混じる しまる
- 3 円墳周溝 10YR3/2黒褐 土 ローム粒(〜5mm)多量混じる しまる
- 4 円墳周溝 10YR3/4にぶい黄褐 土 ローム粒(〜3mm)多量混じる しまる
- 5 円墳周溝 10YR3/2黒褐 土 ややゆらい
- 6 円墳周溝 10YR3/2黒褐 土 ややゆらい
- 7 周溝 10YR3/2黒褐 土 ローム粒(〜5mm)混じる しまる
- 8 周溝 10YR3/1黒褐 土 ローム粒・ブロックが多量混じる しまる
- 9 周溝 10YR3/2黒褐 土 ローム粒・ブロックが多量混じる しまる
- 10 初埋土 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム土がまだらに混じる
- 11 盛土(江戸?) 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム粒混じる ややしまる 土層片あり
- 12 盛土(下層(漸移層)) 10YR3/2黒褐 土 ローム粒混じる ややしまる
- 13 盛土(下層(漸移層)) 10YR4/2灰黄褐〜3/2黒褐 土 ローム粒が多量混じる しまる
- 14 至承床? 10YR3/1黒褐 土 焼土粒・炭化物粒が目立つ しまる
- 15 ベッド層土 10YR5/9にぶい黄褐 土 焼土粒・炭化物粒が目立つ しまる
- 16 遺構層? 10YR3/2黒褐 土 焼土粒(〜3mm)・ローム粒(〜3mm)が目立つ しまる
- 17 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒(〜1cm)・土層片混じる ややしまる
- 18 旧表土? 10YR4/2灰黄褐 土 焼土・炭化物粒が混じる ややしまる
- 19 落込 10YR4/2灰黄褐 土 しまる
- 20 下層遺構? 10YR3/2黒褐 土 ロームブロック(〜3cm)・炭化物粒が混じる ややしまる
- 21 下層遺構? 10YR3/1黒褐 土 炭化物粒(〜1cm)混じる ややしまる
- 22 盛土(下層) 10YR3/1〜3/2黒褐 土 ローム粒・焼土粒(〜3mm)が多量混じる ややしまる
- 23 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒・焼土粒(〜3mm)が多量混じる ややしまる
- 24 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 焼土粒(〜2cm)が多量混じる しまる
- 25 古墳盛土 10YR4/3にぶい黄褐 土 ロームブロック(〜5cm)・焼土粒(〜5mm)が多量混じる しまる
- 26 古墳盛土 10YR4/3にぶい黄褐 土 ロームブロック(〜10cm)・焼土粒(〜2cm)が目立つ ややしまる
- 27 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 ロームブロック(〜3cm)・炭化物粒・焼土粒が目立つ ややしまる
- 28 古墳盛土 10YR3/2黒褐 土 ロームブロック(〜2cm)・炭化物粒・焼土粒が多量混じる しまる
- 29 古墳盛土 10YR3/2黒褐 土 ロームブロック(〜2cm)・炭化物粒・焼土粒が多量混じる しまる
- 30 古墳盛土 10YR3/2黒褐 土 ロームブロック(〜2cm)・炭化物粒・焼土粒が多量混じる しまる
- 31 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 4/3にぶい黄褐 土 ロームブロック(〜2cm)が目立つ ややしまる
- 32 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 4/3にぶい黄褐 土 ロームブロック(〜2cm)が目立つ ややしまる

010号 円墳周溝

- 1 表土 根・土壌化 塚盛土が土壌化した部分を含む
- 2 塚盛土 1層よりしまる
- 3 塚盛土 1層よりしまる
- 4 下層遺構? 10YR3/2黒褐 土 ローム粒・ブロックが多量混じる ややしまる
- 5 周溝(土上面露出した層) 10YR3/2黒褐 土 ローム粒・ブロック混じる ややゆらい(土層化のため)
- 6 江戸期・覆土 10YR2/2〜3/1黒褐 土 ローム粒混じる ゆらい
- 7 古墳盛土 10YR3/2黒褐 土 ローム粒・ブロック(〜1cm)が多量混じる ややしまる
- 8 古墳盛土 10YR3/2黒褐 土 4/3にぶい黄褐 土 ローム粒(〜5mm)が多い
- 9 古墳盛土 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム粒・ブロック(〜2cm)が多量混じる ややしまる
- 10 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒・ブロック(〜5mm)が多量混じる しまる
- 11 古墳盛土 10YR4/1黄褐 土 土層片あり
- 12 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒・ブロック(〜1cm)・焼土粒・炭化物粒が混じる
- 13 下層遺構? 10YR3/2黒褐 土 ローム粒(〜5mm)が混じり
- 14 下層遺構? 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム粒(〜3mm)がやや目立つ ややしまる
- 15 下層遺構? 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム粒混じる ややしまる
- 16 下層遺構? 10YR3/1黒褐 土 焼土粒・炭化物粒(〜3mm)が混じる
- 17 下層遺構? 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒(〜1cm)混じる しまる 床面土?

- 1 表土 根・土壌化 塚盛土が土壌化した部分を含む
- 2 塚盛土 1層よりしまる
- 3 塚盛土 1層よりしまる
- 4 下層遺構? 10YR3/2黒褐 土 ローム粒・ブロックが多量混じる ややしまる
- 5 周溝(土上面露出した層) 10YR3/2黒褐 土 ローム粒・ブロック混じる ややゆらい(土層化のため)
- 6 江戸期・覆土 10YR2/2〜3/1黒褐 土 ローム粒混じる ゆらい
- 7 古墳盛土 10YR3/2黒褐 土 ローム粒・ブロック(〜1cm)が多量混じる ややしまる
- 8 古墳盛土 10YR3/2黒褐 土 4/3にぶい黄褐 土 ローム粒(〜5mm)が多い
- 9 古墳盛土 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム粒・ブロック(〜2cm)が多量混じる ややしまる
- 10 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒・ブロック(〜5mm)が多量混じる しまる
- 11 古墳盛土 10YR4/1黄褐 土 土層片あり
- 12 古墳盛土 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒・ブロック(〜1cm)・焼土粒・炭化物粒が混じる
- 13 下層遺構? 10YR3/2黒褐 土 ローム粒(〜5mm)が混じり
- 14 下層遺構? 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム粒(〜3mm)がやや目立つ ややしまる
- 15 下層遺構? 10YR4/3にぶい黄褐 土 ローム粒混じる ややしまる
- 16 下層遺構? 10YR3/1黒褐 土 焼土粒・炭化物粒(〜3mm)が混じる
- 17 下層遺構? 10YR4/2灰黄褐 土 ローム粒(〜1cm)混じる しまる 床面土?

第27図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(3)・断面図(3)

た。サブトレンチの範囲では、古墳盛土は旧地表の黒色土層やソフトローム層ではなく、ハードローム層と下層遺構覆土の上面に形成されており、盛土前に地山掘削の伴う整地の行われた可能性が高い。古墳墳丘盛土は標高41.5m前後から積み上げられるが、古墳築造時には周溝底面の標高39.5m前後を最深部として外周地山が掘り下げられたものと思われる。古墳墳丘最下部は地山削り出しによるもので、周溝上端と墳丘盛土の間には数m幅の帯状空間があったと見られる。古墳盛土の高さは7～8m程度と推定でき、墳丘高との差はほぼ最下段分に相当する地山削り出し部の高さによるものである。

地山削り出し部裾の位置は、塚への改変に際してもおおむね踏襲されたように見受けられ、六角形部設定の溝状掘り込みのラインは、地山斜面下の若干内側に入る程度の位置に当たる。

周溝001号は覆土があまり遺存せず、層厚は30cmに満たない。4トレンチ側の谷への流下量が堆積を上回っているためと見られる。

西端で検出した古墳周溝010号は、隣接調査区で確認された直径約20mの円墳周溝の一部である(木對・近藤2017)。覆土が似ており平面・断面とも境界が不明瞭だったが、海保大塚周溝001号覆土を切ると判断した。今回調査区から構築時期を示す遺物は得られなかったが、周溝010号は隣接調査区において古墳時代中期後半(TK208型式期)と位置付けられており、海保大塚下層古墳の築造時期の下限を示す可能性がある。

出土遺物は、盛土内からは、土師器を中心に縄文土器・礫・弥生土器等が出土した。弥生土器は弥生時代後期、土師器は古墳時代前期が主体である。これらは墳丘築造に際して盛土に利用された周辺土層からの混入物である。盛土内に埴輪・須恵器片はまったく含まれない。墳丘下層の竪穴建物跡013号からは後期弥生土器片が少量出土している。周溝001号からは古墳時代前期土師器を中心に縄文土器・弥生土器・礫が出土した(第25図8・9)。周溝覆土からも埴輪・須恵器片は検出されていない。円墳周溝010号覆土からは土師器片がごく少量出土した。

13トレンチ(第27図・図版5)

海保大塚東辺にあたる。2段目までを対象に掘り下げ、サブトレンチを設定し墳丘盛土について確認した。東へ下りる谷に接しているため、トレンチ東半の墳丘より下は、侵食を強く受け表土が流出している。

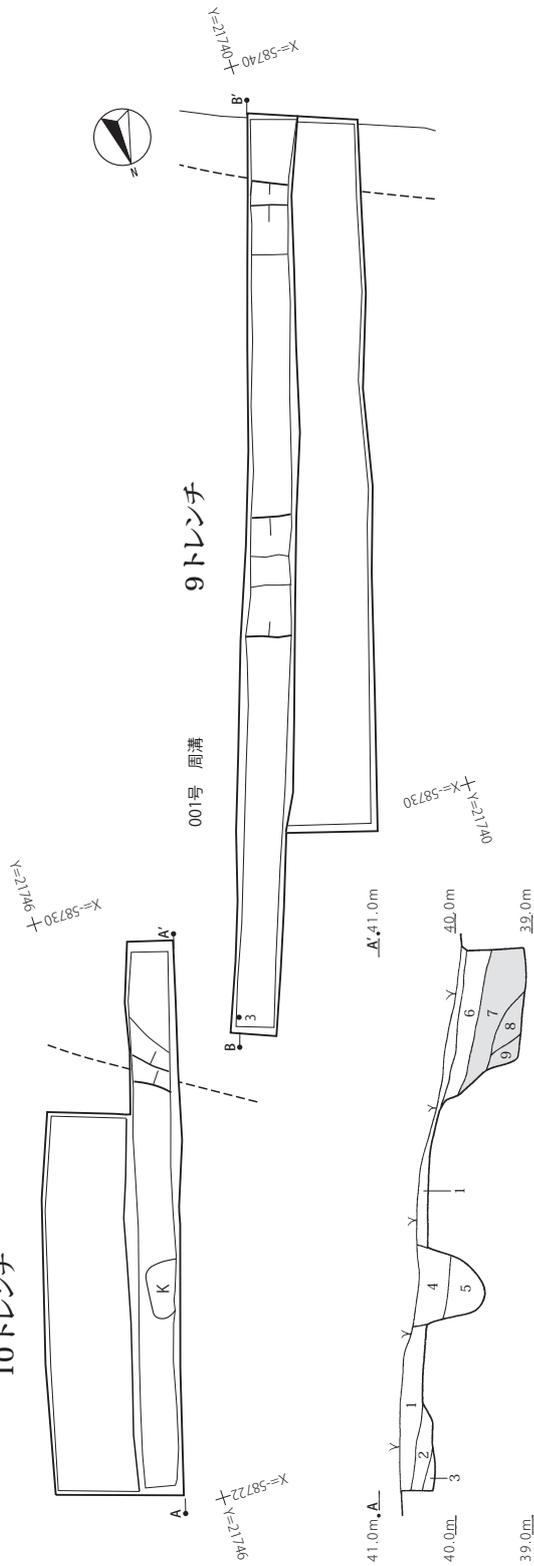
墳丘1段目は5-6トレンチと同様に、塚盛土がハードローム層直上にゆるく堆積し、塚改変時に旧表土が削られていたことがわかる。1段目上面とほぼ同レベルの標高41.5m前後より上に古墳盛土が築かれ、以下の墳丘は地山削り出しによる。

塚整備の際に掘り下げによる整形が行われており、削り出し部斜面下のハードローム層に明確なカット面が残されている。1段目下層の地山斜面の角度からすると、古墳築造時の裾部を1m程度削り込んでいるように見受けられる。

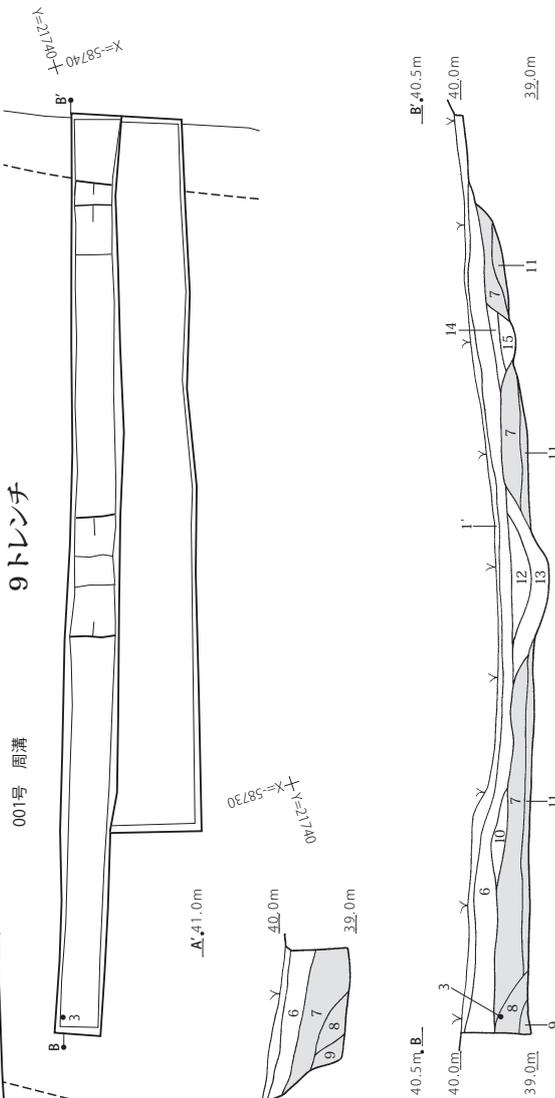
墳丘下層には弥生時代後期竪穴建物跡025号を検出した。覆土は焼土・炭化物の目立つもので、その下層から硬化した床面と柱穴1箇所(主柱穴か)、周溝の一部を確認した。覆土は層厚が薄く、古墳盛土最下層との間に黒色土層が見られないことから、5-6トレンチと同様に盛土堆積前に削平を伴う整地の行われたことがわかる。

周溝001号は検出されたが遺存不良である。強い侵食作用により、層厚は30cmに満たず、土壌

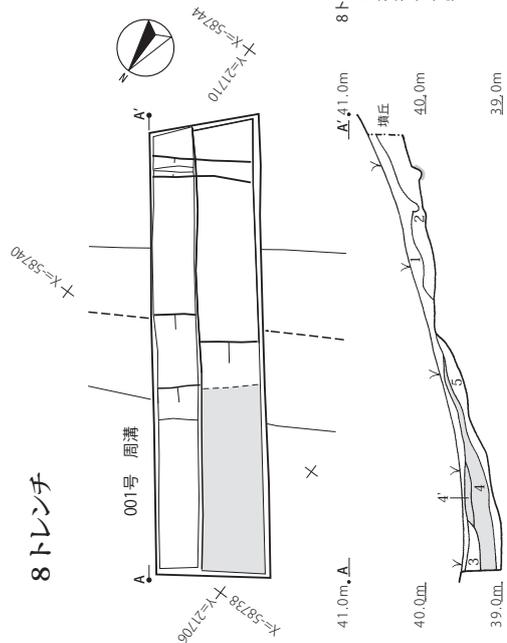
10トレンチ



9トレンチ



8トレンチ



9・10トレンチ

- 1 表土 粗面乱 土壌化層 10YR4/2 灰黄褐～3/2 黒褐 土 ややしまる
- 2 表土 粗面乱 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ゆるい
- 3 包含層～漸移層 10YR4/2 灰黄褐～4/3 にぶい黄褐 土 しまる
- 4 粗面乱 10YR5/4 にぶい黄褐～5/6 黄褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 5 粗面乱 10YR5/4 にぶい黄褐～5/6 黄褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 6 江戸期埋土～漸移層 10YR3/2 黒褐 土 ややしまる
- 7 周溝埋土 10YR2/1 黒～3/1 黒褐 土 土壌化層 10YR4/3 ～5/4 にぶい黄褐 土 ややしまる
- 8 周溝初期埋積 10YR4/2 灰黄褐～3/2 黒褐 土 土壌化層 10YR3/2 黒褐 土 ややしまる
- 9 周溝初期埋積 10YR4/3 にぶい黄褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 10 江戸期埋土～漸移層 10YR3/2 黒褐～4/2 灰黄褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 11 周溝埋土～漸移層 10YR3/1 黒褐～4/3 にぶい黄褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 12 古道埋土 10YR3/1 黒褐～3/2 黒褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 13 土壌化層 10YR3/2 黒褐～3/1 黒褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 14 土壌化層 10YR3/2 黒褐～3/1 黒褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 15 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる

8トレンチ

- 1 表土 粗による粗面乱 土壌化層 10YR3/2 ～3/1 黒褐 土 土壌化層 10YR4/3 ～5/4 にぶい黄褐 土 ややしまる
- 2 身盛土 10YR3/2 黒褐～3/2 暗褐 土 ややしまる
- 3 埋土 10YR4/2 灰黄褐～3/2 黒褐 土 ややしまる
- 4 周溝埋土 10YR2/1 黒～3/1 黒褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 5 周溝埋土(漸移層) 10YR4/3 ～5/4 にぶい黄褐 土 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる

第28図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(4)・断面図(4)

化した上面が地表に露出している。

古墳盛土内からは、後期弥生土器・古墳時代前期土師器を中心に、早期縄文土器・礫が少量出土した。盛土最下層からは、古墳築造時期の上限を示す、古墳時代前期中葉(草刈2式)(大村2009)の土師器小型壺形土器(第38図52)が出土した。塚盛土内からは目立った遺物は出土せず、001号覆土からは時期の指標となるような土器片は得られなかった。

8トレンチ(第28図・図版5)

海保大塚北西辺に位置する。周溝001号の内側上端を検出した。路面として利用されていたため、遺構検出面では周溝覆土上面に硬化面が生じていた。北に谷が迫ることから、強い侵食を受け、周溝覆土は20cm程度が遺存するのみである。

墳丘側では塚整備に伴う溝状の掘り込みを検出した。8トレンチ付近の現在の1段目は屈折部が流れて段が不明確になっているが、この掘り込みが本来の塚の裾位置に近いことを示している。

遺物は土師器片等が少量出土した。

9トレンチ(第28図・図版5)

海保大塚北東辺に位置する。周溝001号の内側上端を検出した。比較的遺存状態は良く、層厚は50cmを超える。中程を北の谷へ下りていく古道跡が横切る。

大塚南側外堤部ほど明確な段部は遺存していないが、001号外周側には覆土上面に盛土が認められ、大塚整備の一環として埋土による整地が行われたと見られる。

遺物は、土師器・弥生土器を中心に、縄文土器・礫が少量出土した(第25図3・10・13)。

10トレンチ(第28図・図版5)

海保大塚北東辺に位置する。周溝001号の外周上端を検出した。9トレンチ検出の上端との間隔は約12mで、1トレンチの11.5mより若干広い。覆土は比較的良く残り層厚は60cmを超える。

001号以北に遺構は検出されなかったが、表土層で縄文土器片と焼割礫が少量出土している。

11トレンチ(第29図・図版6)

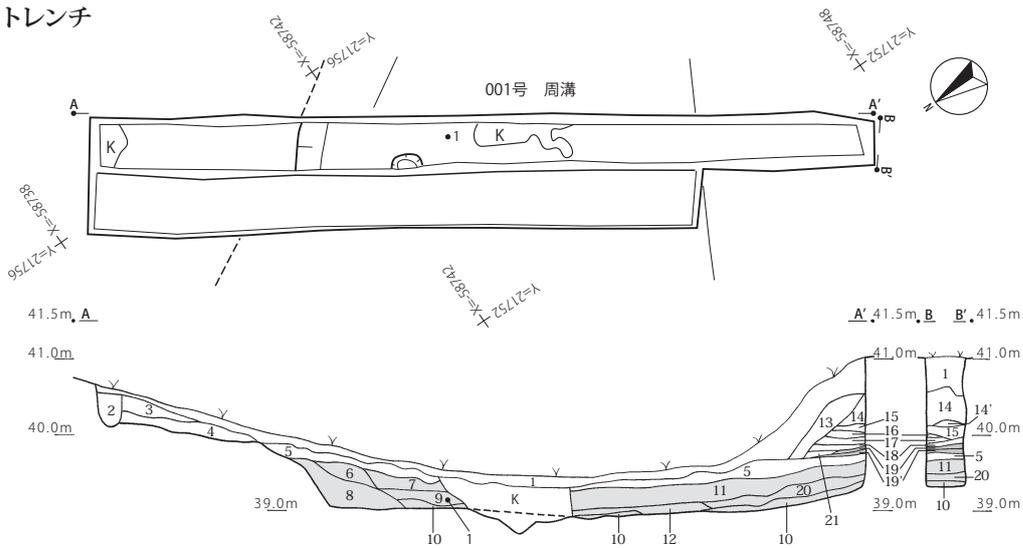
海保大塚北東角に位置する。調査区北東部の高まりと墳丘の間に設定し、墳丘側へサブトレンチを拡張した。

北東部から大塚裾へ下る斜面の途中で周溝001号外周上端を検出し、1トレンチと同様の上部埋土層を確認した。周溝覆土は明確な黒色土層で30～60cmの層厚があり、最深部は検出部中央付近にある。調査前には、大塚を後円部、北東部の高まりを前方部とする前方後円墳である可能性も考えていたが、001号の検出により、北東部は古墳築造による改変を免れた残存地形であることが明らかになった。大塚東辺の13トレンチで確認された地山削り出し上面は標高41.5m、残存地形である北東部の頂部は42.0mであり、古墳築造に伴う整地は50cm程度、周溝底面までは3m近く掘り下げたと推定される。

トレンチ南壁面(SP B-B')では、下層から、001号覆土→ローム主体埋土→富士宝永テフラ→塚盛土、という堆積状況を確認した。周溝覆土上のローム主体土による埋土は塚段部整備に先立ち、宝永テフラ降下(1707年)にも先行することが明らかになった。

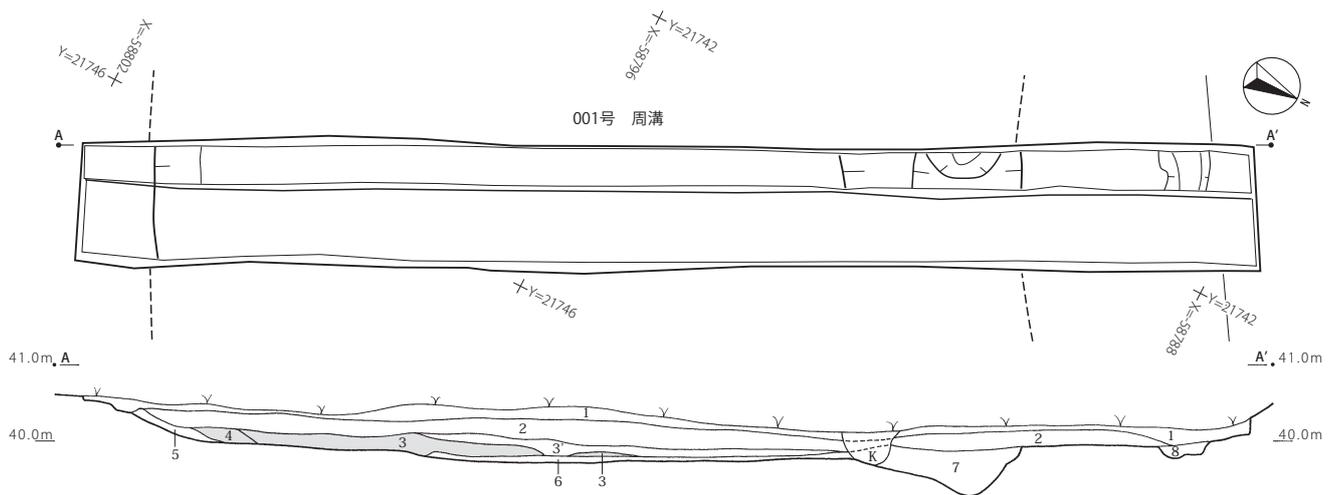
遺物は、弥生土器を中心に、縄文土器・礫・土師器が少量出土し、周溝001号覆土からは古墳時代前期土師器が出土した(第25図1)。

11 トレンチ

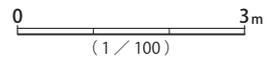


- 1 表土 根による攪乱が著しい
- 2 攪乱 10YR3/2 黒褐 土 ロームブロック(~3cm)が混じる ゆるい
- 3 江戸期盛土 10YR4/2 灰黄褐 土 ゆるい
- 4 漸移層 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム主体土 しまる
- 5 江戸期埋土 10YR4/3 ~ 5/4 にぶい黄褐 ローム主体土 ややゆるい
- 6 周溝 10YR3/2 黒褐 ~ 4/3 にぶい黄褐 土 ローム粒(~5mm)が多く混じる しまる
- 7 周溝 10YR3/2 黒褐 土 ローム微粒が多く混じる
- 8 周溝 10YR4/3 にぶい黄褐 スコリア状粒を多く含むローム主体土 ロームブロック(~3cm)が多く混じる ややしまる
- 9 周溝 10YR3/1 黒褐 土 ローム粒(~5mm)が多く混じる しまる
- 10 周溝 10YR4/3 にぶい黄褐 ~ 10YR4/2 灰黄褐 ローム混じりの土 ややしまる
- 11 周溝 10YR2/1 黒 土 ローム微粒・ローム粒(~5mm)・焼土微粒が混じる よくしまる
- 12 周溝覆土 10YR3/2 黒褐 土 ローム粒・ブロックが多く混じる ややしまる
- 13 塚盛土 10YR2/1 黒 ~ 3/1 黒褐 土 ローム微粒が混じる ゆるい 1と同様ゆるいので修築土か
- 14 塚盛土 10YR3/1 ~ 3/2 黒褐 土 ロームブロック(~3cm)が多く混じる ややしまる
- 15 塚盛土 ロームブロックが少なく黒色土の多い14層 ゆるい
- 16 塚盛土 10YR3/1 黒褐 ~ 4/1 褐灰 土 ロームブロック(~3cm)が多く混じる ややゆるい
- 17 塚盛土 10YR3/1 黒褐 土 ローム微粒混じる しまる
- 18 塚盛土 10YR5/4 にぶい黄褐 ロームブロック主体土 しまる
- 19 宝永テフラ主体土 5Y5/2 灰オリブ テフラ 黄灰色になった宝永テフラ
- 19' 宝永テフラ主体土 5Y4/1 灰 宝永テフラ
- 20 周溝 暗褐 土
- 21 塚盛土 10YR4/2 灰黄褐 ロームブロック主体土 しまる

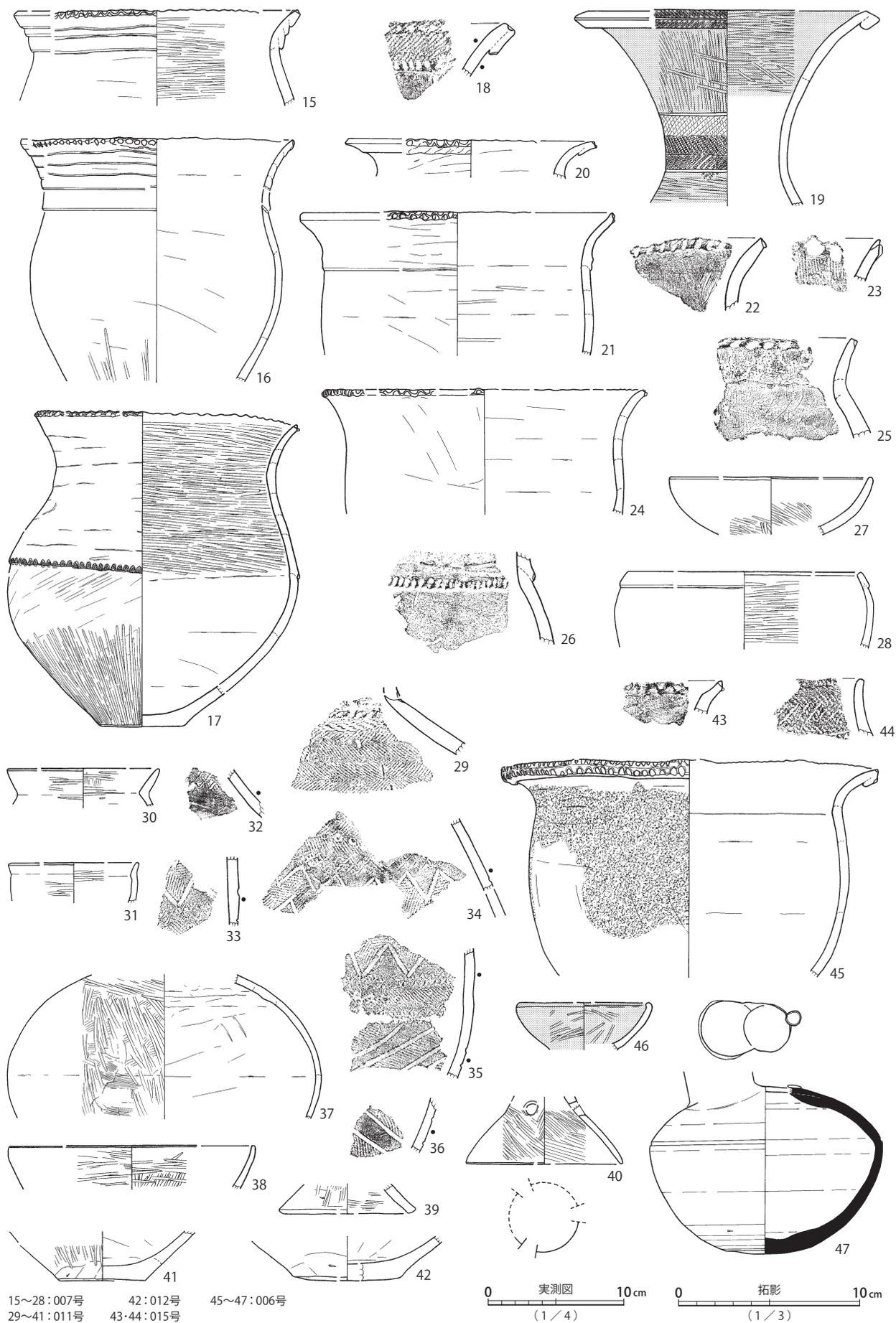
14 トレンチ



- 1 表土 根攪乱 土壌化層 10YR3/2 ~ 3/1 黒褐 土 ゆるい
- 2 江戸期埋土 10YR4/3 にぶい黄褐 土 ローム粒・ブロック(~5cm)が多く混じる しまる
- 3 周溝覆土 10YR2/1 黒 土 ローム粒(~5mm)・焼土微粒混じる しまる
- 3' 江戸~古墳漸移層 ロームブロックは伴わないが黄褐色の強い3層 早い時期に流失した3層の上面か
- 4 周溝覆土 10YR3/2 ~ 3/1 黒褐 土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒(~3mm)が混じる ややゆるい
- 5 周溝初期堆積 10YR4/3 にぶい黄褐 土 しまる
- 6 漸移層 10YR5/4 にぶい黄褐 ~ 4/2 灰黄褐 ローム混じりの土 しまる
- 7 土坑? 10YR4/2 灰黄褐 ~ 3/2 黒褐 土 ローム微粒・焼土微粒(~1mm)が混じる しまる
- 8 江戸期掘込か 10YR3/2 黒褐 土 ロームブロック(~3cm)混じる ややゆるい



第29図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(5)・断面図(5)



第31图 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 出土遺物 実测图(2)

29トレンチ(第32図・図版7)

大塚南東角に位置する。周溝001号外周を検出した。001号覆土の層厚は20cm程度で、上端位置も不明瞭であり遺存状態は良くない。覆土上面にはローム主体土にハードロームブロックが混じる埋土が厚く堆積し、塚整備に伴う整地が及んでいる。平面検出時は地山ローム層との区別が困難なほど一体化していた。トレンチ南東側には現在の道路とその下層(014号)に路面硬化土層、土坑026号を検出した。いずれも整地土層より後出する時期と思われる。

遺物は、土師器(第25図6・12)を中心に、縄文土器・礫・黒曜石片・緑泥片岩片・弥生土器が少量出土した。

14トレンチ(第29図・図版7)

海保大塚南東辺に位置する。墳丘裾から外堤部に向けて設定し、周溝001号を検出した。001号底面標高は39.7mと1トレンチより高いが、覆土は東の谷への流出により薄く、遺存不良である。墳丘側は本来の覆土が大部分流出しており、ローム主体土の埋土で満たされている。墳丘裾部では塚整備に伴うと見られる掘り込みが検出されたが、5-6トレンチ検出例ほど明確ではない。

遺物は、弥生土器を中心に、縄文土器・礫・土師器が少量出土した。

北東部トレンチ

海保大塚北東部の高まりの性格を把握するために2本のトレンチを設定した。

30トレンチ(第30図・図版5)

北東部の高まりを確認するため東斜面方向に合わせて設定した。竪穴建物跡011号と、それを切る溝状遺構012号を検出した。011号は床面近くに焼土・炭化物が多く検出されている。012号は全体形が不明だが、底面の傾斜が大きいことから溝状遺構と考えた。南方の12トレンチ内006号とは底面レベルが60cm以上異なるが、緩斜面に築かれた墳墓の周溝として連続する可能性も考えられる。

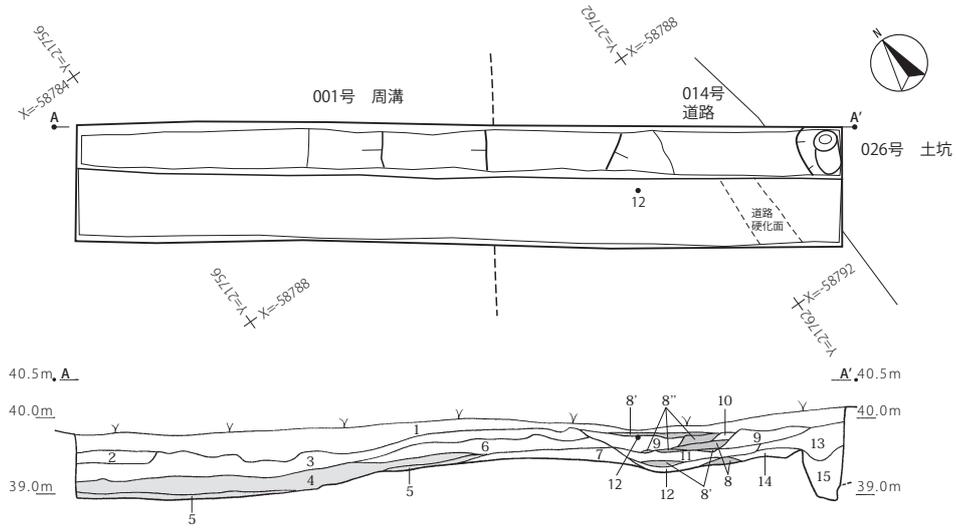
遺物は、011号で弥生土器・土師器(第31図29～41)・礫、012号で土師器(同42)中心の土器片・礫が少量出土した。011号が弥生時代終末期、012号はそれ以降の古墳時代の所産と考えられる。トレンチ全体でも、土師器を中心に、縄文土器・礫・弥生土器が少量出土している。

12トレンチ(第30図・図版6)

北東部の高まりの南東斜面に設定した。竪穴建物跡007号・020号、溝状遺構006号、土坑015号を検出した。007号では炉周辺覆土から後期弥生土器が多く出土した。020号は007号床面下層に検出された竪穴建物跡で覆土上面が007号床面として硬化している。006号は底面直上から弥生土器が出土しているが、表土近くの最上面に須恵器平瓶が伴う。006号を弥生時代竪穴建物とし、上層に平瓶を伴う掘り込み不明瞭な別遺構が存在するとも考えられるが、弥生土器は007号覆土からの混入品としても理解できるため、006号は古墳時代以降の溝状遺構としておきたい。平瓶の出土を勘案すると海保大塚下層古墳に接して築造された終末期古墳の一部の可能性も考えられる。015号も部分に過ぎないため検出幅から溝状遺構と推定するが、人為的な埋め戻しを示唆する覆土の堆積状況からは土坑墓の可能性も考えられる。トレンチ東端には現在の道路路面とその周辺に硬化土層を検出した。

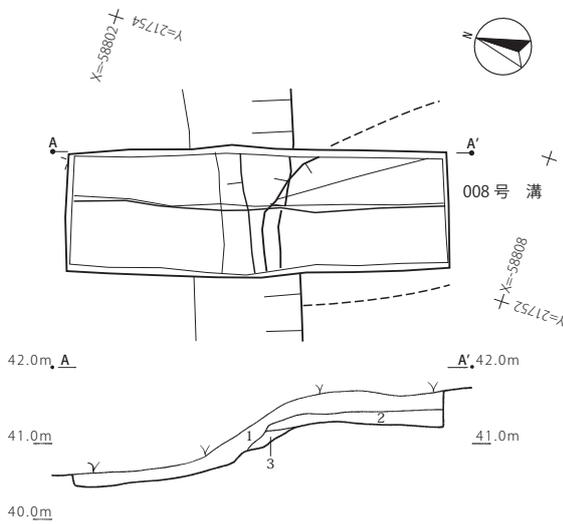
トレンチからは、弥生土器を中心に、縄文土器・礫・黒曜石・土師器が少量出土している。

29トレンチ



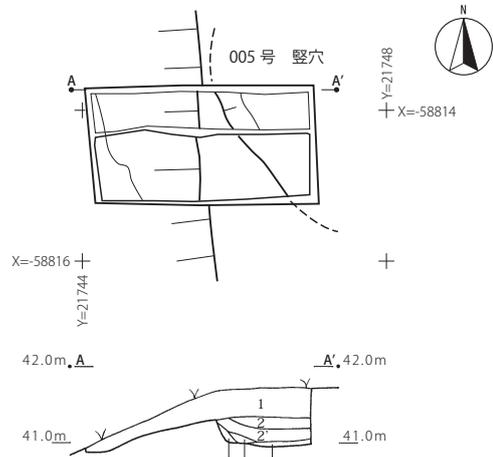
- 1 表土 攪乱土壌化層 10YR3/2 黒褐 土 ロームブロック(~5cm)が多く混じる
- 2 造成埋土 10YR5/6 黄褐 ロームブロック主体土 よくしまる
- 3 江戸期埋土 10YR4/2 灰黄褐~4/3にぶい黄褐 土 ローム粒(~3mm)が多く混じる よくしまる
- 4 周溝覆土 10YR2/1 黒~3/1 黒褐 土 ローム微粒・粘土粒(~3mm)が混じる よくしまる
- 5 周溝覆土 10YR3/1 黒褐 土 ローム粒が大量に混じる しまる
- 6 漸移層 10YR3/2 黒褐 土 ローム粒が混じる しまる
- 7 漸移層 10YR4/2 灰黄褐~5/6 黄褐 ローム混じりの土 しまる
- 8 014号路面硬化土 10YR4/3にぶい黄褐~3/2 黒褐 土 ローム微粒が多く混じる 硬い
- 8' 014号路面硬化土 黄褐色が強い8層
- 8'' 014号路面硬化土 黒みが強い8層
- 9 014号古道覆土 10YR3/1 黒褐 土 ややしめる 上面がやや硬化する しまる
- 10 ロームブロック主体土
- 11 014号古道覆土 10YR3/2 黒褐 土 ローム粒(~3mm)混じる しまる
- 12 014号古道覆土 10YR3/2 黒褐~4/2 灰黄褐 土 よくしまる
- 13 014号古道覆土~漸移層 10YR3/2 黒褐 土 ローム微粒・灰白粘土微粒が混じる しまる
- 14 漸移層 10YR3/2 黒褐~4/3にぶい黄褐 ローム混じりの土 しまる
- 15 026号土坑(江戸期?) 10YR4/4 褐~5/4にぶい黄褐 ロームブロック主体土 ロームブロック(~3cm)が多く混じる ややゆるい 埋め戻し土か

15トレンチ

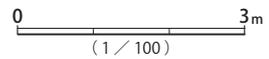


- 1 表土 根による攪乱 土壌化層 10YR4/3にぶい黄褐~3/2 黒褐 土 ゆるい
- 2 遺構覆土? 10YR3/2~3/1 黒褐 土 ややしめる ※トレンチを斜めに通る溝状遺構か 盛土には混じりがない 古墳時代より以降か
- 3 遺構覆土? 黄色みが強い2層

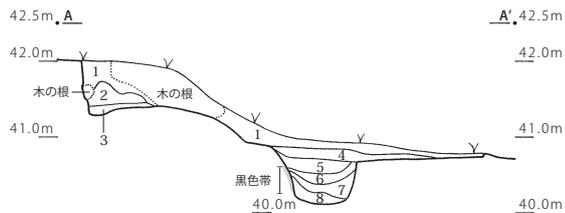
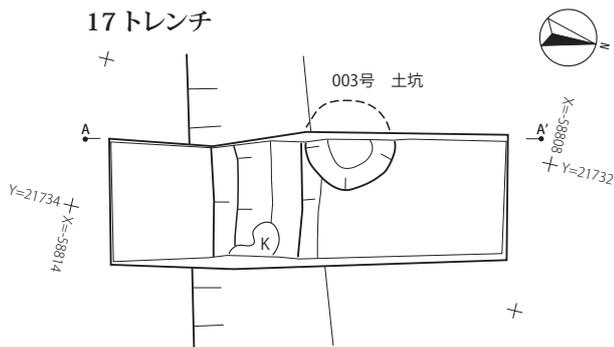
16トレンチ



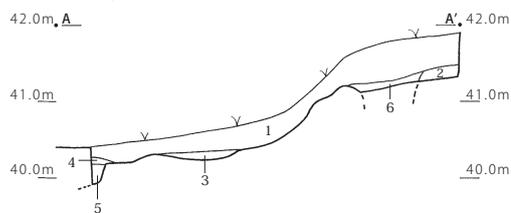
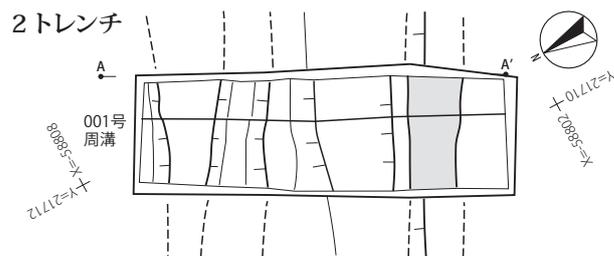
- 1 表土 根による攪乱が著しい 10YR3/1 黒褐 土 ローム粒(~3mm)混じる ややしめる 包含層を含む可能性あり
- 2 005号竪穴覆土 10YR2/1 黒 土 ローム微粒・粘土微粒が少量混じる しまる
- 2' 005号竪穴覆土 黒みの弱い2層 10YR2/1 黒~3/1 黒褐 土 しまる
- 3 005号竪穴覆土 10YR4/2 灰黄褐~3/2 黒褐 土 しまる
- 4 005号竪穴覆土 ロームブロック主体土 しまる
- 5 005号竪穴覆土 10YR5/4にぶい黄褐~3/2 黒褐 ローム混じりの土 焼土粒(~3mm)が混じる 床面土か しまる



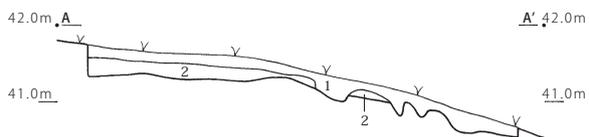
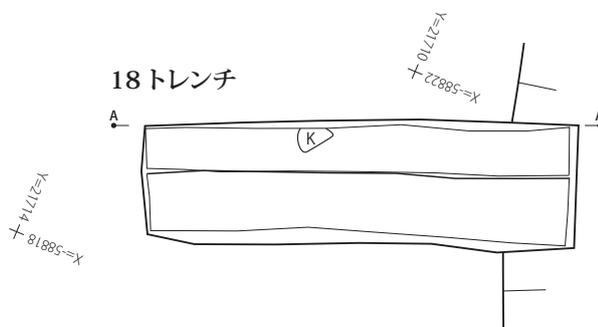
第32図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(7)・断面図(7)



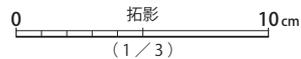
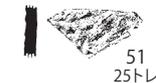
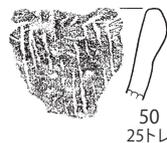
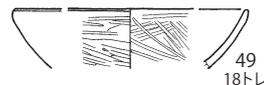
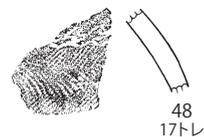
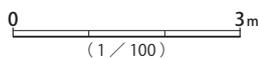
- 1 表土 攪乱 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ややしまる
- 2 遺構覆土? 10YR3/1 黒褐 土 ローム微粒・焼土粒(〜3mm)が混じる しまる
- 3 堅穴床面土? 10YR3/1 黒褐〜5/4 にぶい黄褐 土 ローム・土がまだらに混じる よくしまる
- 4 江戸期埋土 10YR4/3 にぶい黄褐 土 ローム粒(〜1cm)が多く混じる ゆるい
- 5 江戸期埋土 10YR4/2 灰黄褐〜3/2 黒褐 土 ローム粒・ブロック(〜5cm)が多く混じる ゆるい
- 6 江戸期埋土 10YR4/3〜5/4 にぶい黄褐 土 ロームブロック(〜5cm)が多く混じる ゆるい
- 7 江戸期埋土 10YR3/2 黒褐〜5/4 にぶい黄褐 土 ローム粒(〜5mm)が多く混じる よくしまる
- 8 江戸期埋土 10YR3/1 黒褐 土 ローム粒・ブロック(〜3cm)が混じる ゆるい



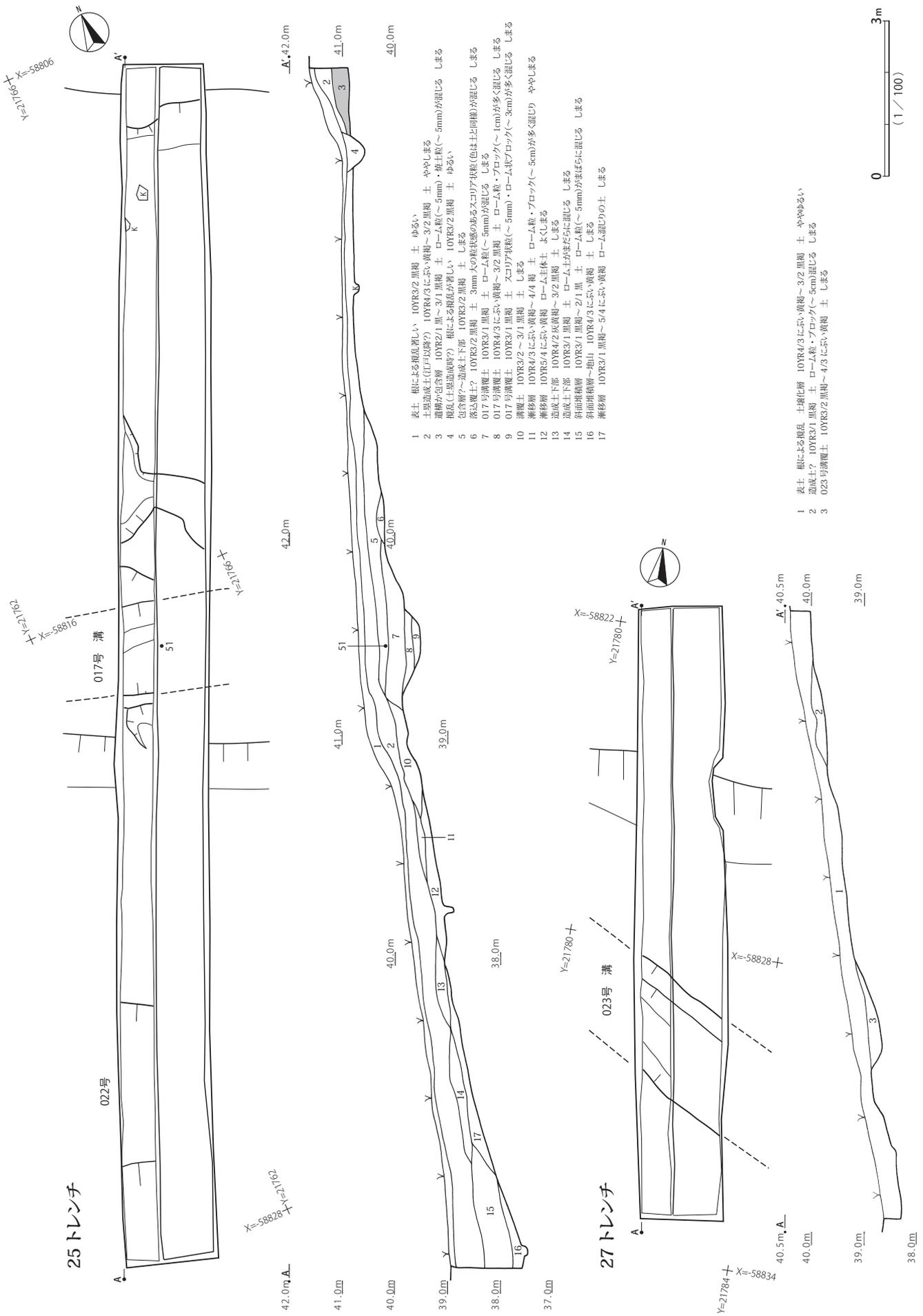
- 1 表土 土壌化層 上部は 10YR3/3 暗褐 下部は 10YR4/4 褐
- 2 根攪乱 10YR5/6 黄褐 ソフトローム層
ロームブロック(〜5cm)をまばらに含む ややしまる
- 3 江戸造成後初期堆積 10YR3/1〜3/2 黒褐
ローム混じりの土 ローム微粒(〜3mm)が混じる よくしまる
- 4 江戸期埋土? 10YR5/4 にぶい黄褐〜5/6 黄褐 ローム主体土 ややしまる
- 5 周溝初期堆積 10YR4/3 にぶい黄褐〜3/2 黒褐 土
ローム粒ブロック(〜3cm)が多く混じる ややゆるい
- 6 溝覆土 10YR2/1 黒〜3/1 黒褐 土
ローム粒(〜1cm)・焼土微粒が混じる しまる



- 1 表土 根による攪乱 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ゆるい
- 2 包含層〜藩移層 10YR3/2 黒褐 土 ローム微粒混じる ややゆるい



第33図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(8)・断面図(8)・出土遺物 実測図(3)



- 1 表土 相による層厚薄い、10YR3/2黒褐色土 ゆるい
- 2 土器片散在(江戸川層?) 10YR4/3にぶい黄褐色土 ややゆるい
- 3 遺構(土器片散在) 10YR2/1黒褐色土 ローム粒(≒5mm)・焼土粒(≒5mm)が混じる しまる
- 4 焼土(土器片散在) 相による層厚が薄い、10YR3/2黒褐色土 ゆるい
- 5 包合層?→油成土下部 10YR3/2黒褐色土 しまる
- 6 漆器土? 10YR3/2黒褐色土 3mm程度の粒状物のあるスコリア状粒(色は土と同様)が混じる しまる
- 7 017号溝覆土 10YR3/1黒褐色土 ローム粒(≒5mm)が混じる しまる
- 8 017号溝覆土 10YR4/3にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロック(≒1cm)が多く混じる しまる
- 9 017号溝覆土 10YR3/1黒褐色土 スコリア状粒(≒5mm)・ローム状ブロック(≒3cm)が多く混じる しまる
- 10 溝覆土 10YR3/2 黒褐色土 しまる
- 11 溝覆土 10YR4/3にぶい黄褐色土 4/4 粗土 ローム粒・ブロック(≒5cm)が多く混じり ややしまる
- 12 溝覆土 10YR5/4にぶい黄褐色土 ローム主体土 よくしまる
- 13 遺成土下部 10YR4/2灰黄褐色土 3/2黒褐色土 しまる
- 14 遺成土下部 10YR3/1黒褐色土 ローム土がまばらに混じる しまる
- 15 斜面傾斜層 10YR3/1黒褐色土 2/1黒褐色土 ローム粒(≒5mm)がまばらに混じる しまる
- 16 斜面傾斜層 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまる
- 17 溝覆土 10YR3/1黒褐色土 5/4にぶい黄褐色土 ローム混じりの土 しまる

- 1 表土 相による層厚 土質化層 10YR4/3にぶい黄褐色土 ややゆるい
- 2 遺成土? 10YR3/1黒褐色土 ローム粒・ブロック(≒5cm)混じる しまる
- 3 023号溝覆土 10YR3/2黒褐色土 4/3にぶい黄褐色土 しまる



第34図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)平面図(9)・断面図(9)

遺構の帰属時期を示す遺物は、007号の弥生土器(第31図15～28)、006号最上層出土の須恵器平瓶(同47)がある。前者は弥生時代後期前半久ヶ原式(大村2004)、後者は湖西産須恵器Ⅳ-1期(7世紀前半)(後藤2015)の型式的特徴を示す。007号出土土器は、壺形土器(同19)の口縁肥厚部の特徴が久ヶ原1式と合致するが、頸部段を持つ甕形土器(同17)の胴部が張る形状は久ヶ原2式に見られる特徴であるため、遺構は久ヶ原2式古段階の所産と位置付けられる。よって、この007号に切られる020号は、久ヶ原1式～2式古段階に属すると思われる。015号からは弥生土器片がごく少量出土しているが、時期の決定は難しい。溝状遺構006号は海保大塚遺跡第1地点で検出された古墳時代終末期の方形周溝状遺構と同様のもので、海保大塚下層古墳築造後に残存した平坦地形に進出した墳墓と考えられる。

外堤部トレンチ

海保大塚墳丘平面形に対応する形状を示す外堤部について、地形改変の時期を探るため5本のトレンチを設定した。

15トレンチ(第32図・図版7)

大塚南東側外堤部の段部に位置する。トレンチ長軸方向に近い北西を向く浅い溝状遺構008号を検出した。段部整形以前の掘り込みだが時期を示す遺物は得られなかった。25・27トレンチで検出された道路跡と連続する可能性も考えられる。上面には塚盛土に似た、締まりの乏しい表土層が堆積する。外堤部段部については削り込みラインが現状の若干外側に位置することを確認した。

遺物は縄文土器・土師器・礫が少量出土した。

16トレンチ(第32図・図版7)

大塚南側外堤部を南に下る切通しの東側段部に位置する。明確な盛土層は認められず、通路部分の切り下げだけが行われた可能性が高い。下層には、竪穴建物跡005号を検出した。古墳築造に伴う削平によるためか上部を失っているが、覆土は40cm程度遺存する。

遺物は土師器を中心に縄文土器・礫・弥生土器が少量出土した。005号からは明確に時期を示す遺物は出土しなかったが、遺構の形状から弥生時代後期の所産と捉えた。

17トレンチ(第33図・図版7)

大塚南側外堤部の段部に位置する。地表の段部の下位にもう1段削り出されていることを確認した。下位の段にほぼ接する位置で直径1.2m、深さ60cm以上の円形土坑003号が検出された。土坑壁面には地山ローム層の黒色帯が明瞭に認められた。段部上面は下層遺構覆土との判別は難しいが、標高41.5m前後以上は盛土と考えられ、1トレンチと同様の整地が施されている可能性が高い。

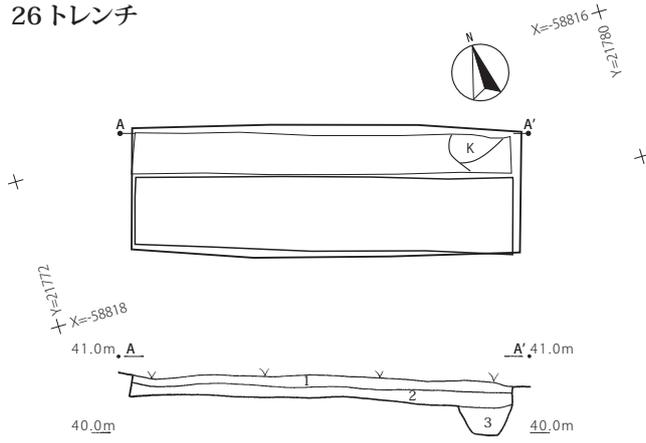
遺物は、土師器を中心に縄文土器・弥生土器・礫が少量出土した(第33図48)。

2トレンチ(第33図・図版7)

大塚南側外堤部の段部に位置する。塚の形状に合わせて地山が掘削され、盛土が築かれている。段部は1段だが、2段目を意識したものか直下に溝状遺構が伴う。外堤部上面には1トレンチと同様の溝状落ち込みが検出された。塚および外堤部整備に関係する可能性もある。トレンチ北端に周溝001号外周上端を検出した。

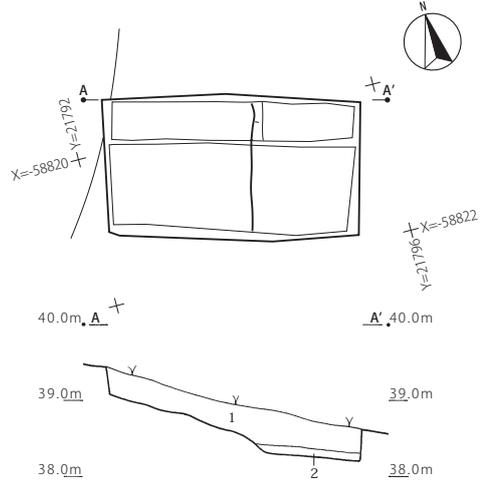
001号覆土からは遺物は出土しなかった。トレンチ一括取り上げ遺物として土師器片がごく少量

26トレンチ



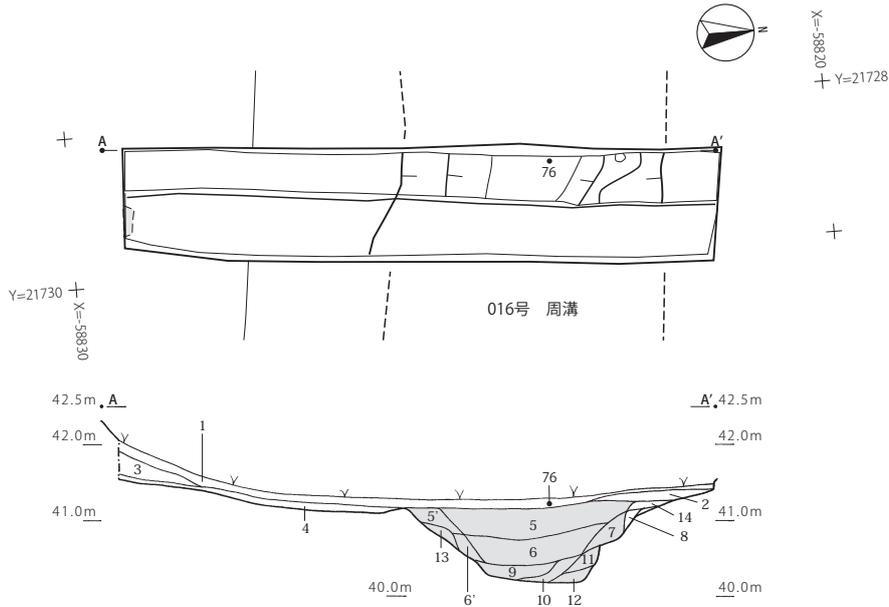
- 1 表土 根攪乱 土壌化層 10YR3/2 黒褐 土 ゆるい
ローム粒・ブロック(~1cm)混じる ゆるい
- 2 表土~漸移層(造成土?) 黒褐~黄褐 土
- 3 造成前攪乱(植木?) 10YR4/3 にふい黄褐 ロームブロック(~5cm)主体土
焼土粒(~3mm)少量混じる しまる

28トレンチ

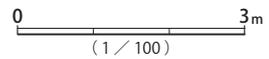


- 1 表土 根攪乱者しい 土壌化層 10YR3/2 黒褐 土 ゆるい
- 2 落込か造成(カット) 10YR3/1 黒褐 土
ローム粒・ブロック(~1cm)が多く混じる ややしまる 土器片少量出土

19トレンチ



- 1 表土 根攪乱 土壌化層 10YR3/2 黒褐 土 ゆるい
- 2 江戸期造成土 10YR4/3 にふい黄褐~3/2 黒褐 土 ややしまる
- 3 塚盛土 10YR3/2 黒褐 土 ややゆるい
- 4 古墳盛土?~漸移層 10YR4/3 ~5/4 にふい黄褐 ローム混じりの土 ややしまる
- 5 周溝覆土 10YR2/1 黒 土 ローム微粒・焼土粒(~3mm)混じる しまる
- 6 周溝覆土 10YR3/2 黒褐色土混じりの5層
- 7 周溝覆土 10YR3/1 ~3/2 黒褐 土 ローム粒(~5mm)・焼土微粒が混じる しまる
- 8 周溝覆土 ローム粒・ブロック(~1cm)が多い6層 しまる
- 9 周溝覆土? 10YR3/2 黒褐 土 ローム粒・ブロック(~3cm)が多く混じる
- 10 漸移層 10YR5/6 黄褐 ロームブロック主体土 しまる
- 11 周溝覆土 10YR3/2 黒褐 土 ロームブロック(~5cm)が混じる よくしまる
- 12 周溝覆土 10YR3/2 黒褐~4/3 にふい黄褐 土 粒状感のあるスコリア状粒(~3mm)が混じる しまる
- 13 周溝覆土 10YR4/3 にふい黄褐 土 ローム粒(~5mm)・スコリア状粒(~3mm)が多く混じる 粘性がない ややしまる
- 14 周溝覆土 10YR5/4 ~4/3 にふい黄褐 ロームブロック主体土 よくしまる
- 15 漸移層 10YR4/3 にふい黄褐~3/2 黒褐 土 ローム粒(~5mm)が多く混じる しまる
- 16 漸移層 10YR3/2 黒褐 土 ロームブロック(~3cm)が混じる しまる



第35図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(10)・断面図(10)

出土している。

18トレンチ(第33図・図版7)

大塚と三山塚の中間地点の西側段部に位置する。トレンチ西側は近年に掘り下げられた路面への斜面に続く。古墳築造時、あるいは塚整備時にハードローム層まで削平を受けている。遺構は検出されなかった。

遺物は土師器を中心に、縄文土器・弥生土器・礫が少量出土した(第33図49)。

東部トレンチ

調査範囲の東部は当初、篠竹が密生しており進入するのも困難な状態だったが、それらを刈り払ったところ人為的な平坦部と土塁状の高まりを確認した。平場は11m×30m程度の広がりを持ち、段以下は緩斜面となる。遺構分布と平場・土塁の性格を確認するために4本のトレンチを設定した。

25トレンチ(第34図・図版7・8)

平場に直交する方向で、南西斜面にかけて設定したトレンチである。平場北辺には土塁状の高まりを伴うが、トレンチ北端部の土層断面は平場造成時に削り残された部分であることを示しており、平場南西側は盛土によって造成されている。平場では、南西端付近に溝状遺構017号を検出したほか、時期不明の落ち込みが検出された。緩斜面には明確な遺構は検出されなかったが、縄文土器片を含む斜面堆積022号を確認した。

遺物は僅少で、溝状遺構017号上層から混入と見られる須恵器甕片(第33図51)が出土したほか、土師器を中心に縄文土器・弥生土器・礫・礫石器・黒曜石片が少量出土した(同50)。大塚整備との関係や平場の形成時期を直接示す遺物は得られなかったが、周辺の谷の中には畑・果樹園として利用される段地形が存在することから、同様に近世以降の新しい時期の造成跡と考えたい。

27トレンチ(第34図・図版8)

平場から南斜面にかけて位置する。平場南東隅は侵食により段が不明確になっており、トレンチ内も表土直下にハードローム層が続くような堆積状況である。トレンチ南端付近に検出された溝状遺構023号は、おそらく平場造成に先立つもので尾根筋を通る道路跡と見られる。25トレンチ017号、15トレンチ008号へと連続する可能性がある。

遺物は僅少で、弥生土器・土師器が少量出土した。

26トレンチ(第35図)

平場中央に位置する。ハードロームまで掘り下げられており、遺構は検出されず、遺物は土師器片がごく少量出土したのみである。

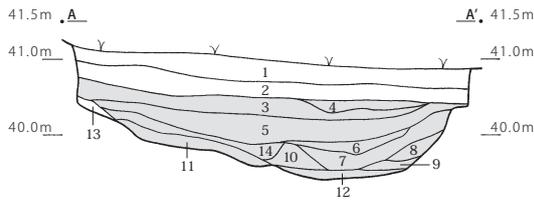
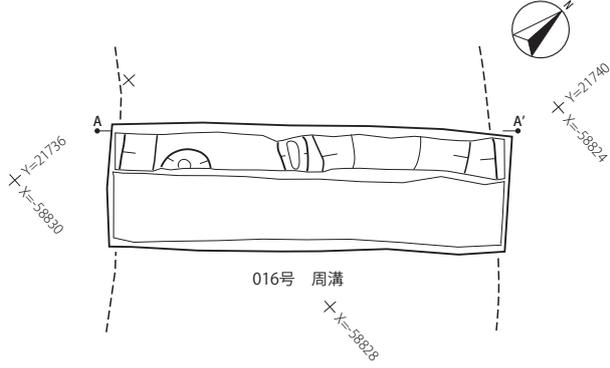
28トレンチ(第35図・図版8)

平場東側の斜面に位置する。トレンチ東側に浅い落ち込みを検出したが平場造成と同様の近世以降の造成跡と判断した。遺物は、落ち込みの覆土から土師器片がごく少量出土した。

三山塚・塚周辺トレンチ

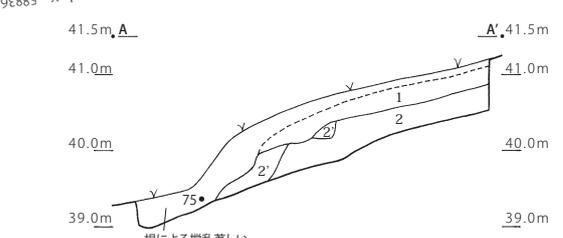
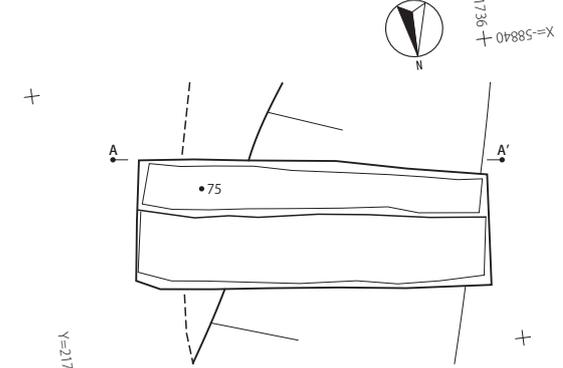
下層古墳の存否と帰属時期の把握を目指し、三山塚と塚の外周に7本のトレンチを設定した。

31 トレンチ



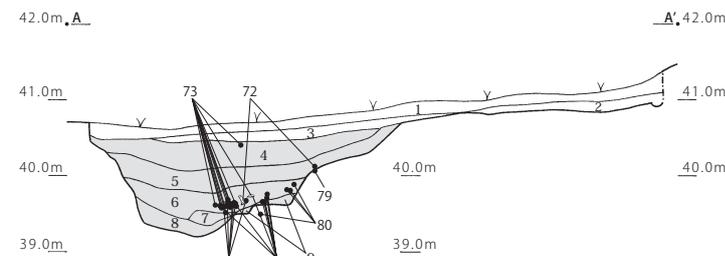
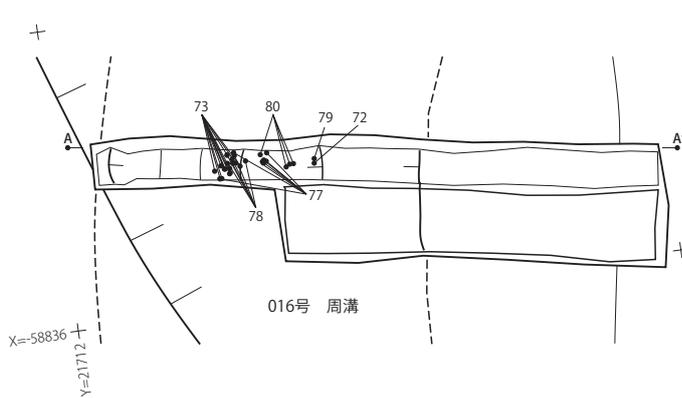
- 1 表土 根攪乱 土壌化層
- 2 江戸期～埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色 土 ローム粒・ブロック(～5mm)混じる よくしまる
- 3 周溝覆土 10YR2/1 黒 土 ローム粒(～3mm)混じる よくしまる
- 4 周溝覆土 10YR3/1 黒褐色 土 ローム粒(～1cm)混じる ややゆるい
- 5 周溝覆土 10YR2/1 黒～3/1 黒褐色 土 ローム粒(～3mm)が混じる よくしまる
- 6 周溝覆土 10YR3/1 ～3/2 黒褐色 土 ローム粒(～1cm)が混じる よくしまる
- 7 周溝覆土 10YR3/2 黒褐色～4/2 灰黄褐色 土 ローム粒・ブロック(～1cm)が多く混じる よくしまる
- 8 周溝覆土 10YR5/4 ～4/3 にぶい黄褐色 土 ローム粒・ブロック(～3cm)が多く混じる しまる
- 9 周溝覆土 10YR3/1 ～3/2 黒褐色 土 ローム粒・ブロック(～1cm)が混じる
- 10 周溝覆土 10YR5/4 にぶい黄褐色～4/2 灰黄褐色 ローム主体土 よくしまる
- 11 周溝覆土 10YR3/1 黒褐色～4/1 褐色 ローム混じりの土 よくしまる
- 12 漸移層 10YR5/6 黄褐色 ローム主体土 よくしまる
- 13 漸移層 10YR3/2 黒褐色～4/3 にぶい黄褐色 土 ローム粒(～5mm)混じる しまる
- 14 周溝覆土 10YR3/1 ～3/2 黒褐色 土 ローム粒(～3mm)混じる しまる

20 トレンチ



- 1 塚盛土 上面が土壌化する上面の根の攪乱が著しい 10YR3/1～3/2 黒褐色 土 ややゆるい
- 2 下層斜面堆積 10YR4/3 にぶい黄褐色～3/2 黒褐色 土
- 2' 漸移層 1～2層の中間的な層 ややゆるい

21 トレンチ



- 1 表土 根攪乱 10YR3/2 黒褐色 土
- 2 塚盛土～漸移層 10YR4/3 にぶい黄褐色 土 ロームブロック(～1cm)が多く混じる ややゆるい
- 3 江戸期以後埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色～3/2 黒褐色 土 ローム粒(～5mm)が混じる ややしまる
- 4 周溝覆土 10YR3/1 黒褐色～2/1 黒 土 ローム粒(～1cm)が混じる よくしまる
- 5 周溝覆土 10YR3/1 ～3/2 黒褐色 土 ローム粒(～5mm)が多く混じる 灰白粘土粒(～5mm)が認められる よくしまる
- 6 周溝覆土 10YR3/2 黒褐色 土 ローム粒(～1cm)が多く混じる よくしまる
- 7 周溝覆土 10YR5/6 黄褐色 ロームブロック主体土(～30cm) よくしまる
- 8 周溝覆土 10YR4/3 ～5/4 にぶい黄褐色 土 ロームブロック(～1cm)が混じる よくしまる
- 9 漸移層 10YR3/2 黒褐色 土 ローム粒・ブロック(～3cm)が混じる よくしまる

第36図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(11)・断面図(11)

19トレンチ(第35図・図版8)

三山塚北辺に位置する。古墳周溝016号を検出した。黒色土による覆土は層厚が1mを超える。横断面は、底面に平坦部のある逆台形を呈する。内外の上端は標高41.2m前後に検出された。大塚側の上面には外堤部造成に伴う盛土と見られる層が堆積する。墳丘側は、周溝内側上端から平坦部2.5m程を挟んで現墳丘裾となる。

三山塚盛土は大塚段部と同じく締まらない土質で、下層からは部分的に焼土が検出された。三山塚盛土はハードローム層ほぼ直上に築かれており、明確な古墳盛土は確認できなかった。

遺物は016号から土師器を中心に縄文土器・弥生土器・礫が少量出土した(第38図76)。三山塚として整備された時期を示す遺物は得られなかった。

31トレンチ(第36図・図版8)

三山塚北東角に位置する。19トレンチから連続する古墳周溝016号を、ほぼトレンチ全長にわたって検出した。覆土は黒色土主体で、層厚は1mを超える。断面形は最深部が外周にあり、幅1.5m程の平坦部がある。覆土上面には三山塚整備に伴うと見られるローム土の多い土層が堆積する。

遺物は016号から土師器を中心に、縄文土器・弥生土器・礫が少量出土した。古代須恵器と見られる高台付瓶類小片が出土したが016号の形成時期とは無関係と思われる。

20トレンチ(第36図・図版8)

三山塚東辺に位置する。トレンチ東側は現在の路面への急斜面に続いている。古墳周溝016号の推定位置はすでに削平されており、まったく検出されなかった。墳丘側は地山ハードローム層上面に盛土の可能性がある土層を検出したが、時期を示す遺物が伴っていないため、25トレンチで検出された斜面堆積と同様の可能性が考えられる。

遺物は土師器を中心に、縄文土器・弥生土器・礫が少量出土した(第38図75)。多くは下層遺構に由来する古墳時代前期以前のものであると思われる。

21トレンチ(第36図・図版9)

三山塚西辺に位置する。古墳周溝016号を検出した。内外上端の検出レベルは標高40.7m前後である。覆土は黒色土を主体とし、層厚が1.2mを超える。横断面は、外周側が急な立ち上がり、墳丘側が緩い傾斜を示し、最深部は外周寄りに位置する。覆土下層の内側斜面沿いに土師器高杯が集中して出土している(第38図72・73・77～80)。サブトレンチ内の限られた面積で検出されたため全容は不明だが、古墳築造からあまり時間を経ないうちに墳丘側から流れ込んだ一括遺物と見られ、築造時期の下限を示すと考えられる。

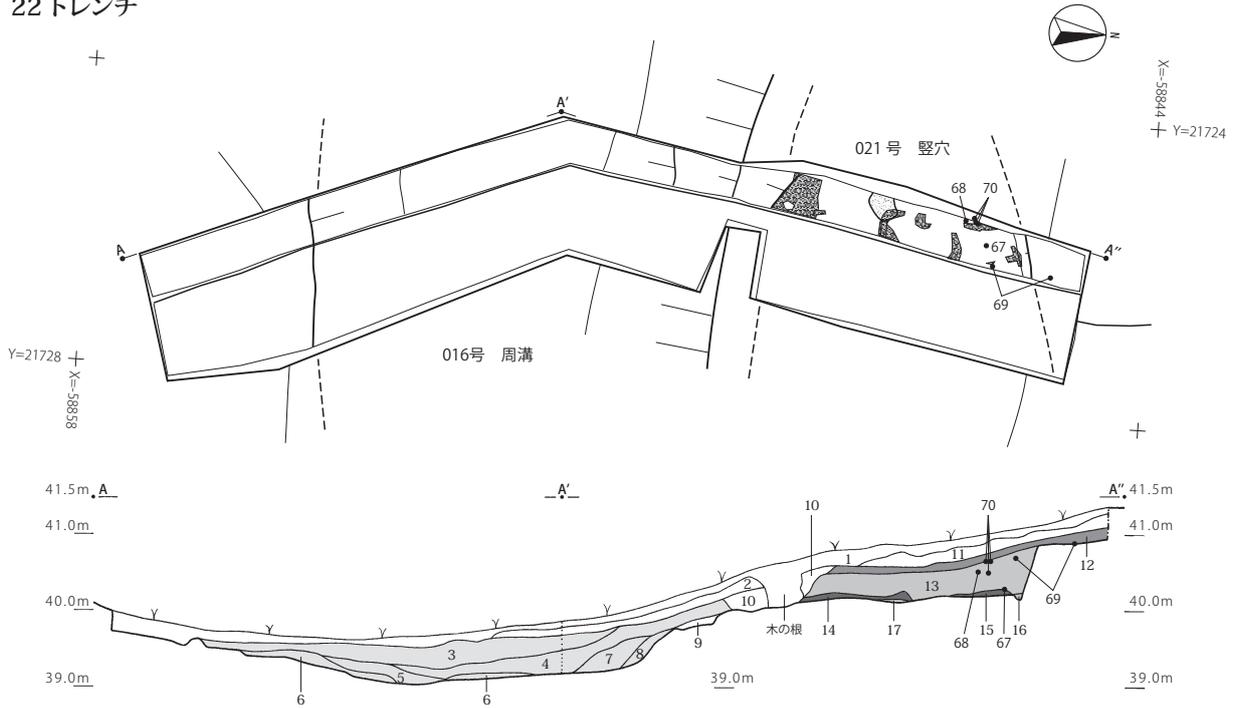
周溝上端から墳丘側は、地山ハードローム層上に塚盛土と見られるロームブロック混じりの土が堆積した、ほぼ平坦面となる。

周溝016号内側斜面から出土した土師器高杯形土器は、いずれも口径が20cmを超え、裾部の屈折する無透孔の脚柱部を持つが、これらの様相は古墳時代中期前半の和泉式の特徴と合致する。本地域の編年では、最古段階の須恵器との並行関係が想定される南岩崎5a期(大村2006)に位置付けられる。トレンチからは、土師器を主体とし、縄文土器・弥生土器・礫が少量出土している。

22トレンチ(第37図・図版9)

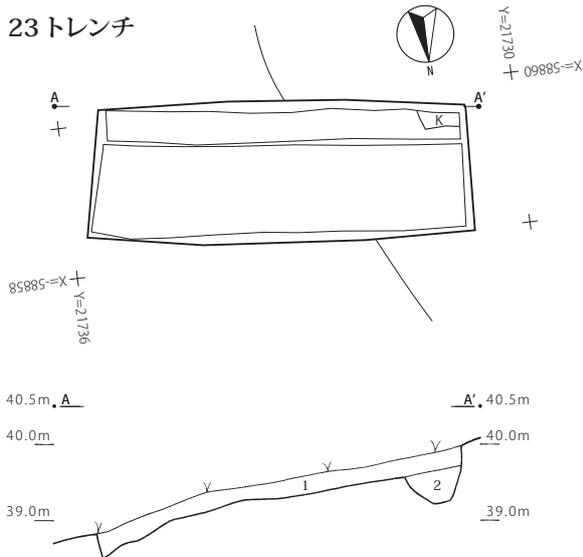
三山塚南辺と円形塚にかけて位置する。古墳周溝016号を検出した。周溝底面レベルは、19トレ

22 トレンチ



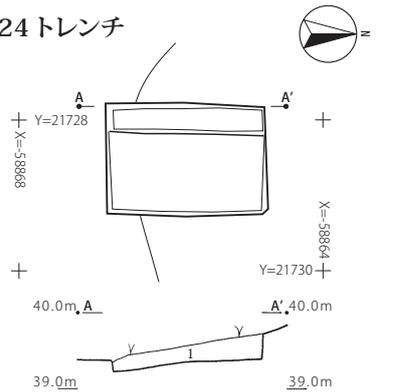
- 1 表土 根攪乱 土壌化層 10YR3/1 黒褐 土 ゆるい
- 2 塚盛土 10YR4/3 にぶい黄褐 土 ローム粒・ブロック(~3cm)混じる しまる
- 3 周溝覆土 10YR2/1 黒 土 ローム粒(~3mm)混じる しまる
- 4 周溝覆土 10YR3/1 ~ 3/2 黒褐 土 ローム粒(~1cm)混じる しまる
- 5 周溝覆土 10YR4/2 灰黄褐~3/2 黒褐 土 ローム粒・ブロック(~3cm)が多く混じる ややしまる
- 6 周溝覆土 10YR5/3 ~ 5/4 にぶい黄褐 ローム混じりの土 しまる
- 7 周溝覆土 10YR3/2 黒褐~4/2 灰黄褐 土 ローム粒(~5mm)が多く混じる ややゆるい
- 8 周溝覆土 10YR4/2 灰黄褐 土 ローム粒(~5mm)が多く混じる ややゆるい
- 9 周溝覆土~漸移層 10YR3/2 黒褐~4/2 灰黄褐 土 ロームブロック(~3cm)が多く混じる ややゆるい
- 10 塚盛土~漸移層 10YR4/2 灰黄褐~3/2 黒褐 土 ややゆるい
- 11 古墳盛土?~塚盛土 10YR3/2 黒褐~4/3 にぶい黄褐 土 ローム粒(~5mm)混じる しまる
- 12 古墳盛土最下層 10YR2/1 黒~3/1 黒褐 土 ローム粒・ブロック(~1cm)が多く混じる しまる
- 13 021号竪穴覆土 10YR5/4 ~ 4/3 にぶい黄褐 土 ローム粒・ブロック(~5cm)が多く混じる 焼土・炭化物粒は目立たない 埋め戻し土か 比較的短時間の堆積に見える
- 14 021号竪穴覆土 10YR3/1 黒褐 土 焼土粒(~1cm)・炭化材(~10cm)が多く混じる ややゆるい
- 15 021号竪穴覆土 10YR3/1 ~ 3/2 黒褐 土 ローム粒・ブロック(~3cm)・焼土粒(~5mm)・炭化材(大型10cm~)が多く混じる しまる
- 16 021号竪穴覆土 10YR3/2 黒褐 土 ローム粒(~5mm)が多く混じる ゆるい
- 17 021号竪穴覆土(炉内焼土) 2.5YR4/8 赤褐 焼土主体土 しまる

23 トレンチ



- 1 表土 根攪乱 土壌化層 10YR3/2 黒褐~4/2 灰黄褐 土 しまる
- 2 掘乱? 10YR3/2 黒褐~4/2 灰黄褐 土 ロームブロック(~10cm)が多く混じる 焼土粒(~1cm)が混じる しまる

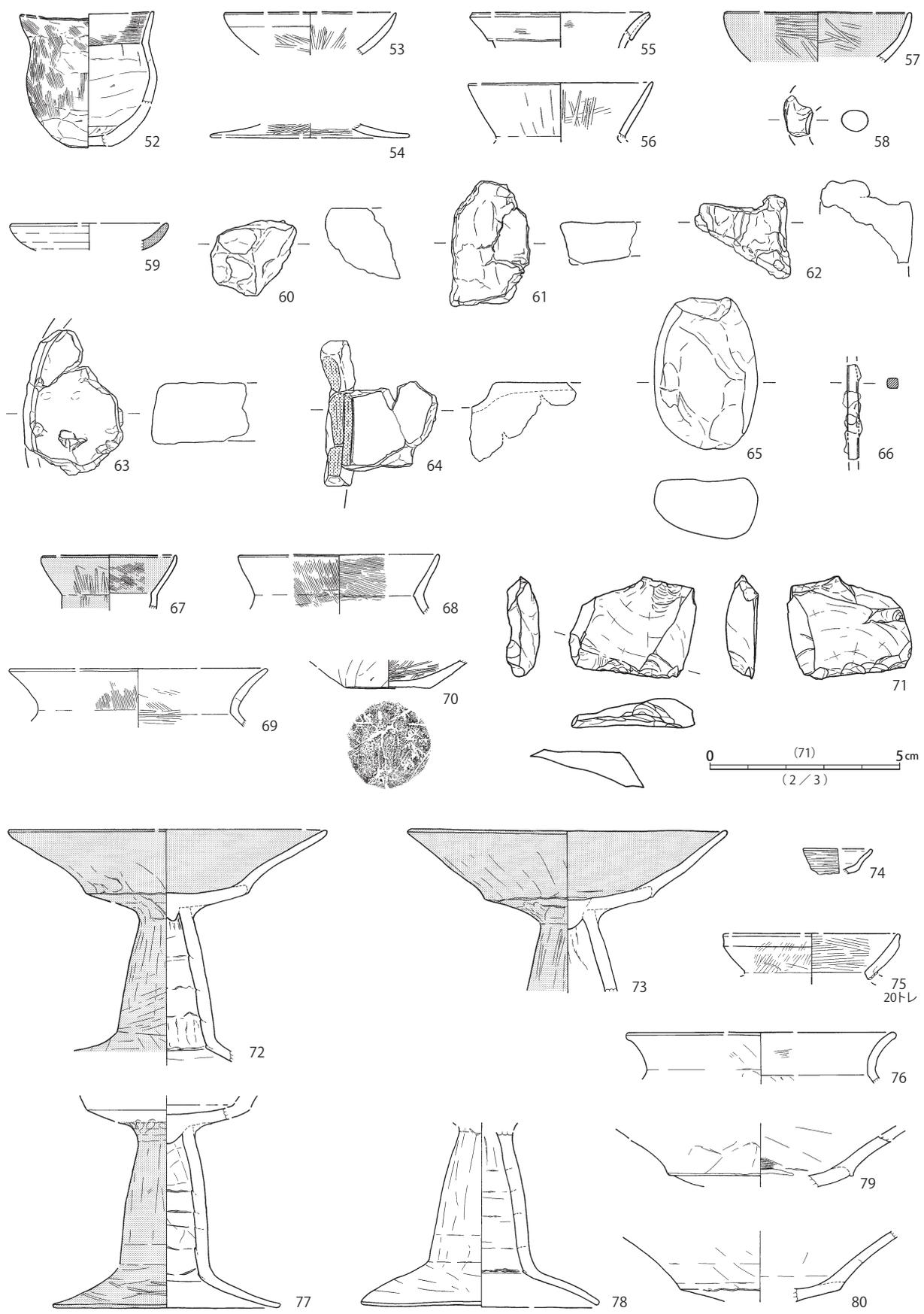
24 トレンチ



- 1 表土 根攪乱 やや土壌化する 10YR3/2 黒褐 土 ややしまる



第37図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 平面図(12)・断面図(12)



52~58: 古墳盛土 67~70: 021号
 59~66: 塚盛土 71~74・76~80: 016号

(52~57, 59, 61, 63, 64, 67~70, 72~80) 10cm (58, 60, 62, 65, 66) 10cm
 (1/4) (1/3)

第38図 海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点) 出土遺物 実測図(4)

ンチ40.2m、31トレンチ39.4m、21トレンチ39.2m、22トレンチ39.0mとなり、北から南へ傾斜している。周溝幅は6mあり検出部分では最も広い。

墳丘側では、古墳盛土と見られる黒色土層を確認し、さらにその下層に古墳時代前期の竪穴建物跡021号を検出した。021号は廃絶時に火を受けており、床面直上に炭化物（建築材由来を含む）・焼土が多く検出された。その上面にはロームブロックを多く含む黄褐色土層が堆積し、人為的に短期間のうちに埋められたように見受けられる。ほぼ平坦化した021号覆土上面には黒色土層が南向き緩斜面に従って地山ローム層と連続するかたちで堆積する。この黒色土層（12層）は旧地表土が混じる古墳盛土最下層と見られ、以上の堆積状況から、古墳築造時に地山削平と埋め立てによって整地が進められた後に、墳丘盛土が築かれたと推定できる。三山塚南辺は見かけ上、4段を呈するが、最下段上面稜線は古墳周溝上端推定ラインとほぼ一致する。この「最下段」と連続するのは、19・21トレンチで検出された平坦面であり、すでに古墳築造時にこのレベルでの地山整形が行われた可能性が高いものと思われる。古墳盛土の高さは墳頂部の改変によって不明確だが、標高41m前後の整地面に2m以上築かれたと推定できる。

南側の円形の塚については、盛土と周溝は検出されなかった。

遺物は、竪穴建物跡021号から古墳時代前期土師器が出土した（第38図67～70）。また、周溝016号から土師器が少量出土した。三山塚盛土の時期を示す遺物は得られなかった。

三山塚下層古墳について

三山塚下層古墳は各トレンチの調査結果から、周溝内側直径約24m、外周直径約32mの円墳と推定できる。築造時期は、22トレンチ検出の竪穴建物跡021号の古墳時代前期中葉（草刈2式期）を上限とし、下限は21トレンチの周溝016号出土土器から、古墳時代中期前半（南岩崎5a期）と考えられる。海保大塚下層古墳を避けながらも、ほぼ隣接する位置に築造されている点は、三山塚下層古墳が海保大塚下層古墳より新しく位置付けられることを示している。

23トレンチ（第37図・図版9）

円形塚の東辺に位置する。墳丘状の高まりから、東側に走る道路への斜面を掘り下げたが、盛土・周溝とも検出されなかった。

遺物は、弥生土器・土師器がごく少量出土したのみである。

24トレンチ（第37図・図版9）

円形塚の南辺に位置する。墳丘状の高まり斜面を掘り下げたが、地山ハードローム層直上に表土層があり、遺構・遺物とも検出されなかった。

円形塚について

円形塚の最高部は標高41mであり、三山塚南辺最下段上面とほぼ同じ高さである。塚外周の各トレンチからは、盛土・周溝・遺物とも検出されなかった。これらのことから、塚の形成過程は基本的に消極的なものであり、三山塚下層古墳築造に伴って地山整形が行われ、加えて東西両側が道路として切り下げられたために生じた残存地形が円形塚の原形となった可能性が考えられる。高まりを塚として利用したか否かは今回の調査では確認できなかった。

まとめ

海保大塚古墳と海保三山塚古墳 調査の結果、海保供養塚群内2基の塚が古墳から改変されたものであることを確認できた。六角形6段の供養塚、海保大塚は墳丘直径約60mの円墳が再利用されており、三山塚は墳丘直径約24mの円墳からの改変が明らかになった。海保大塚下層の古墳を海保大塚古墳、三山塚下層の古墳を海保三山塚古墳と仮称したい。群南端の円形の塚については、墳丘盛土・周溝が検出されなかったため、残存地形の自然な高まりと思われる。

海保大塚古墳と海保三山塚古墳の他に検出された遺構には、弥生時代後期の竪穴建物跡6棟(5-6トレンチ:013号、12トレンチ:007号・020号、13トレンチ:025号、16トレンチ:005号、30トレンチ:012号)、古墳時代前期中葉竪穴建物跡1棟(22トレンチ:021号)、古墳時代中期中葉円墳周溝1条(5-6トレンチ:010号)、古墳時代終末期溝状遺構2条(12トレンチ:006号、30トレンチ:012号)、近世溝状遺構3条(15トレンチ:008号、25トレンチ:017号、27トレンチ:023号)、古墳時代以降土坑(土坑墓?)1基(12トレンチ:015号)、近世以降土坑2基(17トレンチ:003号、29トレンチ:026号)がある。

円墳周溝010号は5-6トレンチ西端に一部が検出されたもので、隣接調査区の成果によりTK208型式期の可能性が高いと捉えられている(木對・近藤2017(本調査分未報告))(第24図)。海保大塚古墳の築造時期は、墳丘盛土最下層出土小型壺形土器(第38図52)の古墳時代前期中葉(草刈2式)(大村2009)を上限とし、海保大塚古墳周溝を切る010号の帰属するTK208型式期を下限とすると考えられる。また、海保三山塚古墳の築造時期は西側周溝出土高杯形土器(同72・73・77・78)から古墳時代中期前葉(南岩崎5a期)(大村2006)と考えられるが、面積の限られる尾根上平坦地において中央部を外れた位置にあることから、その築造時にはすでに海保大塚古墳は存在していた可能性が高い。海保大塚古墳盛土に混入する土器片で最も新しいのは古墳時代前期の土師器であり、古墳時代中期以降の土師器・須恵器・埴輪は調査範囲内ではまったく検出されていない。以上の様相から、海保大塚古墳は古墳時代前期末から中期初頭に築造された可能性が高いと考えられる。さらに、墳丘築造技術の面においても、中期前半の円墳に地山削り出しによって墳丘下位を形成する例の目立つことが指摘されており(中村他1968、田中1995)、この点も上記の時期想定と整合する特徴と言える。

海保大塚古墳の本来の墳丘盛土が2段目盛土の下に遺存し、3段目の円丘部に連続することは5-6トレンチ・13トレンチ(第27図)において確認できたが、伏せ椀形の形状が当初のものであるかは確かめられなかった。3段目斜面は現況において比較的堅緻だが、塚整備に伴って掘削整形された可能性は否定できない。海保三山塚古墳墳丘を捉えたのは22トレンチ(第37図)で、三山塚最下段とほぼ同じレベルにおいて地山整形が行われ、旧表土が掘削された後に築かれた状況を確認した。

海保大塚古墳の周溝外周直径は、南部が外堤部整備に伴い地山掘削が行われているため、本来は検出上端間より若干広かった可能性が高い。仮に1トレンチ南側の001号上端が標高41.5mから掘り込まれていたとすると、掘方傾斜をそのまま延長した場合、50cm程度は広がるため、本来の周溝外周直径は約84mと推定できる。周溝内側上端直径が約60m、周溝幅が約12mとすれば、5:1の整数比に基づく墳丘築造企画の存在が推定できる。同じく海保三山塚古墳は内径約24m:周溝幅約4m(西・北側)であり、6:1となる。

集落跡と古墳群の展開 近隣の発掘調査で把握された弥生時代の遺跡分布動向を見ると、沖積地では、約1km北西の山新遺跡第2地点(小橋2002)において宮ノ台式期の集落跡が確認され、約500m北西の山新遺跡永津前地区(小川2013、木對・近藤2017)・山新遺跡第3・8・9・10地点(北見2018)で久ヶ原式期の集落跡が検出されている。いずれも標高6m前後の砂堆上に位置する。台地上では、畑木小谷遺跡(北見1999、北見・鶴岡2000)・海保大塚遺跡第1地点・海保小谷作遺跡(大山他2014)の調査区で弥生時代後期集落跡が検出され、海保吉谷前古墳群(中村他1968)の下層から久ヶ原式の壺形土器が出土している。尾根先端近くに位置する海保大塚遺跡第1地点は弥生時代後期から終末期にかけて87棟の竪穴建物跡が検出され、後期前半5棟、後期後半26棟、終末期10棟(後期不明13棟、後期～終末期不明33棟)と推移する(大山他2014)。南に続く海保小谷作遺跡では115棟のうち、弥生時代後期後半から終末期81棟、古墳時代前期23棟、前期末～中期初頭11棟が検出され、弥生時代後期後半にピークが認められる(大山他2014)。

大塚山付近では、後期前半に沖積地に近い尾根の占地が始まり、集落が展開した後、後期後半に最盛期を迎え、台地奥側の南方へ分布範囲を拡大する。居住域は終末期にやや閑散化しながらも、古墳時代前期を経て中期前半まで継続する、という傾向が読み取れる。今回調査区で検出された竪穴建物跡もこのような動向に組み込まれ、一体的に推移したと考えられる。これまでの海保大塚遺跡第1地点・第2地点、海保小谷作遺跡の調査では、古墳時代前期中葉以前の竪穴建物跡はやや希薄だったが、海保三山塚古墳下層に竪穴建物跡021号が検出されたことから、沖積地により近く平坦部の広い海保大塚古墳墳丘下および周辺に、前期前半遺構の分布を想定することも可能である。

今回調査区において弥生時代中期後葉の遺構は検出されなかったが、宮ノ台式土器の可能性のある破片が数点出土しており(第25図10、第31図23)、同期には台地上の利用が始まっていた可能性が高い。近隣の台地上では、姉崎天神山古墳南方に位置する姉崎東原遺跡(高橋1990)において弥生時代後期初頭の竪穴建物跡が検出され、中期後葉から後期にかけて台地・沖積地での継続的な集落形成が認められる。海保大塚遺跡周辺も同様の推移をたどったと見られる。

墓域に目を向けると、発掘調査が行われた周知の古墳は、海保吉谷前古墳群3基、畑木向古墳群6基、小谷作古墳群3基、竹谷古墳群2基だが、それらに加えて発掘調査の過程で古墳と周溝が確認されている(第23図)。東の尾根上の海保吉谷前古墳群は「海保古墳群」として調査され、墳丘直径29.3mの海保吉谷前5号墳(海保3号墳)が副葬品鉄鏃等の形状から古墳時代中期前半に位置付けられている(中村他1968、田中1995、白井他2012)。4号墳・5号墳下層からは古墳時代前期後半の土師器が出土しており、尾根先端側には先に築造されたと見られる古墳が続くことから、海保大塚古墳と近い時期に営まれた古墳群と考えられる。

西の尾根にある畑木向古墳群・畑木小谷遺跡は、調査された033号遺構(8号墳、墳丘直径18.5m)が古墳時代中期後葉に位置付けられ、群南半が古墳時代中期後半から後期を主体とする(北見1999、北見・鶴岡2000、北見2002)。下層には古墳時代中期前半の集落跡が検出され、尾根先端部に連なる群には平坦部の一群に先行する中期中葉以前の古墳が含まれると思われる。ただし、尾根先端の小字は「人形塚」であり、後期古墳も混在する可能性は否定できない。

海保大塚古墳の500m南に位置する小谷作古墳群(大山他2014)は、尾根上には29.9×28.7mの円墳SM007(3号墳)が最高所を占め、16.6×15.6mの方墳SM006(2号墳)を挟んで、13.2×

12.4mの円墳SM005(1号墳)が築造される。尾根上には他に古墳時代終末期方墳1基があり、西斜面に円墳周溝5基が検出されている。SM005周溝からは古墳時代中期後半TK208型式の須恵器がまとも出土しており、SM006・SM007の築造は隣接順にこれを遡ると見られる。尾根上のSM007を避けたと見られる斜面のSM011からは、海保吉谷前5号墳出土品と同時期と見られる鳥舌鏃を含む柳葉形鉄鏃が検出されているため、群中最大のSM007は同等規模の海保吉谷前5号墳と同時期か、わずかに先行すると考えられる。これら小谷作古墳群も、海保大塚古墳・海保三山塚古墳と重なる時期に営まれた古墳群と位置付けられる。

竹谷古墳群・海保西竹谷遺跡では、古墳時代終末期方墳3基・前方後方墳1基と近世塚1基が調査され、古墳時代終末期竪穴建物跡18棟も検出されている。他の調査地点とは展開時期が異なり、古墳時代後期に土地利用が断絶した後に進入した遺構群と思われる。

海保大塚古墳近辺の古墳群築造と集落跡の動向を重ねると、古墳時代前期後半から中期初頭の集落消長と海保吉谷前古墳群・海保供養塚群・小谷作古墳群における前期末から中期の古墳群の展開は連動しているように見受けられる。古墳時代前期後半に集落が存続するうちに築造が始まり、海保大塚古墳築造を契機として造墓活動が活発化したと捉えられる。中期中葉まで続いたのちは、後期に低調となり、再度終末期に居住遺構の進入とともに築造が再開するというプロセスを大まかに読み取ることができる。中期後葉以降の居住域と墳墓については、西の台地上にある畑木小谷遺跡・畑木向古墳群で分布が確認でき、この時期に重心が西方へ移ったと捉えられる。

海保大塚古墳と姉崎古墳群 大塚山で最も眺望の良い位置に築造された海保大塚古墳は、中期初頭以降の周辺古墳群築造の契機となったが、中期後葉以降は各遺跡で閑散化する様相が認められる。以後、姉崎地域で活発化するのには、中期中葉の姉崎二子塚古墳と、それを核として中期後半以降に築造されていく山新遺跡の円墳群と考えられる(北見2018)。ただ、近年の椎津城跡の調査により、台地先端に推定される外郭古墳(椎津城造成により破壊。推定全長80m以上。前方後円墳か)には、ナデ仕上げで櫛描文様を持つ有黒斑埴輪が伴うと見込まれ、窖窯焼成埴輪の伴う姉崎二子塚古墳に先行する可能性が高まった(小橋2008・2010、木對・近藤2017)。外郭古墳の占地する台地の基部にある平坦面では、五霊台遺跡において弥生時代終末期から古墳時代中期前半までの居住域と、中期以降の円墳5基が検出されおり(高橋1998)、外郭古墳が核となって椎津地区でも中期円墳群が形成されていったと推定される。

周溝内径60m・外径83mの海保大塚古墳は、古墳時代前期末から中期初頭という想定が正しければ、姉崎・椎津地区において同時期で最大規模となり、円墳としては房総半島最大になる(白井他2012、附表7)。続く中期前葉における姉崎・椎津地区の最大の古墳が外郭古墳とすると、姉崎古墳群内での古墳時代前期から中期にかけて、核となる古墳の連続的な変遷を想定することができる。つまり、前期中葉の釈迦山古墳(小久貫1996、白井2003)と中期中葉の姉崎二子塚古墳(大場・亀井1951、白井・山口2002、白井2003)の築造の間に、海保大塚古墳と外郭古墳が位置付けられることになる。台地上の大型前方後円墳、姉崎天神山古墳(千葉県教育委員会1994)は主に墳形・立地と埴輪の欠落を根拠に前期と想定されているが、後円部直径が約60mと海保大塚古墳とほぼ一致する点は興味深く、変遷において釈迦山古墳と海保大塚古墳の間に位置付けることも可能である。立地の変化については、台地上から沖積地へという傾向が、釈迦山古墳→(姉崎天神山古墳→)海保

大塚古墳→外郭古墳(台地)→姉崎二子塚古墳(砂堆)という変遷と整合する。

姉崎古墳群の最大規模古墳の築造動向から推定すると、外郭古墳等の有黒斑埴輪が姉崎・椎津付近における埴輪導入期のものであり、おそらく海保大塚古墳に底部穿孔壺形土器と埴輪の両方が伴わないという様相は、調査範囲の狭小さや塚改変時の破壊も原因と考えうるが、底部穿孔壺形土器の使用されなくなる時期と円筒埴輪導入期との過渡期に築造されたことが反映されているためかもしれない。北部の村田川下流域には古墳時代前期末の築造が想定される墳丘直径52mの円墳、大厩浅間様古墳(浅利・田所1999)に底部穿孔壺形土器が伴うが、これ以後、中期後半に菊間古墳群において円筒埴輪が採用されるまでの間、比較的大型の草刈1号墳(墳丘直径38m)(田井1998)・千葉市七廻塚古墳(墳丘直径54m以上)(千葉市1976)等にも埴輪の伴った形跡は認められない。村田川下流域と養老川下流域に共通する古墳時代中期前半における大型円墳の様態として理解できる。

今回の調査によって海保大塚古墳が古墳時代終末期に属する可能性がまったく否定されたわけではないが、周辺古墳群と集落遺跡の動向を踏まえると、古墳時代前期末から中期初頭に位置付けられる可能性がそれに勝ると考えられる。海保大塚古墳は、遺存状態の良い大型古墳としてだけではなく、姉崎古墳群における中核古墳の変遷の中に残された空白を埋めうる存在としても、資料的価値の高い遺跡と言える。

海保大塚への改変 海保大塚古墳の塚への改変時期については、11トレンチ塚盛土最下層の富士宝永テフラ(1707年降下)の存在が注目される。この時期の東京湾岸地域は、マグニチュード8.2と推定される元禄地震(1703年)の後、宝永地震(推定マグニチュード8.7、1707年10月)・富士宝永噴火(同12月)と数年の間に大規模な自然災害が続き、社会不安が高まっていたと考えられる。出羽三山信仰に基づく三山塚とは別に六角塚の整備が必要となった背景に、天変地異を受けた世相が関係したとしても不思議ではない。宝永テフラは噴火口の位置と偏西風の影響で、富士山東側の地域に厚く堆積しているが、噴火の様子や火口から上がる火柱も東京湾越しに目に入ったものと思われる(小山・宮地2006)。火を噴く山への畏れと、背景にある社会不安が山岳信仰である出羽三山信仰を刺激し、講組織等を基盤とした在地的な社会事業として記念物整備の行われた可能性が想像される。円丘部上に築かれた方形3段が三山塚の形状と一致する点も、出羽三山信仰との関連を示す。また、古墳周溝001号覆土を覆うローム主体埋土の直上に宝永テフラ層が位置することから、周溝凹部が埋められ、梵天納めの空間等として利用され始めた時期は、六角形段部築造を遡る可能性が高い。塚としての利用が先にあり、六角塚への整備は追加措置的に行われたことが窺われる。なお、現在の海保大塚の段部のシャープな形状とそれに反する構築土の締まりの乏しさは、当初の形状を300年間保ったようには見えないことから、盛土出土の18世紀後半の所産と見られる志野焼片(第38図59)も示唆するように、18世紀前葉と推定する改変以後にも現代に至るまで継続的に整備されたと考えるのが自然である。

1・2段目の六角形という形状については、仏教における六道概念との関連など宗教的背景も想定しうるが、円丘全体を三山塚共通の方形3段へと改造する場合に切り盛り土量が多くなるという土木作業上の問題に起因する現象とも考えられる。円丘の規模の大きさが方形段志向に妥協を強いて生まれたデザイン面での工夫と言えるのかもしれない。

遺物では、1トレンチで塚盛土最下層から出土した鑄造関係土製品も、塚整備の一環として梵鐘

等の大型金属製品の現地鑄造（「出吹き」）が行われた可能性を示すものであり興味深い。類似した土製品・焼成粘土塊は上総国分僧寺跡の790号鑄造遺構でも出土しており、18世紀初頭の国分寺復興に関わる梵鐘鑄造遺構と推定されている（櫻井他2009、鶴岡他2016）。海保大塚整備の想定時期である宝永期直後とほぼ同時期の所産であり、社会事業とその実行組織、主体性のあり方について、官民聖俗の各領域で、いかなる関わりと共通点があるのか、興味の持たれるところである。

引用参考文献

- 浅利幸一・田所 真 1999『市原市大厩浅間様古墳調査報告書』財団法人市原市文化財センター
- 大場磐雄・亀井正道 1951「上総国姉ヶ崎二子塚発掘調査概報」『考古学雑誌』第37巻第3号 日本考古学会
- 大村 直 2004「弥生時代後期の山田橋遺跡群」『市原市山田橋大山台遺跡』財団法人市原市文化財センター
- 大村 直 2006「南岩崎遺跡の変遷と市原市域の遺跡群」『市原市南岩崎遺跡』市原市教育委員会
- 大村 直 2009「南中台遺跡と周辺遺跡の土器編年」『市原市南中台遺跡・荒久遺跡A地点』市原市教育委員会
- 大山祐喜他 2014『市原市海保地区遺跡群I 海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡・海保大塚遺跡』国際文化財株式会社
- 小川浩一 2013『市原市山新遺跡永津前地区』市原市教育委員会
- 小久貫隆史 1996『市原市釈迦山古墳発掘調査報告書』財団法人千葉県文化財センター
- 忍澤成視 2015『市原市海保地区遺跡群II 海保広作遺跡』市原市教育委員会
- 北見一弘 1999「畑木小谷遺跡」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告』財団法人市原市文化財センター
- 北見一弘 2002『市原市畑木小谷遺跡II』財団法人市原市文化財センター
- 北見一弘他 2015『市原市諏訪台古墳群・天神台遺跡II』市原市教育委員会
- 北見一弘 2018『市原市山新遺跡・白塚出途遺跡』市原市教育委員会
- 北見一弘・鶴岡英一 2000「畑木小谷遺跡」『市原市畑木小谷遺跡・椎津茶ノ木遺跡（第2次）—不特定遺跡発掘調査報告書（3）—』財団法人市原市文化財センター
- 木對和紀・近藤 敏 2017『平成28年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 後藤建一 2015『遠江湖西窯跡群の研究』六一書房
- 小橋健司 2002「姉崎山新遺跡（第2地点）」『市原市文化財センター年報（平成11年度）』
- 小橋健司 2008「千葉県市原市姉崎山新遺跡の櫛描文埴輪」『埴輪研究会誌』第12号 埴輪研究会
- 小橋健司 2010「千葉県市原市姉崎二子塚古墳の櫛描文埴輪」『埴輪研究会誌』第14号 埴輪研究会
- 小山真人・宮地直道 2006「宝永噴火の推移と噴出物」『1707 富士山宝永噴火報告書』内閣府
- 櫻井敦史他 2009『上総国分僧寺跡I』市原市教育委員会
- 白井久美子 2003「姉崎古墳群」『千葉県の歴史』資料編 考古2（弥生・古墳時代） 千葉県
- 白井久美子・山口典子 2002『千葉県史編さん資料 千葉県古墳時代関係資料』千葉県
- 白井久美子他 2012『研究紀要』27 財団法人千葉県教育振興財団文化財センター
- 杉山晋作・高橋 学・風間栄一 1990「海保大塚遺跡の測量調査」『関東地方における終末期古墳の研究』白石太一郎
- 田井知二 1998『千原台ニュータウン7 —草刈1号墳—』財団法人千葉県文化財センター
- 高橋康男 1990『市原市姉崎東原遺跡』財団法人市原市文化財センター
- 高橋康男 1998『市原市五霊台遺跡』財団法人市原市文化財センター
- 田中新史 1995「古墳時代中期前半の鉄鏃（一）」『古代探叢IV—滝口宏先生追悼考古学論集—』早稲田大学出版部
- 千葉県教育委員会 1994『千葉県重要古墳群測量調査報告書 —市原市姉崎古墳群—』
- 千葉県市原郡役所 1916「東海村」『千葉県市原郡誌 町村誌篇』
- 千葉市 1976『千葉市史』史料編1
- 鶴岡英一他 2016『上総国分僧寺跡II』市原市教育委員会
- 永沼律朗 1992『市原市今富塚山古墳確認調査報告書』財団法人千葉県文化財センター
- 永沼律朗 1996『千葉県重要古墳群測量調査報告書 —市原市安須・武士古墳群ほか—』千葉県教育委員会
- 中村恵次他 1968「海保古墳群」『南大広遺跡・海保古墳群』市原市埋蔵文化財調査報告4 市原市教育委員会
- 中村恵次・沼沢 豊・田中新史 1975『古墳時代研究II —千葉県市原市六孫王原古墳の調査—』古墳時代研究会

出土遺物観察表

凡例：寸法の（ ）は現存順、？は推定復元値を示す。

福増中ノ台遺跡 土器観察表

種別 No.	図版 No.	遺物 No.	遺物注記	種別	器種	部位	寸法 cm			周遺存	胎土	色調			備考
							口径	器高	底径			胎土	外周	内面	
5	11	1	3トレ6	土師器	杯	口縁片	小片	10.0?	—	—	7.5YR6/4 にぶい、褐色	7.5YR6/4 にぶい、褐色	摩耗	内面 摩耗、黒色処理?	
5	11	2	3トレ5	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.0)	—	5YR5/4 にぶい、赤褐色	5YR5/4 にぶい、赤褐色	縹色	条痕文系土器	
5	11	3	1トレ18	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.6)	—	2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR6/6 褐色	縹色	条痕文系土器	
5	11	4	1トレ17	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.6)	—	2.5YR4/6 赤褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	縹色	条痕文系土器	
5	11	5	7トレ7	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.3)	—	7.5YR5/4 にぶい、褐色	7.5YR5/4 にぶい、褐色	縹色	条痕文系土器	
5	11	6	1-1一括	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(5.9)	—	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR5/6 明褐色	縹色	ヘラナデ	
5	11	7	ピット1	弥生土器	鉢?	胴部片	小片	—	(4.1)	—	10R5/6 赤色	10R5/6 赤色	縹色	赤彩・ヘラミガキ、口縁 下端胴体擦痕	
5	11	8	1トレ13	弥生土器	壺	胴部片	小片	—	(2.2)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	縹色	ヘラナデ	

福増中ノ台遺跡 その他観察表

種別 No.	図版 No.	遺物 No.	遺物注記	種別	寸法 cm			重量 g	その他	材質等	特徴
					長軸	短軸	高さ(厚)				
5	11	9	3トレ8	尖頭器	5.95	1.30	1.40	—	—	—	旧石器
5	11	10	3トレ2	土製品 平瓦	(8.25)	(6.40)	2.50	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐色、焼成良好、胎土密

姉崎台遺跡 (第2地点) 土器観察表

種別 No.	図版 No.	遺物 No.	遺物注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm			胎土	色調			備考
								口径	器高	底径		胎土	外周	内面	
8	11	1	2トレ3	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(5.5)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	縹色	条痕の平行沈線文 ヘラミガキ	
8	11	2	2トレ3	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.8)	—	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR4/2 灰褐色	縹色	口唇部土むら附りによる突起以外に細文施文・ 口唇部下の平行沈線間 磨消細文 ヘラミガキ	
8	11	3	2トレ2	細文土器	壺?	胴部片	小片	—	(2.5)	—	10YR5/6 黄褐色	10YR6/4 にぶい、黄褐色	縹色	ナデ 平行沈線文内に細網文施 文	
8	10	4	2トレ1	土師器	高杯	杯部	70	14.3	(6.2)	—	2.5YR4/6 赤褐色	2.5YR4/6 赤褐色	縹色	赤彩・ヘラナデ	
8	10	5	2トレ1	土師器	高杯	杯部	70	13.4	(6.1)	—	2.5YR4/6 赤褐色	2.5YR4/6 赤褐色	縹色	赤彩・ヘラナデ	
10	11	6	3トレ6	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(5.6)	—	5YR4/4 にぶい、赤褐色	10YR6/2 灰褐色	縹色	ナデ 丁寧なナデのち沈線文	
10	11	7	3トレ2	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(4.7)	—	5YR4/3 にぶい、赤褐色	5YR4/3 にぶい、赤褐色	縹色	ナデ 沈線区画と磨消細文	
10	11	8	3トレ2	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.1)	—	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	縹色	ナデ 口縁磨消細文	
10	11	9	3トレ2	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.1)	—	5YR4/6 赤褐色	5YR4/6 赤褐色	縹色	ナデ 波状沈線の口唇部に細文施す 帯・口縁部の凹帯に二条 の平行沈線文	
10	11	10	3トレ6	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.9)	—	5YR3/1 黒褐色	5YR4/6 赤褐色	縹色	ナデ 波状沈線の口唇部に細文施す 帯・口縁部の凹帯に二条 の平行沈線文	
10	11	11	4トレ1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.6)	—	5YR4/1 黒褐色	5YR5/4 にぶい、赤褐色	縹色	ナデ 細文と磨消細文	
10	11	12	3トレ6	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.6)	—	7.5YR3/2 黒褐色	7.5YR3/2 黒褐色	縹色	ナデ 沈線区画による舌状文の 内外に細網文施文	
10	11	13	3トレ6	弥生土器	壺	胴部片	小片	—	(4.7)	—	7.5YR6/4 にぶい、褐色	7.5YR6/4 にぶい、褐色	縹色	ナデ S字状結節文と細網文	
10	11	14	3トレ6	弥生土器	壺	胴部片	小片	—	(2.9)	—	2.5YR3/6 暗赤褐色	10YR5/2 灰褐色	縹色	ナデ 赤彩・S字状結節文の上位 に細網文他ヘラミガキ	
10	10	15	3トレ2	土師器	杯	口縁部~ 底部	50	13.3?	5.3	4.0	2.5YR4/6 赤褐色	2.5YR4/6 赤褐色	縹色	ナデ 赤彩・ヘラナデ	
10	11	16	3トレ1	土師器	壺	口縁片	10	14.4?	(5.5)	—	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 褐色	縹色	ナデ 口縁部ハケのヒナデ・胴 部ヘラナデ、口縁の外縁 部に黒付着	
10	11	17	3トレ2	土師器	杯	口縁片	20	14.0?	(4.0)	—	2.5YR4/3 にぶい、赤褐色	10R6/6 赤褐色	縹色	ナデ 赤彩・ヘラケズリ	
10	11	18	5トレ1	須臾器	高台付杯	口縁部~ 底部	10	14.0?	4.0	9.8?	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	縹色	ナデ ロクロ・高台部貼り付け ヘラケズリ	
10	11	19	4トレ1	土師器	壺	底部	50	—	(10.5)	9.0?	5YR4/6 赤褐色	5YR4/6 赤褐色	縹色	ナデ ヘラケズリ	

標本 No.	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高			底径	その他	外面	内面	
11	11	20	9	9トレ1	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(5.1)	—	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	細文	口唇部直下一条の凹帯・他ヘラミガキ	加曾利B式	
11	11	21	11	11トレ2	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(4.6)	—	5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	口縁部指頭部直下と条線文	ヘラナデ	加曾利B式	
11	11	22	11	11トレ2	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(5.4)	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	口縁部直下一条の凹帯	ヘラミガキ	加曾利B式	
11	11	23	11	11トレ1 11トレ19	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(4.0)	—	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	口縁部直下一条の凹帯	ナデ	加曾利B式	
11	11	24	11	11トレ22	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.6)	—	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR4/2 灰褐色	口唇部直下一条の凹帯	ナデ	加曾利B式	
11	11	25	11	11トレ22	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(4.1)	—	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	口縁部直下一条の凹帯	ナデ	加曾利B式	
11	11	26	13	13トレ5	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(5.1)	—	7.5YR6/6 褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	波状口縁・口縁部直下細文・指ナデによる凹帯	ナデ・指ナデによる凹帯	加曾利E 3式	
11	11	27	18	18トレ1	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.7)	—	7.5YR2/1 黒色	7.5YR2/1 黒色	口唇部直下一条の凹帯	ナデ	加曾利E 式	
11	11	28	全体一括	全体一括1	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.9)	—	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	細文と条線	ナデ	加曾利E 式	
11	11	29	全体一括	全体一括1	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.4)	—	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	細文下に条線	ナデ	加曾利E 式	
11	11	30	10	10トレ4	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(5.1)	—	5YR4/1 褐灰色	5YR4/1 褐灰色	細文	ヘラミガキ	加曾利B式	
11	11	31	11	11トレ2	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.0)	—	5YR3/3 暗赤褐色	5YR3/3 暗赤褐色	沈殿区画の凸帯間に細文	ヘラナデ	加曾利B式 精製土器	
11	11	32	11	11トレ2	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.8)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	平行沈線を交差させ格子目を呈する	ヘラナデ		
11	11	33	11	11トレ21	細文土器	深鉢	上部片	小片	—	(3.9)	—	5YR4/3 にぶい赤褐色	5YR4/3 にぶい赤褐色	沈殿区画の隆起に細文キザミ目等の施文を施す	ヘラミガキ	加曾利B式 精製土器	
11	11	34	11	11トレ一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(1.7)	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	平行沈線文	ナデ	加曾利B式	
11	11	35	18	18トレ1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.0)	—	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	細文	ナデ		
11	11	36	11	11トレ1	細文土器	深鉢	底部片	小片	—	(3.1)	—	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	細文・指頭直下が明瞭に異なる	ナデ	早期条直文土器	
11	11	37	19	19トレ1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(5.2)	—	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	条間が広く大きい平行沈線文	ナデ		
11	11	38	21	21トレ1一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.9)	—	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	細文	ヘラナデ		
11	11	39	21	21トレ1一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.9)	—	10YR6/4 にぶい黄褐色	5YR6/6 褐色	沈殿と細文	ヘラナデ		
11	11	40	全体一括	全体一括1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.7)	—	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	細文	ナデ		
11	11	41	全体一括	全体一括1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.5)	—	5YR3/2 暗赤褐色	5YR3/2 暗赤褐色	平行沈線間に條状工具によるキザミ目・平行沈線文	ナデ	晩明安行式	
11	11	42	11	11トレ2	弥生土器	甕	口縁片	小片	—	(2.1)	—	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	口唇部指頭部隆起文・他ハケ	ヘラナデ		
11	11	43	15	15トレ3	弥生土器	甕	口縁片	小片	—	(2.1)	—	10R4/6 赤色～7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	折り返し口縁部直下に原形押捺と羽状細文・赤彩の施された凹帯付文を貼り付ける	ナデ	赤彩・ヘラミガキ	
11	11	44	11	11トレ2	弥生土器	甕	胴部片	小片	—	(4.3)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	羽状細文	ナデ		
11	11	45	11	11トレ1	弥生土器	甕	胴部片	小片	—	(3.1)	—	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	細細文	ヘラナデ		
11	11	46	11	11トレ2	弥生土器	甕	胴部片	小片	—	(3.0)	—	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	細細文下2連のS字状結節文	ヘラナデ		
11	11	47	18	18トレ5	弥生土器	甕	胴部片	小片	—	(2.2)	—	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	二条のS字状結節文下位に細細文	ナデ		
11	11	48	19	19トレ3	弥生土器	甕	胴部片	小片	—	(4.7)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	沈殿区画内細細文を施す・山形文施文の外赤彩	ヘラナデ		
11	11	49	全体一括	全体一括1	弥生土器	甕	胴部片	小片	—	(3.9)	—	7.5YR6/4 にぶい褐色～10YR4/1 褐灰色	10YR4/1 褐色	沈殿区画内細細文・他ヘラミガキ	ヘラミガキ		
11	11	50	21	21トレ1一括	須恵器	甕	胴部片	小片	—	(4.5)	—	7.5Y5/1 灰色	5Y6/2 灰オリーブ色	平行タタキ	ナデ		
11	11	51	全体一括	全体一括1	須恵器	甕	胴部片	小片	—	(4.9)	—	N5/0 灰色	N5/0 灰色	一条の凸帯間に條描き波状文	ナデ		
11	11	52	全体一括	全体一括1	須恵器	甕	胴部片	小片	—	(4.2)	—	10G5/1 緑灰色	10G5/1 緑灰色	平行タタキ・回転かき目	ナデ		
11	11	53	21	21トレ5	土師器	甕	口縁部	20	15.77	(7.5)	—	5YR3/1 黒褐色	5YR3/1 黒褐色	口縁部直下一条の凹帯	ナデ	加曾利B式	
11	11	54	11	11トレ20	土師器	甕?	胴部	20	21.0?	(10.3)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	口縁部直下一条の凹帯	ナデ	加曾利B式	
11	11	55	11	11トレ1、全体一括	土師器	甕	口縁部	30	15.4?	(4.2)	—	10YR3/1 黒褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	折り返し口縁・ナデ・もみ原産あり	ナデ	加曾利B式	
12	11	56	11	11トレ1	土師器	杯	口縁部	30	10.0?	(5.8)	—	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	ナデ	加曾利B式	
12	11	57	11	11トレ2	土師器	杯	口縁部	20	14.4?	(4.5)	—	10R5/6 赤色	10R5/6 赤色	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	ナデ	加曾利B式	

種別	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	寸法 cm			焼成	胎土	色調		特徴		備考
								口径	器高	底径			その他	外面	内面	外面	
12	11	58	11	11ト12	土師器	高杯	口縁部	20	16.0?	(3.8)	—	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ		
12	11	59	11	11ト15	土師器	杯	口縁部	30	15.6?	(4.9)	—	10R5/6 赤色	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ		
12	11	60	11	11ト18	土師器	杯	口縁部	30	14.0?	(4.9)	—	10R5/6 赤色	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ		
12	11	61	11	11ト18	土師器	杯	口縁部	20	14.0?	(3.7)	—	10R5/6 赤色	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ		
12	11	62	11	11ト18	土師器	杯	口縁部	20	12.2?	(4.0)	—	10R5/6 赤色	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ	赤彩・口縁ナデ・他ヘラナデ		
12	11	63	14	14ト15	土師器	杯	口縁部	20	15.0?	(4.4)	—	5YR6/8 褐色	器面摩耗	器面摩耗	器面摩耗		
12	10	64	17	17ト13	土師器	台付裏	底部	小片	—	(3.4)	9.8	10YR3/1 黒褐色	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ (底部ヘラナデ)		
12	12	65	17	17ト15	土師器	盤状杯	口縁部	20	15.6?	(3.3)	—	7.5YR4/2 灰褐色	口縁ナデ・他ヘラナデ・輪縁のみ遺残	口縁ナデ・他ヘラナデ	口縁ナデ・他ヘラミガキ		
12	12	66	17	17ト19	土師器	杯	口縁片	小片	13.0?	(4.1)	—	5YR5/4 にぶい赤褐色～10YR3/2 黒褐色	口縁ナデ・ヘラミガキ	口縁ナデ・ヘラミガキ	口縁ナデ・ヘラミガキ		
12	12	67	21	21ト12一拵	土師器	杯	口縁片	小片	13.5?	(3.4)	—	10YR7/3 にぶい黄褐色	器面摩耗	器面摩耗	器面摩耗		
12	10	68	21	21ト14	土師器	高杯	脚部	20	—	(7.6)	—	脚部 5YR5/6 明赤褐色	杯部ヘラナデ・脚部ヘラナデ	杯部ヘラナデ・脚部ヘラナデ	杯部ヘラナデ・脚部ヘラナデ	内・外面赤彩?	
12	12	69	21	21ト1一拵	土師器	杯	口縁片	小片	11.6?	(2.7)	—	2.5Y3/4 黒褐色	口縁ナデ・他ヘラナデ	口縁ナデ・他ヘラナデ	口縁ナデ・他ヘラミガキ		
12	12	70	全体一拵	全体一拵	土師器	台付裏	底部	小片	—	(2.2)	—	7.5YR4/2 灰褐色	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ		
12	10	71	10	10ト13	須恵器	杯	ほぼ完形	90	12.9	4.4	7.5	5Y6/1 灰色	口縁・底部回転ヘラケスリ	口縁・口唇部下回部状	口縁・口唇部下回部状	7C 未集	
12	12	72	21	21ト12一拵	須恵器	杯	口縁片	小片	16.0?	(2.4)	—	5YR1/1 灰白色	口縁部	口縁部	口縁部		
12	12	73	21	21ト13一拵	須恵器	蓋	口縁片	小片	15.0?	(0.8)	—	10YR6/4 にぶい黄褐色	口縁部	口縁部	口縁部		
12	12	74	21	21ト1一拵	須恵器	蓋	口縁片	小片	10.8?	(1.8)	—	2.5Y7/1 灰白色	口縁部	口縁部	口縁部		

姉崎台遺跡 (第2地点) その他観察表

種別	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	寸法 cm			重量 g	その他	材質等	特徴
								長軸	短軸	高さ (厚)				
12	10	75	11	11ト16	土製品 (交脚)	土製品	口縁部	10.40	(10.40)	16.20	1077.2	—	5YR4/2 灰褐色～5YR5/4 にぶい赤褐色・指ナデ・焼成不良・重量は加わった分含む	
12	12	76	21	21ト1	鉄滓	鉄滓	3.40	3.10	2.50	31.3	—	—		
12	12	77	15	15ト1	鉄製品	長さ	幅	厚	0.05	1.17	0.10	3.5	—	
12	12	78	13	13ト14	紡錘車	長さ	孔径	3.50	孔径0.70	1.90	47.0	—	表裏磨面あり・古銅時代	

郡本遺跡群 (第23次)・市原古道遺跡 土器観察表

種別	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	寸法 cm			焼成	胎土	色調		特徴		備考	
								口径	器高	底径			その他	外面	内面	外面		内面
16	12	1	5	5ト1	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.2)	—	7.5YR5/4 にぶい褐色	口唇部指頭押除文	ナデ	ナデ	加曾利B式		
16	12	2	1	1ト14	須恵器	裏	上部片	小片	—	(5.6)	—	10YR7/1 灰白色	平行タタキ	青海澄状黒貝裏→磨消	—	—		
16	12	3	2	2ト13	土師器	高台付杯	脚部～底部	30	—	(3.7)	7.2?	10YR2/1 黒色	口縁部の高台部貼り付け	口縁部の高台部貼り付け	口縁部の高台部貼り付け	口縁部の高台部貼り付け	黒色処理・口縁部の高台部貼り付け	
16	12	4	5	5ト1	土師器	高台付杯	口縁片・底部	20	16.0?	6.5?	8.0?	7.5YR2/1 黒色	口縁部の高台部貼り付け	口縁部の高台部貼り付け	口縁部の高台部貼り付け	口縁部の高台部貼り付け	黒色処理・口縁部の高台部貼り付け	
16	12	5	6	6ト12	土師器	杯	口縁片	小片	14.4?	(3.3)	—	7.5YR4/1 褐色	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	
16	12	6	7	7ト1	土師器	杯	底部片	50	—	(2.1)	6.8?	5YR6/6 褐色	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	
16	12	7	3	3ト12	近世陶器	磁器	口縁片	10	19.6?	(3.5)	—	7.5YR6/6 褐色	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	内耳はないが、焙烙と想定される。

郡本遺跡群 (第23次)・市原古道遺跡 その他観察表

種別	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	寸法 cm			重量 g	その他	材質等	特徴
								長軸	短軸	高さ (厚)				
16	12	8	2	2ト1	土製品	平瓦	(6.2)	(7.9)	2.8	120.5	—	—	外、内 10YR5/1 褐色・外面黒目タタキ・内面布目	
16	12	9	3	3ト1	銅質	鏡質	2.4	2.3	0.1	3.1	—	青銅	樽紋一銭 大正10年・磨面が激しい	

柏原遺跡群（第2地点）土器観察表

種別 No.	図版 No.	トシノ No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	寸法 cm			胎土	色調		特徴		備考
								口径	器高	底径		外面	内面	外面	内面	
21 12 1	15		15 トレ 6、9、10、11、54	15 トレ 6、9、10、11、54	細文土器	深鉢	口縁部	30	—	(15.2)	—	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	ナデ・口唇部下浅い沈線・器面摩耗	ナデ・器面摩耗	加曾利 B 1 式
21 12 2	15		15 トレ 7、14、16、19、20、21、23、25、27、28、46	15 トレ 7、14、16、19、20、21、23、25、27、28、46	細文土器	深鉢	口縁部～胴部	30	—	(23.8)	—	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	口唇部棒状工具によるキザミ目・細文と沈線・器面摩耗	沈線と隆線波状口縁部・補修孔一カ所・器面摩耗	加曾利 B 1 式
21 12 3	15		15 トレ 150	15 トレ 150	細文土器	深鉢	口縁部	小片	—	(9.9)	—	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/6 明褐色	口縁部指頭押捺波状文・他細文	ナデ	
21 12 4	試掘		通 4 トレ 一括 SK-1	通 4 トレ 一括 SK-1	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(4.0)	—	10YR6/6 明黄褐色	7.5YR6/6 褐色	沈線の上下に棒状工具によるキザミ目・器面摩耗	ナデ・器面摩耗	
21 12 5	試掘		通 4 トレ 一括 SK-1	通 4 トレ 一括 SK-1	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.8)	—	10YR7/6 明黄褐色	7.5YR6/6 褐色	沈線と細文・器面摩耗	沈線・器面摩耗	
21 12 6	試掘		通 4 トレ 一括 SK-1	通 4 トレ 一括 SK-1	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.1)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	沈線と細文・器面摩耗	沈線・器面摩耗	
21 12 7	5		5 トレ 3	5 トレ 3	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.7)	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR4/1 褐灰色	ナデ	ナデ	
21 12 8	7		7 トレ 16 一括	7 トレ 16 一括	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.4)	—	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/6 褐色	口縁部指頭押捺波状文・器面摩耗が激しい	ナデ・器面摩耗が激しい	
21 12 9	7		7 トレ 7 7 トレ 16 一括	7 トレ 7 7 トレ 16 一括	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(5.5)	—	10YR6/6 明黄褐色	7.5YR5/6 明褐色	口縁部指頭押捺波状文・器面摩耗が激しい	ナデ・器面摩耗が激しい	
21 12 10	9		9 トレ 一括	9 トレ 一括	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.5)	—	5YR3/2 暗赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色	口縁部棒状工具によるキザミ目・他ハラムガキ	ヘラナデ	
21 12 11	9		通 9 トレ ビット	通 9 トレ ビット	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.7)	—	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	口縁部棒状工具によるキザミ目・下部隆行沈線	ナデ	
21 12 12	10		10 トレ 1 一括	10 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.4)	—	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	沈線と細文・器面摩耗	ナデ	
21 12 13	15		15 トレ 26	15 トレ 26	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(4.1)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	口縁部指頭押捺波状文・他細文と沈線・器面摩耗	ナデ・器面摩耗	
21 12 14	15		15 トレ 51	15 トレ 51	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(2.5)	—	5YR4/3 にぶい赤褐色	5YR4/3 にぶい赤褐色	口縁部隆線突起貼り付けキザミ目	ナデ	阿玉台式
21 12 15	15		15 トレ 47	15 トレ 47	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.0)	—	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	口縁部指頭押捺波状文・他細文・器面摩耗	ナデ・器面摩耗	
21 12 16	15		15 トレ 8	15 トレ 8	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(4.8)	—	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	細文・器面摩耗	ナデ・器面摩耗	
21 12 17	15		15 トレ 44	15 トレ 44	細文土器	深鉢	口縁片	小片	—	(3.5)	—	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	ナデ	ナデ	
21 12 18	試掘		通 4 トレ 一括 SK-1	通 4 トレ 一括 SK-1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.5)	—	7.5YR5/6 明褐色	10YR4/2 灰黄褐色	沈線と細文	ナデ	
21 12 19	試掘		通 4 トレ 一括 SK-1	通 4 トレ 一括 SK-1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.6)	—	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	斜格子目文	ナデ	
21 12 20	1		1 トレ 3	1 トレ 3	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.0)	—	7.5YR4/4 褐色～7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR4/4 褐色～7.5YR3/1 黒褐色	刺突文と斜行沈線	ナデ	
21 12 21	2		通 2 トレ アトレ	通 2 トレ アトレ	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.0)	—	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	細文	ナデ	
21 12 22	3		3 トレ 1	3 トレ 1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.0)	—	7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR6/4 にぶい褐色	細文	ナデ	
21 12 23	3		3 トレ 1	3 トレ 1	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(5.0)	—	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	細文	ナデ	
21 12 24	6		6 トレ 1 一括	6 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.6)	—	5YR4/2 灰褐色	5YR4/2 灰褐色	沈線と細文	ナデ	
21 12 25	6		6 トレ 1 一括	6 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.6)	—	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	沈線・器面摩耗	ナデ・器面摩耗	
21 12 26	6		6 トレ 1 一括	6 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.7)	—	5YR4/6 赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	棒状工具によるキザミ目	ナデ	阿玉台式
21 12 27	6		6 トレ 1 一括	6 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(5.4)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/6 明褐色	棒状工具によるキザミ目・沈線と細文・器面摩耗が激しい	ナデ・器面摩耗が激しい	
21 12 28	7		通 7 トレ	通 7 トレ	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(6.1)	—	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	細文	ナデ	四辺摩耗・縄文時代中期?
21 12 29	7		7 トレ 10	7 トレ 10	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.5)	—	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/3 褐色	細文・隆線貼り付け・器面摩耗が激しい	ナデ・器面摩耗が激しい	縄文時代中期?
21 12 30	8		8 トレ 1 一括	8 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.3)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	細文	ナデ	
21 12 31	9		通 9 トレ ビット	通 9 トレ ビット	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.7)	—	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR5/2 灰褐色	沈線	ナデ	
22 12 32	9		通 9 トレ 一括	通 9 トレ 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(5.9)	—	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	細文	ナデ	
22 12 33	10		通 10 トレ 1 一括	通 10 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.0)	—	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR4/1 褐灰色	3 本の沈線	ナデ	
22 12 34	11		通 11 トレ 3 一括	通 11 トレ 3 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.8)	—	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰褐色	細文	ナデ	
22 13 35	11		11 トレ 1 一括	11 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.1)	—	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	沈線	ナデ	
22 13 36	10		10 トレ 1 一括	10 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(2.0)	—	5YR4/2 灰褐色	7.5YR3/1 黒褐色	細文	ナデ	
22 13 37	11		11 トレ 3 一括	11 トレ 3 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.5)	—	7.5YR4/1 褐灰色	7.5YR4/1 褐灰色	斜行沈線	ナデ	
22 13 38	12		通 12 トレ 1 一括	通 12 トレ 1 一括	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(3.3)	—	10YR3/1 黒褐色	5YR4/2 灰褐色	細文	ナデ	
22 13 39	15		15 トレ 43	15 トレ 43	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(5.0)	—	5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	隆線貼り付け・ヨコナデ・器面摩耗	ナデ・器面摩耗	
22 13 40	15		15 トレ 37	15 トレ 37	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(4.7)	—	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	沈線と細文・器面摩耗が激しい	ナデ・器面摩耗が激しい	

種図 No.	図版 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm			胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径		その他	外面	内面	外面	
22 13 41	15	15	15	15	15トトレ3、4	細文土器	深鉢	胴部片	小片	—	(7.9)	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色	丸頸と細文・器面磨耗が激しい	ナデ・器面磨耗が激しい		
22 13 42	11	11	11	11	11トトレ3一括	細文土器	深鉢	底部	小片	—	(3.0)	—	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/1 褐灰色	ココナデ	ナデ・器面荒れ		
22 13 43	15	15	15	15	15トトレ30	細文土器	深鉢	底部	小片	—	(5.8)	—	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色・鉄分付着	器面荒れ剥落	ナデ		
22 13 48	6	6	6	6	6トトレ4	近世	在地内耳土器	口縁部内耳	小片	36.2?	(4.6)	—	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR6/6 褐色	ナデ	指ナデ指成形		
22 13 49	8	8	8	8	8トトレ5	近世	在地内耳土器	口縁部内耳	小片	28.0?	(5.0)	—	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	ナデ	指ナデ指成形		
22 13 50	15	15	15	15	15トトレ1一括	近世	在地内耳土器	口縁部内耳	小片	34.6?	(6.2)	—	7.5YR6/6 褐色	7.5YR3/1 黒褐色	ナデ	指ナデ指成形		
22 13 51	全体一括	全体一括	全体一括	全体一括	全体一括	近世	内耳土器	口縁部内耳	小片	—	(4.1)	—	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	口縁、口唇部ココナデ	ココナデ		

柏原遺跡群 (第2地点) その他観察表

種図 No.	図版 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺物注記	種別	寸法 cm		重量 g	その他	材質等	特徴
							長軸	短軸				
22 13 44	試掘	試掘	試掘	試掘	試掘	磨石	8.60	7.70	209.8	砂岩	近世	
22 13 45	5	5	5	5	5トトレ7	磨石	8.80	7.00	279.2	溶結凝灰石 (奥日光流紋岩類)	細文後期	
22 13 46	15	15	15	15	15トトレ31	磨石・破石	7.80	7.40	401.9	石英斑岩 (奥日光流紋岩類)	細文後期	
22 13 47	15	15	15	15	15トトレ2一括	磨石	6.50	5.00	156.7	砂岩	近世	
22 13 52	2	2	2	2	2トトレ1	土製品	2.35	1.90	2.7	壳形		
22 13 53	11	11	11	11	11トトレ4一括	破石	9.00	3.20	80.3	黒雲母流紋岩	細文後期	
— 13 54	6	6	6	6	6トトレ2	種子	—	—	9.6	モモ		
— 13 55	8	8	8	8	8トトレ4一括	種子	—	—	4.6	モモ		
— 13 56	10	10	10	10	10トトレ3一括	種子	—	—	9.9	5個		
— 13 57	11	11	11	11	11トトレ3一括	種子	—	—	1.6	1個		

海保供養塚群・海保大家遺跡(第3地点)土器観察表

種 類 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	寸法 cm				焼成	胎土	色調			特徴			備考
												口径	器高	底径	その他			外面	内面	外面	内面	外面	内面	
25	13	1	11	001	004-a (11トレ) -1	土師器	壘	口縁片	20	16.8?	(4.5)	-	普通	比較的精緻 1mm以下のスコリア状 微砂粒が混じる	10YR7/4 にくい黄緑 10YR4/1 黒灰 (黒変)	10YR7/4 にくい黄緑 10YR7/2 にくい黄緑	縦～斜めのハケム (1.5本/2.6cm) → 口 縁部; ヨコナデ (単位が不明で編み) 端部は丸くおさまる	口縁部; 縦ハケム 以下; ナデ	反転復元					
25	13	2	1	001	001 (1トレ) -1, 同3, 同6	土師器	壘	上部片	20	17.6?	(12.0)	-	使用による二 次焼成あり 黒変・炭化物 付着	比較的精緻 3mm以下のスコリア状 微砂粒が混じる	10YR3/1 黒褐 (黒変) 7.5YR6/4 にくい 橙	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/4 にくい 橙	縦～斜めのハケム (6本/cm) → ヨコナデ 以下; ナデ; 縦ハケムの工具ナデ (工 具幅 1.7cm) → (接合痕に伴う指 頭圧痕が部分方向に消えていない) 使用により器面が荒れている	口縁部; 縦ハケム 以下; ナデ	反転復元					
25	13	3	9	001	001 (9トレ) -1	土師器	鉢	口縁片	10	13.8?	(3.0)	-	普通	比較的精緻 1mm以下のスコリア 状微砂粒が混じる	10R4/6 赤 (赤彩) 5YR5/4 にくい赤褐 2.5YR3/4 にくい赤褐 (赤 彩)	5YR5/4 にくい赤褐 10R4/6 赤 (赤彩) 7.5YR7/6 橙 7.5YR6/4 にくい 橙	斜めのハケム → ヨコナデ → 赤彩 → ヘラミガキ	縦ハケム (8本/cm) → 赤彩・ ヘラミガキ	反転復元					
25	13	4	7	001	009 (7トレ) -2, 同1 (同一個体), 同3 (同一個体)	土師器	杯	口縁片	10	14.8?	(2.5)	-	普通	精緻 1mm以下のスコリア 状微砂粒が混じる	7.5YR6/4 にくい 橙 10YR5/4 にくい 橙	7.5YR6/4 にくい 橙 10YR4/3 にくい 橙	縦ハケム → ヨコナデ → 赤彩 → ヘラミガキ	ナデ, ヨコナデ	反転復元					
25	13	5	7	001	009 (7トレ) -1,4	土師器	小型鉢	上部片	20	-	(4.8)	-	普通	比較的精緻 2mm以下の スコリア状微砂粒 が多く混じる	10YR5/4 にくい黄緑	10YR5/2 灰黄褐 10YR6/4 にくい黄緑	縦ハケム → ヨコナデ → 赤彩 → ヘラミガキ	口縁部; 縦ハケム → 縦ハケム ミガキ (不明)	反転復元					
25	13	6	29	001	001号 (29トレ) 一括	土師器	小型鉢	口縁片	10	9.8?	(2.4)	-	二次焼成の可 能性あり 黒変	比較的精緻 スコリア 状微砂粒が混じる	10YR5/2 灰黄褐 10YR6/4 にくい黄緑	10YR5/2 灰黄褐 10YR6/4 にくい黄緑	縦ハケム → ヨコナデ → 赤彩 → ヘラミガキ	口縁部; 縦ハケム → 縦ハケム ミガキ (不明)	反転復元					
25	13	7	1	001	001 (1トレ) -13	土師器	小型壺	体部片	20	-	(1.6)	-	普通	精緻	10R4/6 赤 (赤彩) 5YR6/6 橙	10R4/6 赤 (赤彩)	縦ハケム → ヨコナデ → 赤彩 → ヘラミガキ	口縁部; 縦ハケム → 縦ハケム ミガキ (不明)	反転復元					
25	13	8	5-6	001	010 (5トレ) -6	土師器	小型壺	底部	90	-	(2.2)	2.2	普通	比較的精緻 1mm以下のスコリア状 微砂粒が混じる	10YR3/1 黒褐 (黒変) 10YR6/4 にくい黄緑	7.5YR6/6 橙 10YR7/4 にくい 橙 7.5YR5/4 にくい 橙	縦ハケム → ヨコナデ → 赤彩 → ヘラミガキ	口縁部; 縦ハケム → 縦ハケム ミガキ (不明)	反転復元					
25	13	9	5	001	大塚5トレ-私- 一括	弥生土器	壘?	体部片	小片	-	(2.1)	-	普通	比較的精緻 微砂粒 (長 石・石英等) が混じる	7.5YR6/6 橙 10YR4/3 にくい 橙	10YR5/4 にくい黄緑 10YR4/3 にくい 橙	ナデ	ナデ	反転復元					
25	13	10	9	001	001 (9トレ) 私- 一括下	弥生土器	壘	体部片	小片	-	(3.1)	-	使用による二 次焼成あり 黒変・炭化物 付着	比較的精緻 3mm以下の砂粒 (石英・ 珪石・赤褐色微砂粒が 混じる)	10YR7/4 にくい黄緑 10YR3/2 黒褐 (黒変)	10YR7/4 にくい黄緑	斜めのハケム (9本/cm) → 縦状工具に よる山形文 (4本/5mm) 2倍以上 使用による 縦熱のため置く炭化物が付着 する	縦ハケム	宮ノ台式					
25	13	11	1	001	001 (1トレ) -2	土師器	高杯	杯部	20	14.0?	(4.5)	-	普通	精緻	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/4 にくい 橙	5YR6/6 橙	ヘラミガキ 口縁付近にモミ状圧痕がある	ヘラミガキ 口縁付近にモミ状圧痕がある	反転復元					
25	13	12	29	001	001号 (29トレ) -13	土師器	高杯	脚部	80	-	(5.5)	-	普通	精緻 まれに2mmの 砂粒が混じる	10R4/6 赤 (赤彩) 7.5YR6/4 にくい 橙	7.5YR6/6 橙 10R4/6 赤 (杯部赤彩)	円形透孔 (径 1cm) 3方均等配置 → 赤彩・ 密なヘラミガキ	杯部; 赤彩・密なヘラミガキ 脚部; 上部ナデ → 脚部; 横工具 ナデ	反転復元					
25	13	13	9	001	001 (9トレ) - サブ一括	土師器	炉器台	脚部片	10	-	(3.5)	12.5?	使用による二 次焼成あり	比較的精緻 微砂粒・ ハミミ状炭黄色微砂粒が 混じる	10YR6/4 にくい黄緑 10YR5/3 にくい黄緑	5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	縦熱により若干黒変する	縦熱により若干黒変する	反転復元					
31	13	15	12	007	007 (12トレ) -82	弥生土器	壘	口頸部片	20	20.5?	(7.1)	-	普通	比較的精緻 微砂粒 (石 英・長石・チャート) が混じる	10YR7/4 にくい黄緑 10YR3/1 黒褐 (黒変)	7.5YR6/4 にくい 橙 10YR7/4 にくい黄緑	粘土組を伴った肥厚した脚部接合 痕を段状に残す (接合痕はほぼ平坦にな っているが部分的に明瞭に現れる) 口縁部; 内外2方向の線状工具押圧に よる連続刺突文 (交互押捺) 口縁部; 内外2方向の線状工具押圧に よる連続刺突文 (交互押捺) (上部が不 明瞭) 縦熱により器面が荒れている	縦熱により器面が荒れている	反転復元					
31	13	16	12	007	007 (12トレ) -65, 同106, 同107, 同125, 同145	弥生土器	壘	上部片	20	19.8?	(18.1?)	-	使用による二 次焼成あり 黒変・赤変 付着	やや砂質 1mm以下の 砂粒 (石英・長石・チ ャート・スコリア状微 砂粒が多く混じる)	10YR4/1 黒灰 (黒変) 10YR7/6 明黄褐 5YR7/8 橙	7.5YR6/4 にくい 橙 2.5YR5/6 明赤褐	口頸部を9帯以上の粘土組で形成し下縁 接合痕を段状に残す (他の粘土組は平坦 化されるが接合痕はそのまま現れる) 口縁部; 内外2方向の線状工具押圧に よる連続刺突文 (交互押捺) 口縁部; 内外2方向の線状工具押圧に よる連続刺突文 (交互押捺) (上部が不 明瞭) 縦熱により器面が荒れている	縦熱により器面が荒れている	反転復元					
31	10	17	12	007	007 (12トレ) -54, 同56, 同57, 同109, 同110, 同111, 同112, 同114, 同115, 同116, 同119, 同127, 同130, 同146, 同148, 20号 (12 トレ) -151D, 12 トレ -1一括, 12 トレ -1一括	弥生土器	壘	半定形	50	19.1?	23.4	6.4	使用による二 次焼成あり 黒変・炭化物 付着	比較的精緻 1mm以下の 砂粒 (石英・長石・ チャート・角閃石・ス コリア状微砂粒が混 じる)	10YR6/4 にくい黄緑 10YR4/1 黒灰 (黒変)	10YR6/4 にくい黄緑 10YR4/1 黒灰 (黒変)	口頸部を9帯以上の粘土組で形成し下縁 接合痕を段状に残す (接合痕はほぼ平坦にな っているが部分的に明瞭に現れる) 口縁部; 内外2方向の線状工具押圧に よる連続刺突文 (交互押捺) 口縁部; 内外2方向の線状工具押圧に よる連続刺突文 (交互押捺) (上部が不 明瞭) 縦熱により器面が荒れている	縦熱により器面が荒れている	反転復元					

種 図 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺物注記	種別	器種	部位	取遺存	寸法 cm			焼成	胎土	色調			特徴		備考
									口径	器高	底径			その他	外面	内面	外面	内面	
31 13 18 12	007	007	007	007 (12ト)レ -70	弥生土器	壺	口縁片	小片	—	(2.9)	—	普通	比較的精緻 スコリア状褐色微粒が多少混じる	10YR3/1黒褐～ 7.5YR6/6 橙 10R4/6 赤(赤彩)	10R4/6 赤(赤彩)～ 7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	口縁を肥厚し下縁接合痕を段状に残す 肥厚部：単面LR 縦凹底(端部：LR)→ 端部：丸縁状工具衝突による連続的突文・ 肥厚部：端部：棒状工具押圧による刻目状 連続的突文 以下：赤彩・ヘラミガキ	内面 赤彩・ヘラミガキ	反転復元	
31 13 19 12	007	007	007	007 (12ト)レ -35, 同59, 同64, 同66, 同69, 同 12トレ-1一拵	弥生土器	壺	口縁片	20	—	(14.5)	—	二次焼成の可 能性あり 黒変	微砂粒・1mm以下のス コリア状褐色微粒が 多少混じる	10R3/4暗赤(赤彩)～ 7.5YR5/4 にぶい褐	口縁部：粘土紐を付加・肥厚し下縁接 合痕を丸く残す 口縁部：単面LR (前部) 口縁部：単面LR・前部LR・LR 縦凹底によ る羽状の上下をへらミガキで削る 赤彩・ヘラミガキ (口縁部；縦主体・肩 部；縦主体)	口縁部：赤彩・密な横ヘラミガ キ 胴部中位は器面の剥落が進む	反転復元		
31 13 20 12	007	007	007	007 (12ト)レ-8	弥生土器	甕	口縁片	10	—	(2.8)	—	二次焼成の可 能性あり 黒変	比較的精緻 微砂粒(石 英・チャート等)・スコ リア状褐色微粒が混 じり	10YR6/3 にぶい黄褐～ 10YR7/4 にぶい黄褐 5YR7/6 橙	口縁を肥厚し下縁接合痕を段状に残す 口縁部：内外2方向の棒状工具押圧に よる連続的突文(交互押除) 以下：ヘラミガキの粗工具ナデ	横工具ナデ	反転復元		
31 13 21 12	007	007	007	006 (12ト)レ -13, 007 (12ト)レ -1, 同4, 同サブ一拵	弥生土器	甕	上部片	20	—	(10.6)	—	使用による二 次焼成あり 黒変・炭化物 付着	やや砂質 微砂粒(石 英・長石・チャート等) スコリア状褐色微粒が 多く混じる	10YR7/4 にぶい黄褐～ 10YR6/4 にぶい黄褐 10YR5/1 褐灰(黒変)	口頸部下縁接合痕を低・段状に残す 縦主体の工具ナデ(一般にハケメ状条線 (8本/cm)が伴う) 使用により黒変し薄く炭化物が付着する	ナデ・工具ナデ→横ヘラミガキ (不明)	反転復元		
31 13 22 12	007	007	007	007 (12ト)レ -145	弥生土器	甕	口縁片	小片	—	(4.1)	—	使用による二 次焼成あり 黒変	比較的精緻 微砂粒・ 反射微粒が混じる	10YR6/4 にぶい黄褐～ 10YR5/2 灰黄褐(黒変)	口縁部：横・口 縁部：斜め・以下：縦主体 口縁部外縁：布目を伴う工具衝突によ る刻目状連続的突文 使用による黒変で黒変する	縦主体のハケメ	反転復元		
31 13 23 12	007	007	007	007 (12ト)レ -126	弥生土器	甕	口縁片	小片	—	(2.3)	—	使用による二 次焼成あり 黒変・炭化物 付着	比較的精緻	10YR5/3 にぶい黄褐～ 10YR4/2 灰黄褐(黒変)	縦ハケメ(6本/cm)→口縁部：指頭 による内外押圧(外面単面に口縁が伴う)	横ハケメ	反転復元		
31 13 24 12	007	007	007	007 (12ト)レ -17, 同18, 同29, 同31, 同32, 同47, 同1一拵, 同サブ一拵	弥生土器	甕	口縁片	20	—	(9.2)	—	使用による二 次焼成あり 黒変・炭化物 付着	やや砂質 微砂粒が多 く混じり硬らに3mm以 下のシャモット状赤 褐色微粒が混じる	10YR4/2 灰黄褐(黒変)～ 10YR6/4 にぶい黄褐 10YR2/1 黒(黒変)	ナデ・工具ナデ→口縁部：内外2方向 の棒状工具押圧による連続的突文(交互 押除)による黒変で黒変し炭化物が混 入する	ナデ・工具ナデ→ヘラミガキ? 使用により器面が磨減する	反転復元		
31 13 25 12	007	007	007	007 (12ト)レ -61	弥生土器	甕	口縁片	10	—	(5.6)	—	使用による二 次焼成あり 黒変・炭化物 付着	砂質・1mm以下の砂粒 (石英・長石・チャート 等)・スコリア状褐色微 粒が少量に混じる	10YR6/4 にぶい黄褐～ 10YR4/2 灰黄褐(黒変)	縦主体のハケメ(13本/cm)→口縁部： 外1方向の布目を伴う工具もしくは粗 原体衝突による連続的突文 使用による黒変で黒変し炭化物が混 入する	口縁部：横主体のハケメ	反転復元		
31 14 26 12	007	007	007	007 (12ト)レ-5	弥生土器	甕	体部片	10	—	(5.1)	—	普通	比較的精緻 微砂粒・ 反射微粒・スコリア状 褐色微粒が混じる	10YR7/4 にぶい黄褐	口頸部下縁接合痕を段状に残す 縦主体の工具ナデ→段部：ヘラミガキ刺 突による連続的突文(幅5mm前後) (一 部に布目状圧痕が伴う)	横工具ナデ→上位：ヘラミガキ	反転復元		
31 14 27 12	007	007	007	007 (12ト)レ -103, 同 同サブ一拵	弥生土器	鉢	口縁片	20	—	(4.3)	—	二次焼成あり 黒変	砂質 1mm以下の砂粒 (石英・長石・チャート 等)・スコリア状褐色微 粒が少量に混じる	2.5Y6/3 にぶい黄～ 2.5Y5/2 暗灰黄	密なヘラミガキ 被熱により器面が荒れ一部が剥 落する	横工具ナデ→上位：ヘラミガキ	反転復元		
31 14 28 12	007	007	007	007 (12ト)レ -80	弥生土器	甕(脚版 用品?)	口縁片	10	—	(5.6)	—	二次焼成あり 黒変	やや砂質 微砂粒(石 英・長石・チャート等) スコリア状褐色微粒が 多少混じる	10YR3/1 黒褐(黒変)～ 10YR7/4 明黄褐	口縁を肥厚し下縁接合痕を段状に残す ナデ・横工具ナデ 被熱により器面の剥落が著しい	横ヘラミガキ(赤彩は不明)	反転復元		
31 14 29 30	011	011	011	011 (30ト)レ-1	弥生土器	壺	体部片	10	—	(3.1)	—	普通	比較的精緻 スコリア 状褐色微粒・バミス状 淡黄色微粒が目立つ	7.5YR6/6 橙～ 7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部：横ハケメ(4本/5mm)→ ヘラミガキ 以下：横ヘラミガキ	縦主体の工具ナデ(工具幅1cm →)→上位：やや疎らな横ヘラ ミガキ	反転復元		
31 14 30 30 30 12	011	011	011	011 (30ト)レ-2	土師器	鉢	口縁片	10	—	(2.8)	—	普通	比較的精緻 微砂粒・ スコリア状褐色微粒が 混じる	5YR5/4 にぶい赤褐～ 5YR4/2 灰褐	口縁部：横ハケメ(4本/5mm)→ ヘラミガキ 以下：横ヘラミガキ	縦主体の工具ナデ(工具幅1cm →)→上位：やや疎らな横ヘラ ミガキ	反転復元		
31 14 31 30 011	011	011	011	011 (30ト)レ -33	土師器	小甕鉢	口縁片	10	—	(2.9)	—	普通	精緻 スコリア状褐色 微粒が混じる	7.5YR6/6 橙～ 10YR5/3 にぶい黄褐	口縁部：横ハケメ(4本/5mm)→ ヘラミガキ 以下：横ヘラミガキ	縦主体の工具ナデ→横ヘラミガキ →疎らな横ヘラミガキ	反転復元		
31 14 32 30 30 12	011	011	011	011 (30ト)レ-拵	弥生土器	壺	体部片	小片	—	(2.7)	—	普通	比較的精緻 スコリア 状褐色微粒が混じる	2.5YR3/4 暗赤褐(赤彩) ～ 10YR5/3 にぶい黄褐	無断RS文字刻印的突文(2個1対)→ 以下：赤彩・横ヘラミガキ	横工具ナデ	反転復元		
31 14 33 30 011	011	011	011	011 (30ト)レ -32	弥生土器	壺	体部片	小片	—	(3.8)	—	二次焼成あり 黒変	比較的精緻 スコリア 状褐色微粒が混じる	10YR4/2 灰黄褐(黒変)～ 10YR3/1 黒褐(黒変) 10R4/4 赤褐(赤彩)	口縁部：横ハケメ(4本/5mm)→ ヘラミガキ 以下：横ヘラミガキ	縦主体の工具ナデ(工具幅1cm →)→上位：やや疎らな横ヘラ ミガキ	反転復元		

種 類 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 No.	遺 物 注 記	種 別	器 種	部 位	取 遺 存	寸 法 cm			焼 成	胎 土	色 調			特 徴		備 考
										口 径	器 高	底 径			外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	
31	14	34	30	30	トレ-9, 30トレ-11, 30トレ-19, 30トレ-拵サブ	弥生土器	壺	体部片	10			二次焼成あり 黒変	比較的精緻 スコリア 状褐色微粒が混じる	10YR3/2黒褐(黒変)～ 10YR6/4にぶい黄褐～ 2.5YR4/6赤褐(赤彩)	7.5YR6/6 橙～ 7.5YR4/2 灰褐		肩部：車筋 LR・RL 横回転による羽状網 文の下を無筋 RS 字状回転網文(2個 1対)で画す→羽状網文中位に植物茎状 工具押圧による凹形刺突列(径4mm) →車筋 RL 斜行帯による連続山形文を枕 線で画す→文様間：赤彩・ヘラミガキ	横主体の工具ナデ		
31	14	35	30	011	011 (30トレ) -24、同26	弥生土器	壺	体部片	10			二次焼成あり 黒変	比較的精緻 スコリア 状褐色微粒が混じる	10YR3/2黒褐(黒変)～ 10YR6/4にぶい黄褐～ 10R4/6赤(赤彩)	7.5YR6/6 橙～ 10YR3/1黒褐(黒変)		体部中位：車筋 RL 斜行帯による連続山 形文をヘラ描き社線で区画す→車筋 RL 横回転の上下を無筋 RS 字状回転網 文(1個1対)で区画す→RL 横帯上 に植物茎状工具押圧による凹形刺突列 (5個程度1組か)→車筋 RL 斜行帯をヘ ラ描き社線が区画する→文様間：赤彩・ ヘラミガキ	横主体の工具ナデ		
31	14	36	30	30	トレ-拵サブ	弥生土器	壺	体部片	小片			普通	比較的精緻	10YR7/4にぶい黄褐～ 10R4/6赤(赤彩)	7.5YR7/6 橙		車筋 RL 斜行帯をヘラ描き社線で画す→ 文様間：赤彩・ヘラミガキ	横工具ナデ		
31	14	37	30	011	011 (30トレ) -28、同36	土師器	壺	体部片	30			普通	比較的精緻 微砂粒・ スコリア状褐色微粒が 混じり疎らに2mm以下 の砂粒(石英・長石等) が含まれる	5YR4/6 赤褐～ 2.5YR4/4にぶい赤褐	2.5YR4/6 赤褐～ 2.5YR4/4にぶい赤褐		上半：右上がり～斜めハケメ(7本/ cm)→下半：横～左上がりのハケメ(12 本/cm)→やや疎らな横ヘラミガキ (接合痕は消えきらない)	横工具ナデ(工具幅1.8cm～) →肩筋：指節正理の目立つナデ (接合痕は消えきらない)	反転復元	
31	14	38	30	011	011 (30トレ) -35	土師器	鉢	口縁片	10			二次焼成の可 能性あり 黒変	比較的精緻 微砂粒・ 1mm以下のスコリア状 褐色微粒が混じる	10YR5/2 灰黄褐(黒変)～ 5YR5/6 橙			横ハケメ(4本/5mm)→横工具ナデ→ ヘラミガキ(口縁付近：横、以下： 放射状)	ナデ・工具ナデ→やや疎らな横ヘラミガキ 放射状	反転復元	
31	14	39	30	011	011 (30トレ)-9	土師器	炉器台	脚座部片	20			二次焼成の可 能性あり 赤変	比較的精緻 2mm以下 のシャモット状暗赤褐 色微粒が混じる	5YR4/6 赤褐～ 2.5YR5/6 明赤褐			横ハケメ(4本/5mm)→横ヘラミガキ →疎らな横ヘラミガキ	横ヘラミガキ→疎らな横ヘラミガキ 放射状	受部の可能 性もある 反転復元	
31	14	40	30	011	011 (30トレ) 7、同20 同上器一拵	土師器	高杯	脚座部片	30			使用・破片化 後の二次焼成あり 黒変	比較的精緻 1mm以下 のスコリア状褐色微粒・ シャモット状暗赤褐色 微粒が混じる	2.5YR5/6 明赤褐(赤彩?) 10YR6/4にぶい黄褐～ 10YR3/1黒褐(黒変)	7.5YR6/6 橙～ 10YR3/1黒褐(黒変)		ハケメ→凹形透孔(径1.2cm)3方均等 配置の横ヘラミガキ(赤彩が伴う可 能性あり)	横ヘラミガキ(口縁部) →疎らな横ヘラミガキ	反転復元	
31	14	41	30	011	011 (30トレ) 5、同13、同25	弥生土器	甕	底部	60			使用・破片化 後の二次焼成あり 黒変	比較的精緻 1mm以下 のスコリア状褐色微粒・ シャモット状暗赤褐色 微粒が混じる	7.5YR6/6 橙～ 5YR4/3にぶい赤褐(赤変)	2.5YR4/3にぶい赤褐(赤 変)～2.5YR4/6 赤褐		底部付近：ヘラミガキもしくは工具ナデ →横ヘラミガキ	ナデ・工具ナデ→ヘラミガキ? (不 鮮明)	反転復元	
31	14	42	30	012	012 (30トレ)-1	土師器	甕	底部	20			二次焼成あり 黒変	比較的精緻 2mm以下 のスコリア状褐色微粒 が多く混じる	7.5YR3/2 黒褐(黒変)～ 10YR6/4にぶい黄褐	2.5YR4/4にぶい黄褐 7.5YR3/1黒褐		底部付近：指ナデ→以上：工具ナデ 被熱のため底部の剥落が認め られる	底筋：指ナデ→以上：工具ナデ 被熱のため底部の剥落が認め られる	反転復元	
31	14	43	12	015	015-2	弥生土器	甕	口縁片	小片			使用による二 次焼成あり 黒変	比較的精緻 反射微粒 が目立つ	10YR5/2 灰黄褐(黒変)～ 10YR4/2 灰黄褐	10YR7/4にぶい黄褐		横～斜めのナデ、工具ナデ→口縁部 内外2方向の棒状工具押圧による連続網 英文(交互押捺)	横ヘラミガキ(口縁部) が厚い? (味になる)→横ヘラミ ガキ?	反転復元	
31	14	44	12	015	015-1	弥生土器	壺	口縁片	10			普通	比較的精緻 スコリア 状褐色微粒が混じる	10YR6/4にぶい黄褐 7.5YR6/4にぶい黄褐	10YR7/4にぶい黄褐 7.5YR6/4にぶい黄褐		車筋 RL・LR・RL 横回転(端面：RL 方) (糸間が空いている)	ナデ、横工具ナデ		
31	14	45	12	006	006 (12トレ)-10、 同11、同12、同 15、007 (12トレ) -サブ一拵、007 (12 トレ)-サブ一拵、007 (12 トレ)-サブ一拵、 <同-個体> 006 (12トレ)-4、 同*8、同14	弥生土器	甕	上部片	30			使用・破片化 後の二次焼成 あり 黒変・炭化物 付着	やや砂質 1mm以下の 砂粒(石英・長石・チ ャート、角閃石)・ス コリア状褐色微粒が混 じる	10YR5/2 灰黄褐～ 10YR2/1 黒(黒変) 5YR6/6 橙	10YR6/6 明黄褐～ 10YR3/2 明黄褐(黒変)～ 7.5YR6/6 橙		口縁を棒状に肥厚し下側接合痕を棒状に 現す ナデ、工具ナデ→肥厚部：上下2方向の 棒状工具押圧による連続網英文(交互押 捺)	器面が棒状で(側部最大径以 下が厚い)	反転復元	
31	14	46	12	006	006 (12トレ) -19	土師器	小型鉢	口縁片	20			普通	スコリア状褐色微粒が 多く混じる	10R4/6 赤(赤彩)～ 5YR6/6 橙	10R4/6 赤(赤彩)～ 10YR5/3にぶい黄褐		ナデ→赤彩・ヘラミガキ(不明) 作りかや粗雑で口縁が歪む	ナデ→赤彩・ヘラミガキ	反転復元	
31	10	47	12	006	006 (12トレ) -20	須臾器	平皿	体部	90			普通	精良 1mm以下の黒色 微粒が含まれる	5X6/1 灰～2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		底部付近：車筋 RL 斜行帯による連続山 形文をヘラ描き社線で区画す→車筋 RL 横回転の上下を無筋 RS 字状回転網 文(1個1対)で区画す→RL 横帯上 に植物茎状工具押圧による凹形刺突列 (5個程度1組か)→車筋 RL 斜行帯をヘ ラ描き社線が区画する→文様間：赤彩・ ヘラミガキ	横主体の工具ナデ	反転復元	
33	14	48	17	17トレ	17トレ-拵	弥生土器	壺	体部片	小片			普通	比較的精緻 微砂粒・ スコリア状褐色微粒が 混じる	7.5YR7/8 黄褐～ 2.5YR6/6 明赤褐	2.5YR7/8 橙		車筋 RL・LR 横回転による羽状網文 →無筋 RL によるS字状回転網文(3個 1対)	ナデ、工具ナデ	反転復元	
33	14	49	18	18トレ	18トレ-拵	土師器	鉢(高杯)	口縁片	10			普通	比較的精緻 1mm以下のスコ リア状褐色微粒が混 じる	10YR6/4にぶい黄褐～ 10YR3/1黒褐(黒変)	10YR6/4にぶい黄褐～ 10YR3/1黒褐(黒変)		口縁部付近：ヘラミガキ →疎らな横ヘラミガキ	口縁部：ヨコナデ→やや疎らな ヘラミガキ	反転復元	

種目 No.	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	遺物注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm			焼成	粘土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径			その他	外面	内面	外面	
38 14 77 21	016	016 (21トレ) -10、同11、 同12、同13、 同14、同22、 同37、同43、 同アケ土一括			土師器	高杯	下部片	70		16.0?	(14.5)	普通	比較的精緻 1mm 以下の砂粒・スコリア状粒色微粒・シヤモット状暗赤褐色粒が混じり、暗赤褐色粒が混じる	5YR6/6 橙～7.5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙～7.5YR5/6 明赤褐	筒状の脚柱部に杯部を押し込み接合部外周に粘土を付加する(断面3面が目立工具ナデ(脚柱部:縦)→細部:ヨコナデ→赤彩(横:ハラムミガキ)杯部:工具ナデ)	杯部:工具ナデ 脚柱部:縦ヘラケズリ(1/4分) (後 会皿は下から上になでつけられるが脚柱に混る) 細部:ヨコナデ	一部反転復元
38 10 78 21	016	016 (21トレ) -17、20、21、 23、25、30			土師器	高杯	脚部	80		16.7	(12.8)	普通	比較的精緻 微砂粒・2mm 以下のシヤモット状暗赤褐色粒が混じり、海綿質が目立つ	10YR5/3 に近い、黄褐～5YR5/6 明赤褐	10YR5/3 に近い、暗褐～5YR5/6 明赤褐	杯部が若干内腔気味に作られる 脚柱部:縦ヘラケズリ(後台皿が自立?) 細部:縦ヘラケズリ(一部が赤い)粒部に及ぶ? (一部が赤い)	充填挿入接合(充填部以上脱落) 脚柱部:縦ヘラケズリ(後台皿が自立?) 細部:ヨコナデ	
38 14 79 21	016	016 (21トレ) -5			土師器	高杯	杯部	20		(4.4)	(4.4)	二次焼成の可能性あり 黒変	比較的精緻 微砂粒・2mm 以下のシヤモット状暗赤褐色粒が混じり、海綿質が目立つ	7.5YR5/4 に近い、黄褐～7.5YR6/4 に近い、黄褐	7.5YR5/4 に近い、黄褐～7.5YR6/4 に近い、黄褐	杯部脚柱接合部が大きく垂下する ナデ→杯部1線・斜めの工具ナデ(工具幅 1.2cm →) 縦線のために全体的に黒変する	縦~斜めの工具ナデ	反転復元
38 14 80 21	016	016 (21トレ) -6、同7、同8、 同41、 同アケ土一括			土師器	高杯	杯部	20		(5.0)	(5.0)	普通	比較的精緻 微砂粒・スコリア状粒色微粒・2mm 以下のシヤモット状暗赤褐色粒が混じる	7.5YR6/6 橙～5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/6 橙～5YR5/6 明赤褐	中腰状の底面の外周上面に接合し杯部が形成される ナデ・斜めの工具ナデ(1.1cm →) ナデ・斜め工具ナデ(縁が若干垂下する) 赤彩の可能性あり	縦~斜めの工具ナデ 杯部:斜めの工具ナデ(工具幅 1.1cm →) 赤彩の可能性あり	反転復元

海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)その他観察表

種目 No.	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	遺物注記	種別	材質等	その他	寸法 cm			重量 g	特徴
								長軸	短軸	高さ(厚)		
25 13 14 1	001	001 (1トレ) -一括			有孔球状土製品	土器と同様で比較的精緻		2.5	1.6	1.0	3.7	直径 2.5cm 前後のほぼ球形で中心を直径 8mm の円孔が貫通する土製品の一部。貫通孔壁には回底穿孔の横向き隆起が認められる。表面はナデにより平滑に仕上げられる。脚部がほぼ円形を呈する土製品。杯状で縁がカーブする。両端を交差しした勾玉形状。
38 14 58 13	大塚盛土内	13トレ-盛土一括			土製品(勾玉形?)	土器と同様で比較的精緻		2.2	1.6	1.1	2.8	脚部等の一部が、一部に整形された広面が遺存する。高温を受け赤変・黒変する。
38 14 60 1	大塚盛土内	002 (1トレ) -一括			銅造関係土製品	微砂粒が多く混じる焼成粘土		4.5	4.0	3.7	38.4	銅造関係遺物か、平田に整形された広面が遺存する。高温を受け赤変・黒変する。焼付高み集裂が目立つ。
38 14 61 1	大塚盛土内	1トレ-6			土製? 鋳型	泥岩もしくは焼成粘土		8.9	5.6	3.0	191.4	高温を受け表面が部分的にガラス質になる。焼け歪み亀裂が走る。
38 14 62 1	大塚盛土内	002 (1トレ) -3			銅造関係土製品	1mm 以下の砂粒が多く混じる焼成粘土		5.0	4.4	4.4	41.0	外周が弧状を呈する(円盤状土製品の一部か)。強い凝熱により赤変し、一部に銅造音が付着する。脚部と面広面の整形面が遺存する。
38 14 63 1	大塚盛土内	1トレ-1、1トレ-7			土製鋳型	微砂粒が多く混じる焼成粘土		10.2	7.0	4.4	262.3	縁が鋭角を呈する形状の型。異変した銅造脚部と整形された平坦面が認められる。焼成等の土製品の鋳型か、製品の材質は不明だが厚薄が異なる。
38 14 64 1	大塚盛土内	1トレ大塚-16 取下げ			土製鋳型	微砂粒が多く混じる焼成粘土		10.3	8.2	5.6	170.5	銅造関係遺物か。凝熱により赤変し、表面の剥落が進む。底面がゆるい凹面をなす。釘か。鋳化が進み部分的に剥離する。銅造音が目立つ。
38 14 65 1	大塚盛土内	002号(1トレ) -2			銅造関係土製品	微砂粒が多く混じる焼成粘土		8.0	5.4	3.2	130.5	銅造関係遺物か。凝熱により赤変し、表面の剥落が進む。底面がゆるい凹面をなす。釘か。鋳化が進み部分的に剥離する。銅造音が目立つ。
38 14 66 1	大塚盛土内	002号(1トレ) -4			棒状鉄製品	鉄		5.1	1.2	0.8	5.0	釘か。鋳化が進み部分的に剥離する。銅造音が目立つ。
38 14 71 31	016	016 (31トレ) -土器石一括			打製石高脚片	頁岩		3.3	2.7	0.9	7.5	釘か。鋳化が進み部分的に剥離する。銅造音が目立つ。



福増中ノ台遺跡 調査前全景



福増中ノ台遺跡 1トレンチ竪穴建物跡断面



福増中ノ台遺跡 5・6トレンチ



福増中ノ台遺跡 7トレンチ東半



姉崎台遺跡 調査全景・鶴窪古墳遠景(南)



姉崎台遺跡 5トレンチ土坑検出状況



姉崎台遺跡 9トレンチ遺構検出状況



姉崎台遺跡 3・11・18トレンチ(南から)



郡本遺跡群・市原古道遺跡 調査前全景 (東から)



郡本遺跡群・市原古道遺跡 2トレンチ



郡本遺跡群・市原古道遺跡 4トレンチから全景



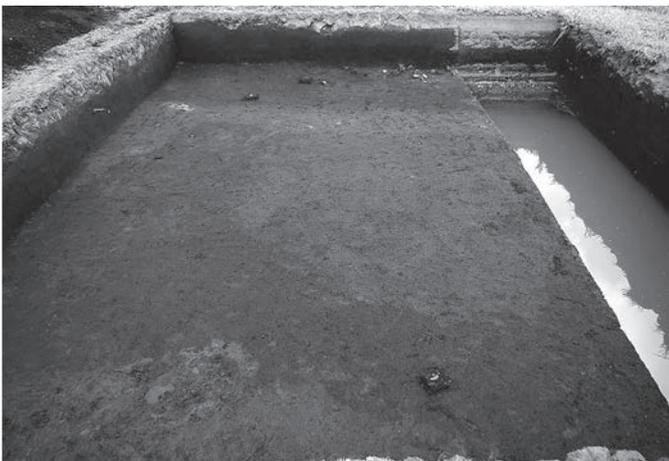
郡本遺跡群・市原古道遺跡 6(右)・7トレンチ(左)



柏原遺跡群 6トレンチ



柏原遺跡群 13トレンチ南断面



柏原遺跡群 15トレンチ拡張部遺物出土状況



柏原遺跡群 15トレンチ遺物出土状態



海保大塚 (南から)



海保大塚 (東から)



海保大塚東辺 (南から)



1トレンチ・001号断面 (墳丘側)



1トレンチ・001号断面 (外堤部側)



1トレンチ外堤部断面



1トレンチ塚盛土下層遺物出土状況



3トレンチ・001号断面



4トレンチ



7トレンチ・001号断面



5-6トレンチ・001・010号断面



5-6トレンチ東壁墳丘盛土断面



5-6トレンチ墳丘断面



13トレンチ・墳丘・001号断面



13トレンチ墳丘盛土断面



13トレンチ西壁墳丘盛土断面



9トレンチ・001号断面



10トレンチ・001号断面



8トレンチ・001号断面



30トレンチ・011・012号断面



11 トレンチ南西壁・001号・塚盛土断面



12 トレンチ南東部



12 トレンチ・007号遺物出土状況



12 トレンチ・007号



12 トレンチ・006号



12 トレンチ・015号



29トレンチ・001号断面



14トレンチ・001号断面



15トレンチ（外堤部）



16トレンチ（外堤部切通し）



17トレンチ（外堤部）



2トレンチ（外堤部）



18トレンチ（外堤部）



25トレンチ北部



25トレンチ中部



27トレンチ



28トレンチ



三山塚（北西から）



三山塚（北東から）



19トレンチ・016号・三山塚（北から）



31トレンチ・016号断面



20トレンチ



21トレンチ・016号・三山塚（西から）



22トレンチ・016号



22トレンチ・021号



塚（北西から）



塚（南から）



23トレンチ



24トレンチ



姉崎台遺跡(2トレ)-4



姉崎台遺跡(10トレ)-71



海保大塚(大塚盛土内)-52



姉崎台遺跡(2トレ)-5



姉崎台遺跡(11トレ)-75



海保大塚(016号)-72



姉崎台遺跡(3トレ)-15



海保大塚(007号)-17



海保大塚(016号)-73



姉崎台遺跡(17トレ)-64



姉崎台遺跡(21トレ)-68

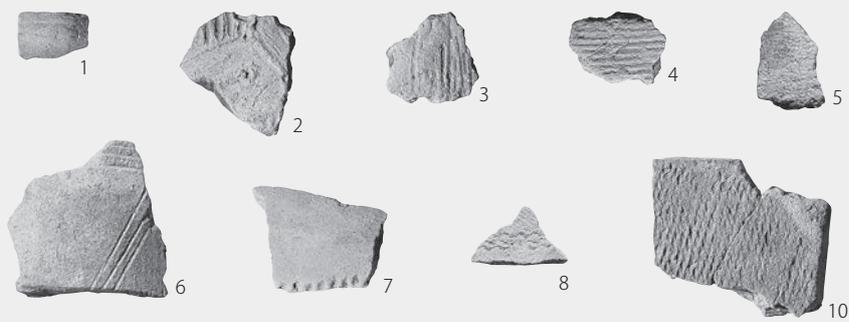


海保大塚(006号)-47

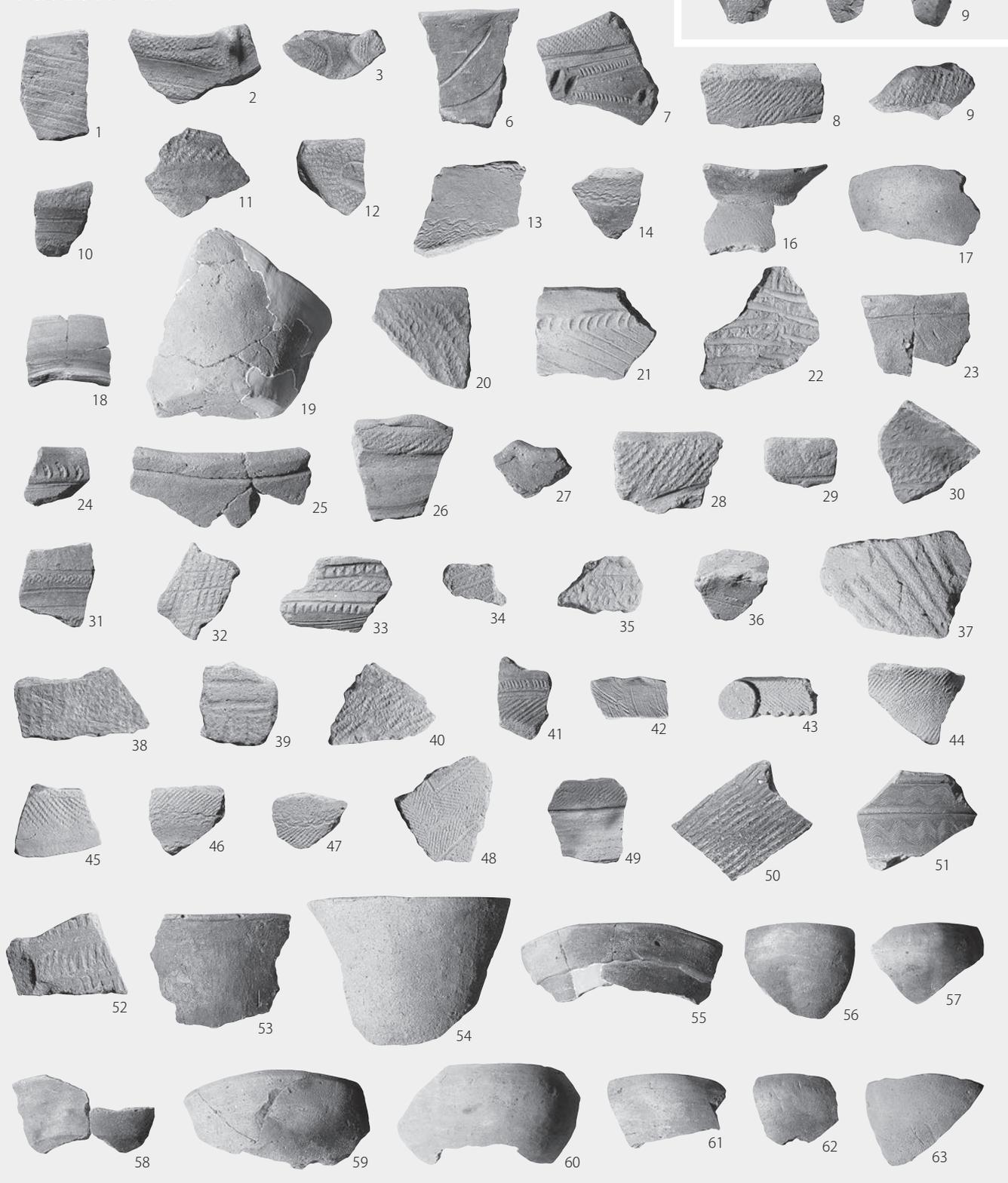


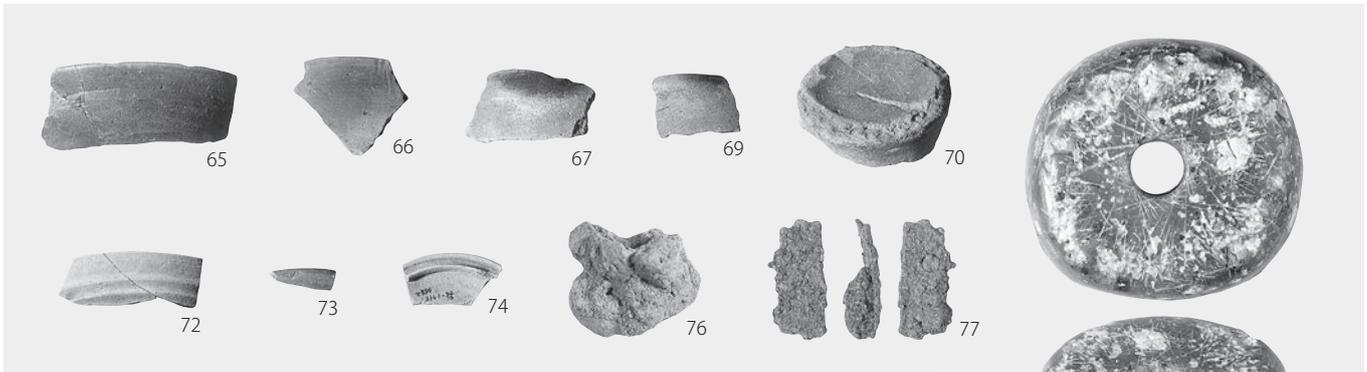
海保大塚(016号)-78

福増中ノ台遺跡

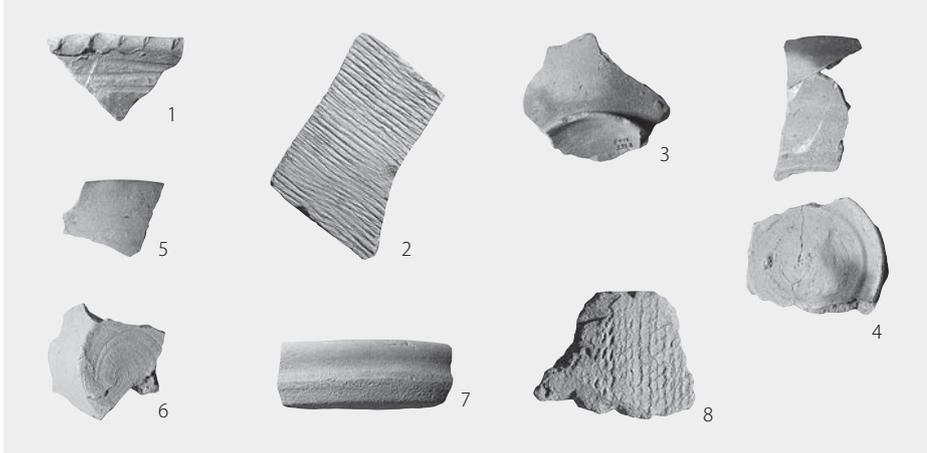


姉崎台遺跡（第2地点）

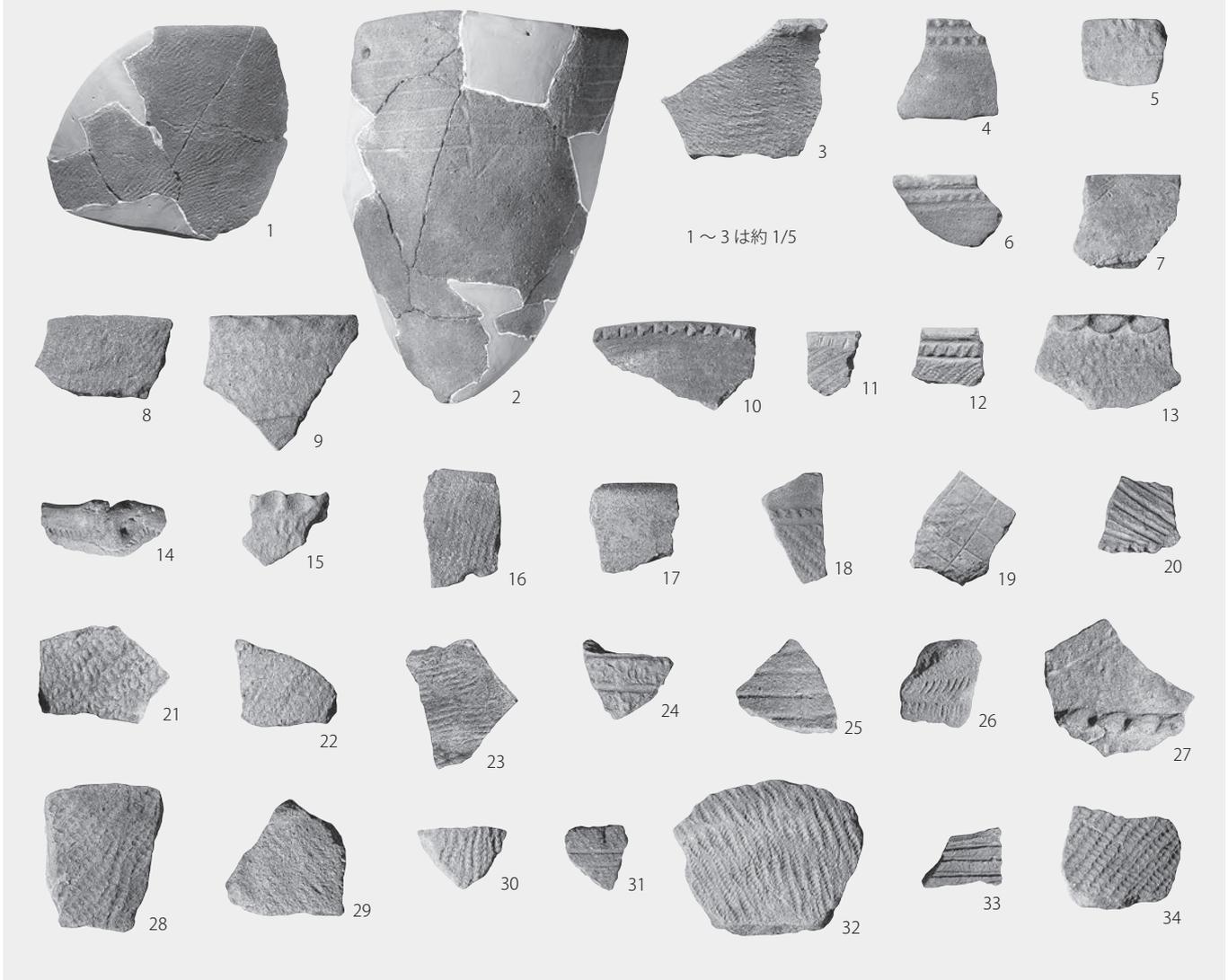


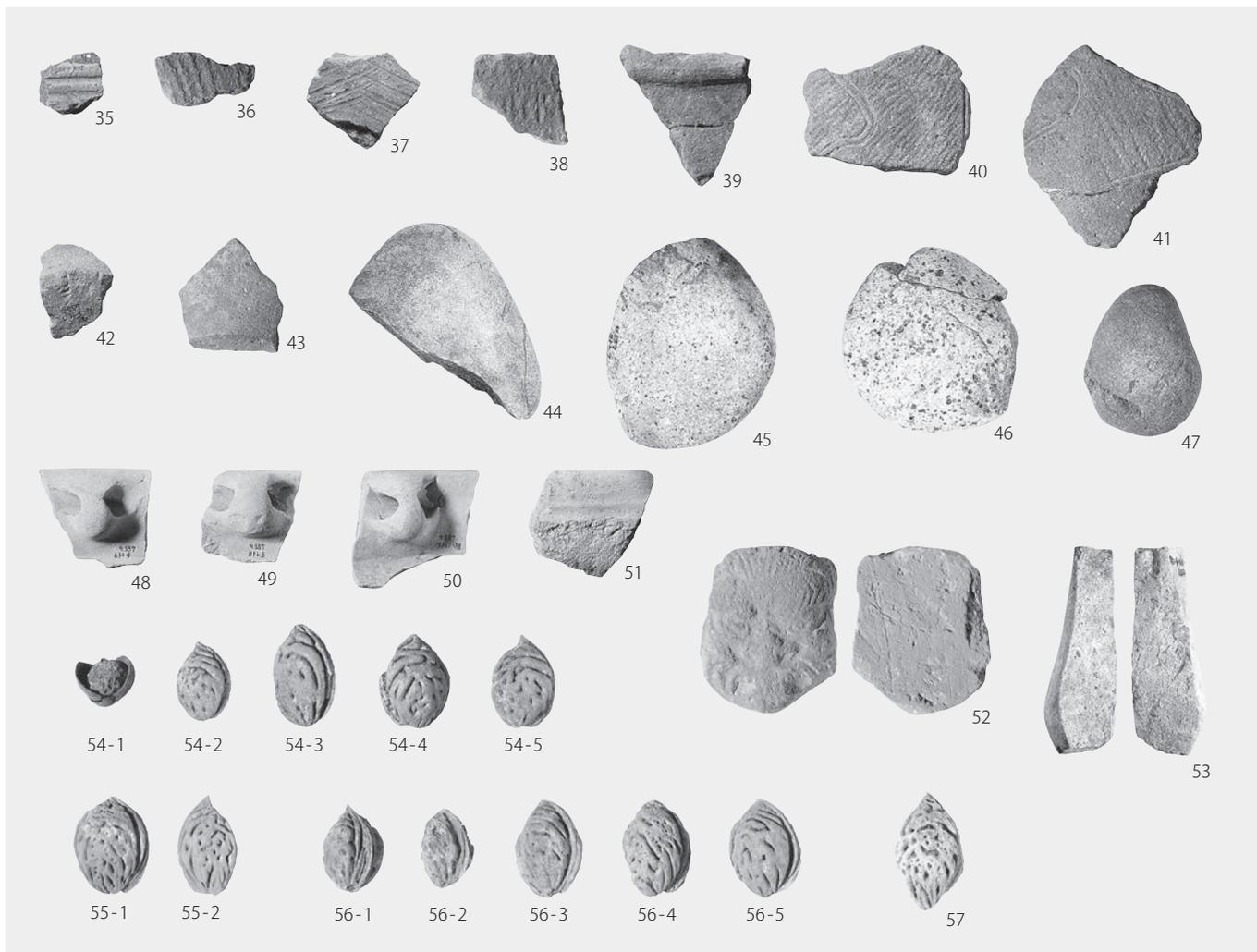


郡本遺跡群（第23次）・市原古道遺跡

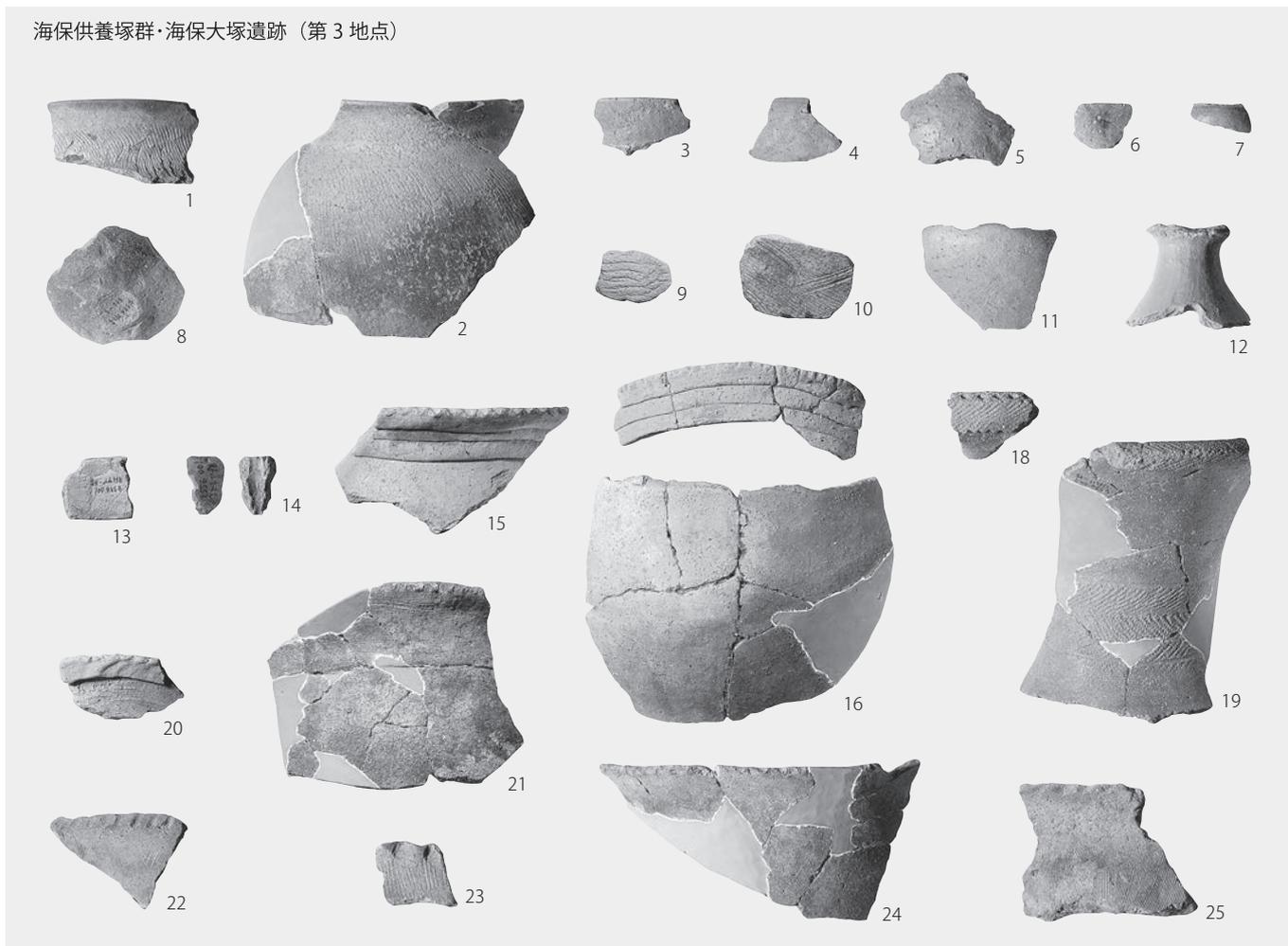


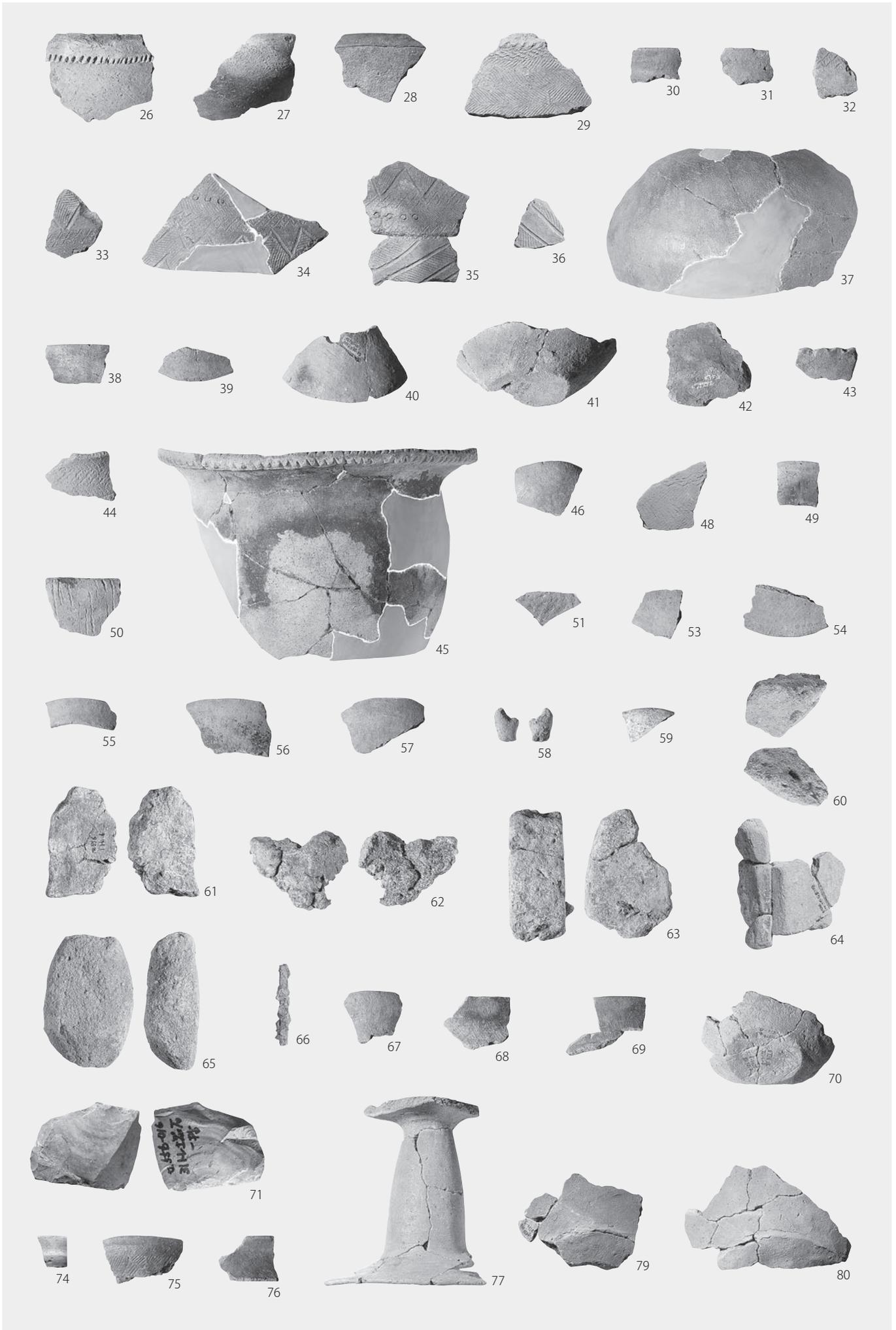
柏原遺跡群（第2地点）





海保供養塚群・海保大塚遺跡 (第3地点)





報告書抄録

ふりがな	へいせい 29 ねんどいちはらしないいせきはくつちょうさほうこく							
書名	平成 29 年度市原市内遺跡発掘調査報告							
副書名	福増中ノ台遺跡、姉崎台遺跡(第 2 地点)、郡本遺跡群(第 23 次)・市原古道遺跡、柏原遺跡群(第 2 地点)、海保供養塚群・海保大塚遺跡(第 3 地点)(重要遺跡確認調査)							
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第 43 集							
編著者名	小橋健司・近藤 敏							
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)							
所在地	〒 290-0011 千葉県市原市能満 1489 番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2018 年(平成 30 年)3 月 23 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ふくすななかのだいいせき 福増中ノ台遺跡	ちばけんいちはらしふくす 千葉県市原市福増 123 番 2 ほか	12219	587	35° 28' 21"	140° 08' 41"	20170201 ～ 20170216	75 m ² / 2,406 m ² (確認調査)	既設最終処分場 展開検査場の設置
あねさきだいいせき(だい 2 ちてん) 姉崎台遺跡(第 2 地点)	ちばけんいちはらしあねさき 千葉県市原市姉崎 2922 番 1 ほか	12219	330	35° 28' 19"	140° 03' 04"	20170522 ～ 20170614	187 m ² / 1,873.39 m ² (確認調査)	宅地造成
こおりもといせきぐん(だい 2 ちてん)・ 郡本遺跡群(第 23 次)・ いちはらこどういせき 市原古道遺跡	ちばけんいちはらしふじい 千葉県市原市藤井 2 丁目 171 の一部ほか	12219	793 396	35° 30' 31"	140° 07' 25"	20170615 ～ 20170629	122.5 m ² / 1,036.81 m ² (確認調査)	集合住宅建設
かしわばらいせきぐん(だい 2 ちてん) 柏原遺跡群(第 2 地点)	ちばけんいちはらしかしわばら 千葉県市原市柏原 あざかわだ 字川田 283 番 1 ほか	12219	689	35° 29' 05"	140° 03' 53"	20170801 ～ 20170830	488.5 m ² / 4,922.87 m ² (確認調査)	幼稚園建設
かいほくようづかぐん・かいほおつかいせき 海保供養塚群・海保大塚遺跡 (だい 3 ちてん) (第 3 地点)	ちばけんいちはらしかいほ 千葉県市原市海保 あざおつか 字大塚 1581 番ほか	12219	357 1083	35° 28' 20"	140° 04' 06"	20170703 ～ 20171004	450 m ² / 11,908 m ² (確認調査)	遺跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
福増中ノ台遺跡	包蔵地、集落跡	縄文時代、 弥生時代	縄文時代早期炉穴 1 基・土坑 6 基、弥 生時代後期竪穴建物跡 1 棟・土坑 1 基		縄文土器、弥生土器、 奈良・平安時代布目瓦		南西 300 m に武士遺跡が存在するが、支谷を 隔てた別の弥生時代集落跡と考えられる。	
姉崎台遺跡(第 2 地点)	包蔵地、集落跡	弥生時代、 古墳時代	弥生時代後期竪穴建物跡 6 棟・方形周溝 墓 1 基・土坑 5 基、古墳時代竪穴建物跡 6 棟・掘立柱建物跡 1 棟・溝状遺構 2 条・ 土坑 7 基、中世溝状遺構 1 条		縄文土器、弥生土器、 古墳時代土師器・須恵 器		姉崎台遺跡既調査地点に隣接し、西方 250 m に姉崎宮山遺跡、南方向 100 m に鶴窪古墳が 存在する。姉崎古墳群の範囲にある弥生時代か ら古墳時代の拠点集落跡と見られる。	
郡本遺跡群(第 23 次)・ 市原古道遺跡	包蔵地、集落跡、 官衙跡、生産遺跡、 道路跡	奈良・平安 時代、近世	近世土坑 7 基、近世以降溝状遺構 1 条		縄文土器、奈良・平安 時代土師器・須恵器		市原古道推定地であるが、調査区全域が近世以 降に削平を受け、検出されなかった。	
柏原遺跡群(第 2 地点)	包蔵地	縄文時代、 近世	縄文時代後期包舎層 1 か所、近世以降溝 状遺構 2 条		縄文土器、近世陶器		砂丘上に加曾利 B I 式期の遺物包舎層を検出し た。調査区内では居住域は未検出である。	
海保供養塚群・海保大塚遺跡 (第 3 地点)	包蔵地、塚	縄文時代、 弥生時代、 古墳時代、 近世	弥生時代後期竪穴建物跡 6 棟、古墳時代 前期建物跡 1 棟、古墳時代中期円墳 2 基・ 円墳周溝 1 条、古墳時代溝状遺構 2 条・ 土坑 1 基、近世溝状遺構 3 条・土坑 2 基		縄文土器・焼割礫、弥 生土器、古墳時代土師 器・須恵器		海保大塚は墳丘直径 60 m、周溝外周直径 83 m の大型円墳が近世に六角形 6 段の塚に改変さ れたことを確認した。三山塚下層にも墳丘直径 24 m の円墳を確認した。古墳群下層から弥生 時代後期以降の集落跡を検出した。	
要約	<p>今年度は、市内に所在する 6 遺跡について発掘調査を行った。このうちの 4 遺跡に昨年度調査分の 1 遺跡を加えて、5 遺跡を報告した。福増中ノ台遺跡は大規模重複遺跡の武士遺跡に隣接し、弥生時代後期集落の広がりを確認した。姉崎台遺跡(第 2 地点)は鬼子母神貝塚の西側にあたり、遺構は未検出だが縄文土器が比較的多く出土した。弥生時代後期には集落が形成され古墳時代に継続して、姉崎古墳群分布域内の拠点集落になると推測される。郡本遺跡群(第 23 次)・市原古道遺跡は、調査区東側が近世以降に大きく削平を受け古道跡は検出されなかった。都衙推定地と古代道路の関係については今後の課題となった。柏原遺跡群(第 2 地点)は、養老川河口地域の縄文時代中期以降に形成された砂丘帯上に立地する。縄文時代後期中葉の遺物がまともな凹地から検出され、縄文後期には生業拠点の存在したことが判明した。海保供養塚群・海保大塚遺跡(第 3 地点)は、遺跡整備のための重要遺跡確認調査である。供養塚群のうち海保大塚と三山塚は古墳を改変したものであることが確認された。海保大塚下層古墳は直径が 60m を超える大型円墳であり、古墳時代前期末から中期初頭に築造されたものと推定される。古墳群下層には弥生時代後期以降の竪穴建物跡が検出され、集落跡の広がりが想定できる。</p>							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第43集

平成29年度 市原市内遺跡発掘調査報告

平成30年3月23日 発行

編 集 市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436(41)9000

発 行 市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436(22)1111

印 刷 株式会社 弘 文 社
千葉県市川市市川南2-7-2
TEL 047(324)5977